

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年2月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持改善事業(フィーダー)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
糸島市地域公共交通 会議	糸島市地域公共交通会議	コミュニティバスの運行 (白糸線)	バス路線を維持していくため、沿線住民への情報提供や利用啓発、ダイヤ等の見直しを必要に応じて実施する。	A	A	定時定路線バス時間帯等の利用状況を注視し、ダイヤ改正等により、収支の改善を図る。	・評価の指標は、路線別の利用者数と収支率。 ・公共交通マップのHP上での情報提供やバス停におけるベンチの設置等の待ち環境の整備等、路線毎の細やかなダイヤ等の見直しによる利便性向上の取組を着実に実施されていることを評価します。 また、自治会や民生委員、交通事業者と協力しながら、利用促進の取組を実施されていることも評価します。 ・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうなのか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。	
		コミュニティバスの運行 (雷山線)	オンデマンドバス運行時間帯以外の運行は、利用状況を踏まえながら、問題点の改善(ダイヤ改正等)を図り、更なる利便性の向上と収支の改善を図る。	A	C	定時定路線バス時間帯等の利用状況を注視し、ダイヤ改正等により、収支の改善を図る。	・「⑤目標・効果の達成状況」について、目標達成出来ない系統については、利用者層の属性や利用者増減の背景等に着目するなど、系統ごとにその特性を丁寧に分析した上で、目標達成に向けた来年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。 また、目標を達成した系統についても達成要因を分析を行っていただき、地域の日常的な利用需要の安定的な増加を期待します。	
		コミュニティバスの運行 (曾根線波多江経由)	オンデマンドバス運行時間帯以外の運行は、利用状況を踏まえながら、問題点の改善(ダイヤ改正等)を図り、更なる利便性の向上と収支の改善を図る。	A	B	オンデマンドバス運行時間帯以外の運行については、利用状況を踏まえながら、問題点の改善(ダイヤ改正等)を図り、更なる利便性の向上と収支の改善を図る。	・あわせて評価指標の「収支率」は、改善(上昇)の方向だけを指すのではなく、物価上昇の影響や公共交通の公益性を鑑みつつ、全体のバランスの中で目標値を設定するよう努めていただくことを期待します。	
		コミュニティバスの運行 (曾根線有田経由)	オンデマンドバス運行時間帯以外の運行は、利用状況を踏まえながら、問題点の改善(ダイヤ改正等)を図り、更なる利便性の向上と収支の改善を図る。	A	B	オンデマンドバス運行時間帯以外の運行については、利用状況を踏まえながら、問題点の改善(ダイヤ改正等)を図り、更なる利便性の向上と収支の改善を図る。	・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。	
		コミュニティバスの運行 (井原山線)	オンデマンドバス運行時間帯以外の運行は、利用状況を踏まえながら、問題点の改善(ダイヤ改正等)を図り、更なる利便性の向上と収支の改善を図る。	A	B	オンデマンドバス運行時間帯以外の運行については、利用状況を踏まえながら、問題点の改善(ダイヤ改正等)を図り、更なる利便性の向上と収支の改善を図る。		
		コミュニティバスの運行 (川原線)	オンデマンドバス運行導入に向け、自治会等と協力して、会員登録及び定時定路線バスの利用の促進を図る。	A	A	令和7年10月からオンデマンドバスの実証運行を行う。 自治会等と協力して、会員登録と利用を促進し、オンデマンドバス運行時間帯以外の運行については、利用状況を踏まえながらダイヤ改正等により、更なる利便性の向上と収支の改善を図る。		
		コミュニティバスの運行 (前原北原線)	沿線住民への情報提供や利用啓発を行う。また、路線短縮に伴う利用状況を検証し、ダイヤの見直し等を適宜実施し、収支改善を図る。	A	A	沿線住民への情報提供や利用啓発と共に、利用状況等を見ながら、ダイヤなどの見直しを適宜必要に応じて実施することにより、収支の改善を図る。		
		コミュニティバスの運行 (九大線泊・油比経由)	公共交通マップ等情報提供による啓発等を事業として、利用者の利便性向上と利用促進を目指し、国際村構想の進捗状況等を踏まえ、便数や路線の検討を行い、収支改善を目指す。	A	A	公共交通マップ等情報提供による啓発等を事業として利便性利用率向上を目指すし、国際村構想の進捗等を踏まえ、便数や路線の検討を行い、収支の改善を図る。		
		コミュニティバスの運行 (初深江線)	公共交通マップ等情報提供による啓発等を事業として、利用者の利便性向上と利用促進を目指した。	A	B	公共交通マップ等情報提供による啓発等を事業として利便性利用率向上を目指す。 また、長距離路線であることから、より効率的な運行路線への見直し等を検討する。		
		コミュニティバスの運行 (産業団地線)	市街地循環線のオンデマンドバス化に伴い、代替補充路線として、令和4年10月から開始した路線。	A	A	公共交通マップ等情報提供による啓発等を事業として利便性利用率向上を目指す。 また、路線の主な利用者である産業団地等の通勤者や企業進出等を踏まえ、増便等のダイヤ改正等の検討を行い、利用者の増加を目指す。		
		コミュニティバスの運行 (篠原線)	市街地循環線のオンデマンドバス化に伴い、代替補充路線として、令和4年10月から開始した路線。	A	C	公共交通マップ等情報提供による啓発等を事業として利便性利用率向上を目指すとともに、利用状況等を踏まえ、より効率的な運行路線となるようダイヤ改正等の検討を行い、必要に応じて実施する。		
		オンデマンドバスの運行 (チョイソコよかまちみらい号) (曾根線・井原山線・雷山線エリア)	令和5年10月から雷山線沿線を運行エリアとして拡大。利用者の声を踏まえながら、課題等を改善するとともに、拡大エリアを中心に自治会等と協力して会員登録と利用を確保を図る。 又、乗合率を高めることにより、効率的な運行につなげ、収支の改善を図る。	A	B	利用者の声を踏まえながら課題等を改善するとともに、自治会等地域住民と協力して、会員登録と利用促進を図る。 又、乗合率を高めることにより、効率的な運行につなげ、収支の改善を図る。		
オンデマンドバスの運行 (チョイソコよかまちみらい号) (市街地循環線エリア)	市街地循環線(定時定路線)を区域運行によるオンデマンドバス化に変更し、令和4年10月から開始した路線。	A	C	利用者の声を踏まえながら課題等を改善するとともに、自治会等地域住民と協力して、会員登録と利用促進を図る。 また、乗合率を高めることにより、効率的な運行につなげ、収支の改善を図る。				

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	二次評価結果 評価結果	
朝倉市地域公共交通 活性化協議会	朝倉市地域公共交通活性化協議会	○運行区間 矢野竹～十文字～甘木市街地	利用者増に向けた、沿線コミュニティへの定期的な利用状況の報告及び広報活動を行った。	A	A	<p>路線毎に沿線コミュニティ組織と運行事業者、市(行政)の三者が一体となって利用者推移を注視しながら、目標値達成のために、朝倉市地域公共交通計画の施策でもある以下の取組(事業改善)を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバス運行に関する認知度の向上及び住民意識の醸成。(出前講座等) ・多様な媒体を活用した広報活動(HP、市報等) ・運行サービス水準の統一基準に基づき、運行便数等の見直し(便数、時間帯、運行日等) ・利用促進及び運行内容の改善に関する三者協議(地域、運行事業者、市)の場を必要に応じ設ける。 	<p>・評価の指標は、路線毎の利用者数。</p> <p>・昨年度に引き続き、沿線コミュニティへの定期的な利用状況の報告及び広報活動等の利用促進に継続的に取り組まれていることを評価します。</p> <p>・「③前回の事業評価結果の反映状況」及び「⑥事業の今後の改善点」については、R5年度から同じ書き振りのままですので、実施した事業に効果があつたのかの定量的な検証・分析を行っていただき、効果的にPDCAが回るような形で自己評価を行っていただきますよう強くお願いします。</p> <p>・「⑤目標・効果の達成状況」については、目標達成出来ていない系統については、利用者層の属性や定期利用減少の背景に着目するなど、系統ごとにその特性を丁寧に分析した上で、目標達成に向けた来年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。</p> <p>また、目標を達成した系統についても詳細に達成要因を分析を行っていただき、地域の日常的な利用需要の安定的な増加を期待します。</p> <p>・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。</p>	
		○運行区間 矢野竹～美奈宜の社地区～甘木市街地	利用者増に向けた、沿線コミュニティへの定期的な利用状況の報告及び広報活動を行った。	A	B			
		○運行区間 馬田地区～甘木市街地	利用者増に向けた、沿線コミュニティへの定期的な利用状況の報告及び広報活動を行った。	A	A			
		○運行区間 織城地区～福田地区～甘木市街地	利用者増に向けた、沿線コミュニティへの定期的な利用状況の報告及び広報活動を行った。	A	B			
		○運行区間 大福地区～金川地区～甘木市街地	利用者増に向けた、沿線コミュニティへの定期的な利用状況の報告及び広報活動を行った。	A	B			
		○運行区間 上秋月地区～安川地区～甘木市街地	利用者増に向けた、沿線コミュニティへの定期的な利用状況の報告及び広報活動を行った。	A	B			
		○運行区間 朝倉・宮野・大庭・福成地区～朝倉地域中心部	利用者増に向けた、沿線コミュニティへの定期的な利用状況の報告及び広報活動を行った。	A	B			
		○運行区間 牟田・宮園～甘木市街地 宮園～杷木地域中心部	利用者増に向けた、沿線コミュニティへの定期的な利用状況の報告及び広報活動を行った。	A	C			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
大牟田市地域公共交通活性化協議会	大牟田市地域公共交通活性化協議会	米の山・黒崎団地線（18番系統） ●西鉄大牟田営業所 ～大牟田駅前～黒崎団地前 ●大牟田駅前～新栄町 ～黒崎団地前 ●新栄町～手鎌～黒崎団地前	【系統の分析(目標達成状況、利用者数、収支率の向上)】 市内及び沿線の人口減少、生活様式の変化等、利用実態に応じた便数の見直しが行われたことにより、利用者がコロナ禍前の7割程度となっているものの、収支率は改善されている。現状利用者の増加を見込むことは難しいため、令和6年度より収支率の改善を目標値として設定する。支出と収入のバランスを考えると、今後も継続して交通事業者と連携し、収支率の向上に努める。 収支率の改善を図るには利用促進の取組が必要であり、交通事業者等と連携しながら以下の取組を行った。 ・おおむね「大蛇山」まつり100円バス、公共交通デジタルスタンプラリーを実施した。 ・おおむね1日乗り放題バスきっぷをデジタルチケットで販売。 ・小学校の低学年を対象にしたバスの乗り方教室を1校で実施した。 ・石炭産業科学館でバス運転手体験会とバス乗車体験を実施した。 ・おおむね産業フスタで公共交通利用促進のPRをおこなった。 ・JR大牟田駅東口、西口及び待合室、JR新大牟田駅待合室にスマートバス停を設置し、利用促進事業等の周知を行うとともに、待合環境改善を図った。 ・スマートバス停等のデジタルサイネージに加えて、公式SNSを活用した利用促進事業の周知を行った。	A	B	生活交通確保維持改善計画に掲げる目標について、「全市民の公共交通等の利用に対する満足度」は上がったものの、「フィーダー補助路線の利用者数」は下がった。利用者数が下がった要因として、本系統において運行の効率化を図るための便数の見直しや沿線の商業施設の閉店の影響があげられる。一方で収支率は向上していることから、運行の効率化や運賃改定の効果があったと思われる。 利用促進策として、令和7年11月に、販売中の1日乗り放題バスきっぷを期間限定100円で販売する取組を実施し、早期に予定枚数300枚が完了した。今回収集したアンケート結果を基にPR施策を実施していきたい。 今後も目標達成のため、利用促進や更なる見直しを交通事業者と連携しながら進める必要がある。	・評価の指標は、全市民の公共交通等の満足度、フィーダー補助系統の利用者数。 ・「おおむね大蛇山まつり」での100円バスや公共交通デジタルスタンプラリー、1日乗り放題のデジタル化等、積極的な利便性向上の取組を着実に実施されていることを評価します。 また、小学生に対するバスの乗り方教室等、現在だけでなく、将来を見据えた利用促進の取組を実施されていることも評価します。 さらに大きな課題である運転手不足に対して、バス運転手体験会等の取組も実施されていることは高く評価します。 ・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)(短期、中長期)、費用対効果はどうなのか等)を行っていただきたい上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを強く期待します。	
		米の山・黒崎団地線（10番系統） ●西鉄大牟田営業所～市立病院 ～普光寺 ●西鉄大牟田営業所～大牟田駅 ～米の山 ●大牟田駅～普光寺 ●大牟田駅～米の山 ●西鉄大牟田営業所～大牟田駅 ～普光寺	【系統の分析(目標達成状況、利用者数、収支率の向上)】 市内及び沿線の人口減少、生活様式の変化等、利用実態に応じた便数の見直しが行われたことにより、利用者がコロナ禍前の7割程度となっているものの、収支率は改善されている。現状利用者の増加を見込むことは難しいため、令和6年度より収支率の改善を目標値として設定する。支出と収入のバランスを考えると、今後も継続して交通事業者と連携し、収支率の向上に努める。 収支率の改善を図るには利用促進の取組が必要であり、交通事業者等と連携しながら以下の取組を行った。 取組については、同上。 取組に加えて、普光寺のバス停で降車の際に配布される抽選券で特産品が当たるイベントを実施した。	A	B	生活交通確保維持改善計画に掲げる目標について、「全市民の公共交通等の利用に対する満足度」は上がったものの、「フィーダー補助路線の利用者数」は下がった。利用者数が下がった要因として、本系統において運行の効率化を図るための便数の見直しの影響があげられる。一方で収支率は向上していることから、運行の効率化や運賃改定の効果があったと思われる。 利用促進策として、令和7年11月に、販売中の1日乗り放題バスきっぷを期間限定100円で販売する取組を実施し、早期に予定枚数300枚が完了した。今回収集したアンケート結果を基にPR施策を実施していきたい。 今後も目標達成のため、沿線の利用者の利用促進に加え、観光地となる普光寺における利用者の利用促進など異なる見直しを交通事業者と連携しながら進める必要がある。	・「⑤目標・効果の達成状況」については、目標達成、未達成の要因は⑥にて分析されており評価できるとともに、更なる深掘りとして、利用者層の属性等に着目した系統ごととその特性等を丁寧に定量的に分析した上で、目標達成に向けた来年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。	
		上官線（16番系統） ●ゆめタウン大牟田～笹林 ～倉船 ●ゆめタウン大牟田～笹林 ～万田坑 ●ゆめタウン大牟田～笹林 ～万田坑	【系統の分析(目標達成状況、利用者数、収支率の向上)】 市内及び沿線の人口減少、生活様式の変化等により利用者がコロナ禍前の7割程度となっており、現状利用者の増加を見込むことは難しいため、令和6年度より収支率の改善を目標値として設定する。支出と収入のバランスを考えると、今後も継続して交通事業者と連携し、収支率の向上に努める。 収支率の改善を図るには利用促進の取組が必要であり、交通事業者等と連携しながら以下の取組を行った。 ・おおむね「大蛇山」まつり100円バス、公共交通デジタルスタンプラリーを実施した。 ・おおむね1日乗り放題バスきっぷをデジタルチケットで販売。 ・小学校の低学年を対象にしたバスの乗り方教室を2校で実施した。 ・石炭産業科学館でバス運転手体験会とバス乗車体験を実施した。 ・おおむね産業フスタで公共交通利用促進のPRをおこなった。 ・JR大牟田駅東口、西口及び待合室、JR新大牟田駅待合室にスマートバス停を設置し、利用促進事業等の周知を行うとともに、待合環境改善を図った。 ・スマートバス停等のデジタルサイネージに加えて、公式SNSを活用した利用促進事業の周知を行った。	A	B	生活交通確保維持改善計画に掲げる目標について、「全市民の公共交通等の利用に対する満足度」は上がったものの、「フィーダー補助路線の利用者数」は下がった。本系統において、利用者数が増加し収支率は向上しており、接続している大型商業施設への出入りの増加や運賃改定の効果があったと思われる。 利用促進策として、令和7年11月に、販売中の1日乗り放題バスきっぷを期間限定100円で販売する取組を実施し、早期に予定枚数300枚が完了した。今回収集したアンケート結果を基にPR施策を実施していきたい。 今後も目標達成のため、交通事業者に加え、沿線のゆめタウン大牟田等の商業施設と連携を図りつつ、利用促進や利用状況に応じた運行の見直し等を進める必要がある。	・また、評価指標の「満足度」については、目標達成しており、高く評価します。なお、達成した要因についても丁寧に分析していただくことを期待します。	
		大牟田市内線（1番系統） ●西鉄大牟田営業所～大牟田駅 ～三池中町 ●西鉄大牟田営業所～大牟田駅 ～久福木団地	【系統の分析(目標達成状況、利用者数、収支率の向上)】 市内及び沿線の人口減少、生活様式の変化等により利用者がコロナ禍前の7割程度となっている。現状利用者の増加を見込むことは難しいため、令和6年度より収支率の改善を目標値として設定する。支出と収入のバランスを考えると、今後も継続して交通事業者と連携し、収支率の向上に努める。 収支率の改善を図るには利用促進の取組が必要であり、交通事業者等と連携しながら以下の取組を行った。 取組については、同上。	A	B	生活交通確保維持改善計画に掲げる目標について、「全市民の公共交通等の利用に対する満足度」は上がったものの、「フィーダー補助路線の利用者数」及び「収支率」は下がった。利用者数が下がった要因として、本系統において運行の効率化を図るための便数の見直しや、10月に実施した運賃改定の影響があげられる。運賃改定を実施したものの、輸送人員の減少の影響が大きく、運賃収入も減少した結果、収支率は低下している。利用促進策として、令和7年11月に、販売中の1日乗り放題バスきっぷを期間限定100円で販売する取組を実施し、早期に予定枚数300枚が完了した。今回収集したアンケート結果を基にPR施策を実施していきたい。 今後も目標達成のため、沿線の利用者の需要に注視しつつ、利用促進や更なる見直しを交通事業者と連携しながら進める必要がある。		
		吉野線（5 / 番系統） ●西鉄大牟田営業所～橋交差 点・大牟田病院前～西鉄大牟田営業 所 ●西鉄大牟田営業所～橋交差 点・大牟田病院前～大牟田市立病院 ●大牟田市立病院～橋交差点・大牟田病院前～大牟田市立病院	【系統の分析、目標値の見直し】 市内及び沿線の人口減少、生活様式の変化等により利用者がコロナ禍前の7割程度となっている。また、本路線は、令和5年1月1日から便数の1部を新大牟田駅に乗り入れ総距離が延長となっており、効果的・効率的に運行を継続していくためには収支率の改善が必要であることから、令和6年度より目標値として設定する。支出と収入のバランスを考えると、今後も継続して交通事業者と連携し、収支率の向上に努める。 収支率の改善を図るには利用促進の取組が必要であり、交通事業者等と連携しながら以下の取組を行った。 取組については、同上。	A	B	生活交通確保維持改善計画に掲げる目標について、「全市民の公共交通等の利用に対する満足度」は上がったものの、「フィーダー補助路線の利用者数」は下がった。一方で収支率は向上していることから、運賃改定の効果があったと思われる。 利用促進策として、令和7年11月に、販売中の1日乗り放題バスきっぷを期間限定100円で販売する取組を実施し、早期に予定枚数300枚が完了した。今回収集したアンケート結果を基にPR施策を実施していきたい。 今後も目標達成のため、利用促進や新大牟田駅の新幹線利用者の取組など、交通事業者と連携しながら進める必要がある。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
柳川市地域公共交通協議会	柳川市地域公共交通協議会	大和みなみ地域の運行	・利用者の少ないバス停が設置してある行政区を対象にチラシを配付し、コミュニティバスの利用を促すための周知を行った。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・公共施設や病院等、比較的コミュニティバスの利用が多い場所に時刻表を配架し、利用促進を図った。	A	A	大和みなみ線・大和ひがし線・三橋線の3路線では、1便あたりの利用者数が前年比でそれぞれ+0.6人、+0.4人、+0.9人と増加した。 大和みなみ線、大和ひがし線の両路線は、メイン層である高齢者の「買物」「病院」での乗降りが明確に増加したことが利用増の要因と推測できる。三橋線は、生活利用(通院・買い物など)の高齢者層に加え、令和6年10月に柳川駅東口にバス停が新設されたことで、路線の利便性が向上したことが利用増の要因となったと推測される。 大和にし線と市街循環線は、1便あたりの利用者数が前年比でそれぞれ+0.1人、+0.3人と増加したものの、目標値には届かなかった。 大和にし線は、既存の利用高齢者の利便性は維持されているが、新しく外出しようとする高齢者や、自力移動(自家用車等)していた層を十分に取り込めていなかったことが目標未達の要因と推測される。 市街循環線は、市内の主要拠点(公共施設、商業施設、医療機関、主要観光地、駅)を広く結ぶ利便性の高い路線であり、高齢者の日常利用に加えて観光客の利用も多い。利用者数は年々増加しているが便数が最も多い路線であるため、利用者が各便に薄く分散した結果が目標未達の要因と推測される。 目標を達成できなかった路線については、今後も引き続き利用者増加に向けた利用者促進活動を継続していきたい。また、利用者のニーズや利用状況を分析しながら、利用者の利便性を高めるための検討も行っていく。	・評価の指標は、1便当たりの利用者数。 ・昨年度に引き続き、公共施設や病院への時刻表の配架等の利用促進に継続的に取り組まれていることを評価します。また、周辺自治体や交通事業者と共同して「無料バスの日」イベントを実施されたことは高く評価します。 ・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)(短期、中長期)(短期、中長期)、費用対効果はどうか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを強く期待します。	・「⑤目標・効果の達成状況」について、目標達成、未達成の要因は⑥にて系統ごとに丁寧に分析されており、高く評価するとともに、今後、評価の結果を踏まえ、「⑥事業の今後の改善点」の中で今後の改善策も具体的に検討(記載)いただき、目標達成に向けた来年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。 ・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。
		大和ひがし地域の運行	・利用者の少ないバス停が設置してある行政区を対象にチラシを配付し、コミュニティバスの利用を促すための周知を行った。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・公共施設や病院等、比較的コミュニティバスの利用が多い場所に時刻表を配架し、利用促進を図った。	A	A	大和にし線は、既存の利用高齢者の利便性は維持されているが、新しく外出しようとする高齢者や、自力移動(自家用車等)していた層を十分に取り込めていなかったことが目標未達の要因と推測される。 市街循環線は、市内の主要拠点(公共施設、商業施設、医療機関、主要観光地、駅)を広く結ぶ利便性の高い路線であり、高齢者の日常利用に加えて観光客の利用も多い。利用者数は年々増加しているが便数が最も多い路線であるため、利用者が各便に薄く分散した結果が目標未達の要因と推測される。 目標を達成できなかった路線については、今後も引き続き利用者増加に向けた利用者促進活動を継続していきたい。また、利用者のニーズや利用状況を分析しながら、利用者の利便性を高めるための検討も行っていく。		
		大和にし地域の運行	・利用者の少ないバス停が設置してある行政区を対象にチラシを配付し、コミュニティバスの利用を促すための周知を行った。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・公共施設や病院等、比較的コミュニティバスの利用が多い場所に時刻表を配架し、利用促進を図った。	A	B			
		三橋地域の運行	・利用者の少ないバス停が設置してある行政区を対象にチラシを配付し、コミュニティバスの利用を促すための周知を行った。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・公共施設や病院等、比較的コミュニティバスの利用が多い場所に時刻表を配架し、利用促進を図った。	A	A			
		市街地の運行 【車両減価償却費国庫補助金対象系統】	・利用者の少ないバス停が設置してある行政区を対象にチラシを配付し、コミュニティバスの利用を促すための周知を行った。 ・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で企画・準備等を行い「無料バスの日」イベントを実施した。 ・公共施設や病院等、比較的コミュニティバスの利用が多い場所に時刻表を配架し、利用促進を図った。	A	B			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
久山町地域公共交通 活性化協議会	久山町地域公共交通活性化 協議会	<p><山田線> (時計回り) レスポアール～トリアス山～猪野～月 見ヶ丘入口～宏洲整形外科～レスポ アールの運行 (トリアス山発) トリアス山～猪野～月見ヶ丘入口～ 宏洲整形外科～レスポアールの運行 (反時計回り) レスポアール～猪野～トリアス山～月 見ヶ丘入口～宏洲整形外科～レスポ アールの運行 (猪野発) 猪野～トリアス山～月見ヶ丘入口～ 宏洲整形外科～レスポアールの運行</p> <p><久原線> (時計回り) レスポアール～山の神～久山療育園前 ～役場玄関前～下久原～レスポアール の運行 (反時計回り) レスポアール～役場玄関前～下久原～ 久山療育園前～山の神～レスポアール の運行</p> <p><猪野線由便> トリアス山～下山田～猪野～山の神 ～久原療育園前～久山温泉前～大浦 ～徳栗駅前～運行</p>	<p><取組み内容> ・計画どおりの運行を実施し、路線の維持・存続を図るとともに、利用状況に応じたイコバスの幹線・巡回の運行本数・運行ダイヤの変更等を行い、利便性向上を行った(令和7年3月～)。 ・イコバス及び西鉄バス、JR九州バス、JR九州の、総合的な公共交通マップの改訂版を作成するとともに、乗継ぎ情報等も掲載し、公共交通の利用促進に努めた。 <変更した主な事業概要と検討手順> ・利用が少ない巡回・久原線の2便目(時計回り・反時計回り各1本)を廃止し、山田線の午後13時台・15時台の便を早めることで、勤務時間を短縮。 ・幹線系統は、現状の便数を維持する(JRのダイヤ改正に合わせて接続で2便ダイヤ微調整。 ・町役場への意見を随時受付。モニタリング結果も踏まえて、変更対応可能なものについて適宜検討し、実施。</p>	A	B	<p>イコバス幹線系統(町外への通勤通学での利用がメイン)と町内巡回(町内での買い物・通院での利用がメイン)の異なる利用ニーズへの対応を図るとともに、運行事業者の運転士不足・高齢化等にも対応するため、運行事業者の確保・育成や、町内巡回のさらなる再編・運行形態の変更等の継続検討が求められる。 ・イコバス及び西鉄バス、JR九州バス、JR九州(鉄道)を一体的に捉え、町内公共交通体系の整備を継続的に行うことが求められる。</p>	<p>・評価の指標は、1便当たりの平均利用者数と満足度。 ・モニタリング等に基づき、適切に住民ニーズを把握し、効率的、効果的なダイヤ等への変更を実施され、利用者利便を向上に努めていることを高く評価します。 また、地域のコミュニティバスだけでなく、路線バス、鉄道も含めた総合時刻表の作成などの交通をネットワークと捉えた利用促進を継続的に実施されていることも評価します。 ・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうなのか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。 ・「⑤目標・効果の達成状況」において、評価指標の「1便当たりの平均利用者数」について、目標達成が出来ていない系統については、利用者層の属性や利用者の増減の背景等に着目するなど、系統ごとにその特性を丁寧に分析した上で、目標達成に向けた来年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。 また、目標を達成した系統についても達成要因を分析を行っていただき、地域の日常的な利用需要の安定的な増加を期待します。 ・また、評価指標の「満足度」については、目標達成はできていないものの昨年度から大きく上昇しており、評価します。なお、満足度が上昇した要因についても丁寧に分析していただくことを期待します。 ・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。</p>	
那珂川市地域公共交 通活性化協議会	那珂川市地域公共交活 性化協議会	<p>南畑線 ※【令和2年3月】 車両(ノンステップバス) 1台購入 ⇒南畑線及び通動かわせみ (一部路線)で運用開始</p> <p>通動かわせみ ※【令和2年3月】 車両(ノンステップバス) 1台購入 ⇒南畑線及び通動かわせみ (一部路線)で運用開始</p>	<p>効率的な利用促進策として、以下の取り組みを実施した。 (1)JR博多南線との接続性確保 ⇒JR博多南線のダイヤ改正内容が軽微でありかわせみバスへの影響もほぼ無かったことから、かわせみバスのダイヤを変更しないことで幹線交通との接続性の維持を図った。 (2)交通結節点の機能強化 ⇒交通結節点である西鉄那珂川営業所において新たに交通広場(バスロータリー)を整備し、幹線系統との接続性向上を図った。 (3)交通体系直視の検討実施 ⇒路線の維持が難しくなっている現状を受け、持続可能な公共交通実現のために新たな交通体系導入についての検討を行い、R7.10.1より既存のコミュニティバスを置き換える形でAIオンデマンドバス(那珂川川のーと「かわせみバス」)の運行を開始することを決定した。 (4)バスに関するイベントの実施 ⇒バスの利用促進を図る目的で、運行事業者や周辺自治体担当者等と共同で企画・準備等を行い「バスの日」記念イベントを実施した。</p>	A	C	<p>昨年度と比較し、利用者数は南畑線が微減(前年度比96%)で、通動かわせみは微増(前年度比102%)とほぼ昨年度と同水準を維持している一方、採算性は南畑線とも大きく減少(前年度から5～10%減少)している。これは、昨今の燃料費高騰や労務改善等の影響により運行経費が大幅に増加したことが要因と考えられる。 このため、路線維持のためにはより効率的な運行、具体的には現在の定時定路線方式によらない新たな交通体系の実現が必要であることから、これら路線を含むかわせみバス全路線について、AIオンデマンド方式による運行など持続可能な交通体系への転換に向け、検証・検討を実施していく。 また「バスの日」記念イベントについては、バスに関する貴重な情報発信の場となっていることから、今後も継続して実施に向け検討していく。</p>	<p>・評価の指標は、採算性及び年間利用者数。 ・昨年度に引き続き、交通事業者や周辺自治体担当者等と連携した「バスの日」記念イベントの実施等の利用促進に継続的に取り組まれていることを高く評価します。 ・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうなのか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。 ・「⑤目標・効果の達成状況」について、目標達成、未達成の要因は⑥にて分析されており評価できるとともに、更なる深堀として、利用者層の属性等に着目した系統ごとにその特性等を丁寧に定量的に分析した上で、目標達成に向けた来年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。 ・あわせて評価指標の「収支率」は、改善(上昇)の方向だけを指すのではなく、物価上昇の影響や公共交通の公益性を鑑みつつ、全体のバランスの中で目標値を設定するよう努めていただくことを期待します。 ・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。</p>	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	二次評価結果	
飯塚市地域公共交通協議会	飯塚市地域公共交通協議会	<p>飯塚東地区内及び越智外科胃腸科医院・ハローデイ栢の森店・上の谷バス停・飯塚記念病院入口・カホテラス・鶴三緒及び麻生塾(西飯バス停)への運行</p> <p>庄内地区内及び筑豊緑地・トライアル上三輪店・石川クリニックへの運行</p> <p>鍋西地区(八木山地区以外)内及び飯塚市立病院・せき損センター・ミスターマックス花瀬店・イオン穂波店・二瀬病院への運行</p> <p>筑種地区内及び済生会病院・青山医院・JR桂川駅への運行</p> <p>種波地区内及びJR筑前大分駅・ゆめタウン飯塚への運行</p> <p>瀬田・鯉田地区内及び筑豊緑地・トライアル飯塚庄内店への運行</p> <p>鍋西地区(主に八木山地区・二瀬地区内及び飯塚市立病院・せき損センター・ミスターマックス飯塚花瀬店・イオン穂波店・金澤整形外科への運行</p> <p>二瀬地区内及びせき損センター・イオン穂波店・金澤整形外科への運行</p> <p>幸袋地区内及びJR鯉田駅・川食鯉田店・ハローデイ九工大前店・瀬田病院・トライドラッグコー目尾店への運行</p>	<p>(ア)継続的な取り組みとして、利用ガイドの全戸配布、市報への記事掲載のほか、福祉のつどいなどのイベントにおいて、来場者に対して利用促進の呼びかけを実施した。</p> <p>(イ)利用者を含めた住民からの要望等については、電話や窓口での聞き取りのほか、まちづくり協議会、自治会長会等の各種団体からの意見についても継続して収集した。</p> <p>(ウ)令和7年4月より、予約乗合タクシーの登録や利用方法(その他のコミュニティ交通の利用方法等も含む)について、申込みのあった地域、団体等に対し、当課職員が訪問して行う「出前講座」を開始した。</p>	A	B	<p>(ア)令和8年度版の利用ガイドについて、掲載内容を工夫し、高齢者等の利用者に分かりやすいガイド作成に努める。</p> <p>(イ)年々、予約乗合タクシーの利用方法や有効性の認知が拡大し、今年度は471人(内、電子申請142人)が追加登録された。今後も引き続き市民への周知活動を継続するとともに、利便性向上施策に取り組み、利用促進を図る。</p> <p>(ウ)地区の利用状況等を分析、検証し、民間公共交通とコミュニティ交通との役割分担を考慮しながら、各地区の特性や利用者ニーズに応じた効果的・効率的な運行計画を検討する。</p> <p>(エ)web予約システム導入へ向けた実証実験を令和8年4月から開始。(稼働は令和8年7月を予定)令和8年10月以降に利用状況の分析や調整等を行い、令和9年度の本格導入を検討する。</p>	<p>評価の指標は、コミュニティ交通全体の利用者数。</p> <p>・昨年度に引き続き、利用ガイドの全戸配布や市報による利用促進の呼びかけ等の広報活動等の利用促進に継続的に取り組まれていることを評価します。</p> <p>また、まちづくり協議会、自治会長会、地域活動団等と連携を基に、適切に住民ニーズを把握し、効果的、効果的なダイヤや等への変更を実施され、運行改善に努められていることを高く評価します。あわせて、令和7年度より出前講座等を開始されたことも評価します。</p> <p>・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうなのか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。</p> <p>・「⑤目標・効果の達成状況」について、目標に達していない系統があるものの、全体としては前年度から増加しており高く評価します。なお、目標達成が出来ていない系統について、利用者層の属性や利用者の増減の背景に着目するなど、系統ごとにその特性を丁寧に分析した上で、目標達成に向けた来年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。</p> <p>また、目標を達成した系統についても詳細に達成要因を分析を行っていただき、地域の日常的な利用需要の安定的な増加を期待します。</p> <p>・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。</p>	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
川崎町地域公共交通 会議	川崎町地域公共交通会 議	安宅コースの運行		A	B		<p>・評価の指標は、系統毎の年間利用者数。</p> <p>・昨年度に引き続き、コミュニティバスの周知等の利用促進を継続して実施されていることを評価します。また、丁寧な住民アンケートに基づき、適切に住民ニーズを把握し、効率的、効果的なダイヤ等への変更を検討されていることを高く評価します。</p> <p>・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。</p> <p>・「⑤目標・効果の達成状況」については、全体としては目標に達していないものの、前年度から増加している系統もあり評価します。なお、目標達成出来ていない系統については、利用者層の属性や利用者の増減の背景に着目するなど、系統ごとにその特性を丁寧に分析した上で、目標達成に向けた来年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。</p> <p>また、利用が増加した系統についても詳細に達成要因を分析を行っていただき、地域の日常的な利用需要の安定的な増加を期待します。</p> <p>・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。</p>	
		木城・荒平コースの運行		A	B			
		上真崎・永井コースの運行	公共施設等に時刻表を設置しコミュニティバスの周知、利用促進に努めた。 昨年度行った住民アンケート調査等を元に、町民及び利用者のニーズに合った商業施設への乗り入れや路線再編を検討した。	A	B	前年度実績と比較し、全コースにおいて乗車人数が低下している為、その原因究明を行い、目標人数を達成できるよう、利用促進を図る。 これまで検討してきた商業施設や病院等の乗り入れ、利用者ニーズに合ったコースの統廃合など、各種再編を次年度より実施し、利便性向上及び利用者増加に努める。		
		池尻・田原コースの運行		A	B			
		三井・大峰コースの運行		A	B			
岡垣町地域公共交通 協議会	岡垣町地域公共交通協議 会	<p>【利便性の向上について】</p> <p>◎継続事業</p> <p>・コミュニティバス運行ダイヤ JR海老津駅での接続、小中学校の登下校時間、買い物時間を考慮した運行ダイヤの設定。 ・岡垣町総合時刻表 JRとの乗り継ぎ可能なコミュニティバスを記載し、利便性向上を図っている。</p> <p>【利用促進】</p> <p>・各公共施設や一部医療機関に時刻表の配架に加え、町広報誌(2回掲載)や各世帯に設置している戸別受信機を通じて、利用促進の啓発活動を継続した結果、一定の効果が出ている。 ・住民向け利用促進講座と講座受講者に対する無料乗車券の配布。</p>	A	A	<p>岡垣町第4次公共交通体系整備計画(岡垣町地域公共交通計画)を基本とした上で、乗降調査(3ヶ月に1回)の客観的データを活用することで、住民ニーズを捉えた持続可能な運行計画を策定する。</p> <p>予約型乗合タクシーに関して、利用方法等の認知が拡大し、利用者数が増えている。しかし、乗合率の向上が図れておらず、経費が増加している。今後は、乗合率の向上が図られるようデマンドシステムの設定等の対応を行っていく。</p>	<p>・評価の指標は、路線の利用者数と平均乗車密度。</p> <p>・昨年度から引き続きJRとの接続を配慮したダイヤ設定をされていることに加え、小中学生や買い物、中央公民館等での乗り継ぎに考慮した運行計画の設定など利用者利便性向上に努められていることを評価します。また、住民向け利用促進講座や無料券の配布等、一度乗ってもらおうような利用促進を行っていることについても高く評価します。</p> <p>・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。</p> <p>また、「⑤目標・効果の達成状況」については、目標を達成されたことは高く評価するとともに、今後は全系統を一括で評価するのではなく、利用者層の属性や利用者の増減の背景等に着目するなど、系統ごとにその特性を丁寧に分析し、あわせて目標達成された要因分析等を行った上で、次年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。</p> <p>・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。</p>		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
須恵町地域公共交通協議会	須恵町地域公共交通協議会	<p>■コミュニティバス運営事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一善田～上須恵線 ・佐谷～建正寺線 ・平原～大間線 <p>■コミュニティバス購入事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度に車両減価償却費等国庫補助金を活用し、緑バスを購入。 	<p>【R6評価結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価の指標は、利用者数。 ・昨年度に引き続き、大学と連携したバス位置情報の発信やバス停情報のオープンデータ化等の利用者の利便向上に継続的に取り組まれていることを評価します。 ・「③前回の事業評価結果の反映状況」及び「⑥今後の事業の改善点」については、R5年度と同様の内容でなく、R6年度に実施した事業についての評価結果を反映した形で効果的にPDCAが回るような形で自己評価を行っていただきますようお願いいたします。 ・「⑤目標・効果の達成状況」については、全系統を目標に掲げるのではなく、系統ごとに目標を設定し、利用者層の属性等に着目するなど、系統ごとにその特性を丁寧に分析し、あわせて目標達成された要因分析等を行った上で、次年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。 ・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。 【07目標設定および対応策】 (目標) ①乗降者数前年度比100%を確保する ②地域公共交通計画に基づき、持続可能な公共交通体系の構築を目指す。 (対応策) ①に関して ◆料金減免発行促進 ◆バス停情報等オープンデータ化 ◆大学との連携事業 ◆利用者動向モニタリング実施 ◆福祉センターにデジタルサイネージ設置 ②に関して ◆町内に本社がある交通事業者において、中型2種免許または大臣講習の取得・履修の1名以上の補助支援実績を目指す。 ◆公共交通乗継拠点において、ベンチ等の設置について1件以上の実績を目指す。 	A	A	<p>①地域公共交通計画に基づき、次の施策を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆運転者人材確保支援の実施 町内に本社がある交通事業者において、中型2種免許または大臣講習の取得・履修の1名以上の補助支援を引き続き目指す。 ◆待合環境向上事業 公共交通乗継拠点において、ベンチ等の設置について1件以上の実績を引き続き目指す。 <p>②コミュニティバスの再編による利便性向上事業</p> <p>道路や住宅土地等の都市インフラの変化や、利用者ニーズの変化について、コミュニティバス路線の再編に向けて情報収集や現状の整理を行う。</p>	<p>・評価の指標は、利用者数。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、大学と連携したバス位置情報の発信やバス停情報のオープンデータ化等の利用者の利便向上に継続的に取り組まれていることを評価します。 ・さらに大きな課題である運転手不足に対して、二種免許等の取得支援の取組も実施されていることは高く評価します。 ・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうなのか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを強く期待します。 ・「⑤目標・効果の達成状況」については、それぞれの系統全てにおいて目標を達成されたことは高く評価するとともに、今後は、利用者層の属性や利用者の増減の背景等に着目するなど、系統ごとにその特性を丁寧に分析し、あわせて目標達成された要因分析等を行った上で、次年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。 ・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
八女市地域公共交通協議会	八女市地域公共交通協議会	八女エリア 平日のみ1日8便運行(土・日・祝日は運休)	・ふれあいサロンや広報・HPによる利用促進に努めた。	A	B	市中心部として商業施設や病院関係施設も充実しているエリアであり、安定した需要が見込まれる。 幹線系路線バスとの乗継ぎ利便性の向上等、利用者増加策を検討する。併せて、サロンでの利用説明会の実施や広報等周知活動を行っていく。	<p>・評価の指標は、系統毎の利用者数。</p> <p>・昨年度に引き続き、ふれあいサロンや広報・HPによる利用促進に継続的に取り組まれていることを評価します。</p> <p>・「③前回の事業評価結果の反映状況」について、少なくともR4年度から同じ書き振りのままでありますので、実施した事業が効果があったのかの検証を定量的に行っていただき、効果的にPDCAが回るような形での自己評価を行っていただきますよう強くお願いします。</p> <p>・「⑤目標・効果の達成状況」について、目標達成出来ていない系統については、利用者層の属性や利用者の増減の背景に着目するなど、系統ごとにその特性を丁寧に分析した上で、目標達成に向けた来年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。</p> <p>また、目標を達成した系統についても詳細に達成要因を分析を行っていただき、地域の日常的な利用需要の安定的な増加を期待します。</p> <p>・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。</p>	
		辺春エリア 平日のみ1日8便運行(土・日・祝日は運休)	・ふれあいサロンや広報・HPによる利用促進に努めた。	A	C	乗合タクシーの登録率が高いエリアだが、制度導入から10年超が経過し、利用者の高齢化が進むとともに利用者減少も見受けられる。 幹線系路線バスとの乗継ぎ利便性の向上等、利用者増加策を検討する。併せて、サロンでの利用説明会の実施や広報等周知活動を行っていく。		
		白木エリア 平日のみ1日8便運行(土・日・祝日は運休)	・ふれあいサロンや広報・HPによる利用促進に努めた。	A	A	乗合タクシーの登録率が高いエリアで昨年度よりも利用者が増加した。制度導入から10年超が経過し、利用者の高齢化が進んでいる。 幹線系路線バスとの乗継ぎ利便性の向上等、利用者増加策を検討する。併せて、サロンでの利用説明会の実施や広報等周知活動を行っていく。		
		矢部エリア 平日のみ1日8便運行(土・日・祝日は運休)	・ふれあいサロンや広報・HPによる利用促進に努めた。	A	B	乗合タクシー登録率が高いエリアだが、利用者の高齢化、利用者減少が見受けられる。ただし、管内路線バス見直しの説明に合わせて、乗合タクシーの普及に注力したこと等から、昨年度と比べ利用者数は増加している。 幹線系路線バスとの乗継ぎ利便性の向上等、利用者増加策を検討する。併せて、サロンでの利用説明会の実施や広報等周知活動を行っていく。		
		上陽エリア 平日のみ1日8便運行(土・日・祝日は運休)	・ふれあいサロンや広報・HPによる利用促進に努めた。	A	B	利用者の高齢化とともに人口減少が見受けられ、利用者は昨年度と比較し利用者数はほぼ横ばいとなった。 幹線系路線バスとの乗継ぎ利便性の向上等、利用者増加策を検討する。併せて、サロンでの利用説明会の実施や広報等周知活動を行っていく。		
		旧黒木町エリア 平日のみ1日8便運行(土・日・祝日は運休)	・ふれあいサロンや広報・HPによる利用促進に努めた。	A	B	利用者の高齢化とともに人口減少が見受けられ、利用者は昨年度と比較し利用者数はほぼ横ばいとなった。幹線系路線バスとの乗継ぎ利便性の向上等、利用者増加策を検討する。併せて、サロンでの利用説明会の実施や広報等周知活動を行っていく。		
		星野エリア 平日のみ1日8便運行(土・日・祝日は運休)	・ふれあいサロンや広報・HPによる利用促進に努めた。	A	B	利用者の高齢化とともに人口減少が見受けられ、利用者は昨年度と比較し利用者数はほぼ横ばいとなった。 幹線系路線バスとの乗継ぎ利便性の向上等、利用者増加策を検討する。併せて、サロンでの利用説明会の実施や広報等周知活動を行っていく。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
田川市地域公共交通 会議	田川市地域公共交通会議	まちなか循環線 社会保険田川病院～大浦上ノ 山団地の運行	デジタル回数券の発行やその他券種の見直しの実施 新規利用者獲得のためのチラシ、広報紙等による利用促進、時刻表の配布	A	A	新規利用者獲得のため、チラシ・広報紙による利用促進、時刻表の配布 将来の利用者確保のため、若い世代へのモビリティ・マネジメントの実施	評価の指標は、系統毎の輸送人員。 デジタル定期券、バスロケーションシステムの導入などの利用者利便の向上や広報紙等による周知などの利用促進に取り組まれていることを高く評価します。	
		坂谷線 坂谷～社会保険田川病院の運行	デジタル回数券の発行やその他券種の見直しの実施 新規利用者獲得のためのチラシ、広報紙等による利用促進、時刻表の配布	A	A	新規利用者獲得のため、チラシ・広報紙による利用促進、時刻表の配布 将来の利用者確保のため、若い世代へのモビリティ・マネジメントの実施	今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。	
		伊加利・鎮西線 田川市立病院～田川伊田駅前 の運行	デジタル回数券の発行やその他券種の見直しの実施 新規利用者獲得のためのチラシ、広報紙等による利用促進、時刻表の配布	A	A	新規利用者獲得のため、チラシ・広報紙による利用促進、時刻表の配布 将来の利用者確保のため、若い世代へのモビリティ・マネジメントの実施	「⑤目標・効果の達成状況」については、それぞれの系統全てにおいて目標を達成されたことは高く評価するとともに、今後は、利用者層の属性や利用者の増減の背景等に着目するなど、系統ごとにその特性を丁寧に分析し、あわせて目標達成された要因分析等を行った上で、次年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。	
		弓削田・川宮線 社会保険田川病院～田川市立 病院の運行	デジタル回数券の発行やその他券種の見直しの実施 新規利用者獲得のためのチラシ、広報紙等による利用促進、時刻表の配布	A	A	新規利用者獲得のため、チラシ・広報紙による利用促進、時刻表の配布 将来の利用者確保のため、若い世代へのモビリティ・マネジメントの実施	今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。	
		桜町・川宮線 社会保険田川病院～田川市立 病院の運行	早朝便の時間帯を運くことで、利用者の増加を図る。 デジタル回数券の発行やその他券種の見直しの実施 新規利用者獲得のためのチラシ、広報紙等による利用促進、時刻表の配布	A	A	新規利用者獲得のため、チラシ・広報紙による利用促進、時刻表の配布 将来の利用者確保のため、若い世代へのモビリティ・マネジメントの実施		
		金川線 メルクス前～田川伊田駅前 の運行	デジタル回数券の発行やその他券種の見直しの実施 新規利用者獲得のためのチラシ、広報紙等による利用促進、時刻表の配布	A	A	路線の見直しにより、交通空白地域の一部解消を図る。 新規利用者獲得のため、チラシ・広報紙による利用促進、時刻表の配布 将来の利用者確保のため、若い世代へのモビリティ・マネジメントの実施		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局における	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	二次評価結果 評価結果	
遠賀町地域公共交通会議	遠賀町地域公共交通会議	・遠賀町コミュニティバス 田園・松の本快速線(1)時計回り(遠賀川駅(北口)～松の本～遠賀川駅(北口))の運行 ・遠賀町コミュニティバス 田園・松の本快速線(2)反時計回り(遠賀川駅(北口)～松の本～遠賀川駅(北口))の運行	町の広報紙に、バスのお得情報を掲載した。また、体験乗車や出前講座の募集を行うなど、利用促進の取り組みを行った。	A	A	前年度に比べ、利用者が1,886人増加している。通勤・通学での利用者が増加したことが大きな理由と考えられる。引き続き広報紙へのバスの利便性の掲載や体験乗車の募集などの利用促進をはじめ、令和5年3月に策定した遠賀町地域公共交通計画に記載した利用促進事業に取り組むことで遠賀町コミュニティバスの利用促進を図っていく。	・評価の指標は、系統毎の利用者数。 ・昨年に引き続き、広報紙でのバスのお得情報を掲載など利用促進に取り組みられていることを評価します。 ・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。 ・「⑤目標・効果の達成状況」について、全ての系統において目標を達成されたことを高く評価します。また、利用者層の属性や利用者の増減の背景に着目するなど、系統ごとによる特性を丁寧に分析されており、高く評価するとともに、引き続き、詳細に利用状況や(日常利用が減少した)背景の分析を行っていただき、地域の日常的な利用需要の安定的な増加を期待します。 ・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。	
		・遠賀町コミュニティバス 虫生津・浅木快速線(1)反時計回り(遠賀川駅南口～蓮角～遠賀川駅南口)の運行 ・遠賀町コミュニティバス 虫生津・浅木快速線(2)時計回り(遠賀川駅南口～蓮角～遠賀川駅南口)の運行	町の広報紙に、バスのお得情報を掲載した。また、体験乗車や出前講座の募集を行うなど、利用促進の取り組みを行った。	A	A	前年度に比べると、利用者が614人増加している。通勤・通学での利用者が増加したことが大きな理由と考えられる。引き続き広報紙へのバスの利便性の掲載や体験乗車の募集などの利用促進をはじめ、令和5年3月に策定した遠賀町地域公共交通計画に記載した利用促進事業に取り組むことで遠賀町コミュニティバスの利用促進を図っていく。		
		・遠賀町コミュニティバス 田園・松の本線(1)時計回り(遠賀川駅(北口)～松の本～遠賀川駅(北口))の運行 ・遠賀町コミュニティバス 田園・松の本線(2)反時計回り(遠賀川駅(北口)～松の本～遠賀川駅(北口))の運行	町の広報紙に、バスのお得情報を掲載した。また、体験乗車や出前講座の募集を行うなど、利用促進の取り組みを行った。	A	B	前年度に比べ、利用者が1,318人減少している。買い物などの日常生活での利用者の減少が大きな理由と考えられる。引き続き広報紙へのバスの利便性掲載や体験乗車の募集などの利用促進をはじめ、令和5年3月に策定した遠賀町地域公共交通計画に記載した利用促進事業に取り組むことで遠賀町コミュニティバスの利用促進を図っていく。目標未達成の要因について分析を深め、次期計画策定に活かしていきます。		
		・遠賀町コミュニティバス 虫生津・浅木線(1)反時計回り(遠賀川駅(北口)～遠賀高校～遠賀川駅(北口))の運行 ・遠賀町コミュニティバス 虫生津・浅木線(2)時計回り(遠賀川駅(北口)～遠賀高校～遠賀川駅(北口))の運行 ・遠賀町コミュニティバス 虫生津・浅木線(3)反時計回り(遠賀川駅(北口)～ふれあいの里～遠賀川駅(北口))の運行 ・遠賀町コミュニティバス 虫生津・浅木線(4)時計回り(遠賀川駅(北口)～ふれあいの里～遠賀川駅(北口))の運行	町の広報紙に、バスのお得情報を掲載した。また、体験乗車や出前講座の募集を行うなど、利用促進の取り組みを行った。	A	A	前年度に比べ、利用者が4,450人増加している。買い物などの日常生活での利用や町内にある公立高校の生徒の利用が増加したことが理由と考えられる。引き続き広報紙へのバスの利便性掲載や体験乗車の募集などの利用促進をはじめ、令和5年3月に策定した遠賀町地域公共交通計画に記載した利用促進事業に取り組むことで遠賀町コミュニティバスの利用促進を図っていく。		
		・遠賀町コミュニティバス 島津・尾崎線(1)反時計回り(遠賀川駅(北口)～尾崎～遠賀川駅(北口))の運行 ・遠賀町コミュニティバス 島津・尾崎線(2)時計回り(遠賀川駅(北口)～尾崎～遠賀川駅(北口))の運行	町の広報紙に、バスのお得情報を掲載した。また、体験乗車や出前講座の募集を行うなど、利用促進の取り組みを行った。	A	B	前年度に比べ、利用者が12人増加している。路線全体で大きな変動は見られなかった。引き続き広報紙へのバスの利便性掲載や体験乗車の募集などの利用促進をはじめ、令和5年3月に策定した遠賀町地域公共交通計画に記載した利用促進事業に取り組むことで遠賀町コミュニティバスの利用促進を図っていく。目標未達成の要因について分析を深め、次期計画策定に活かしていきます。		
		・遠賀町コミュニティバス 老良・広瀬線(1)時計回り(遠賀川駅(北口)～ふれあいの里～遠賀川駅(北口))の運行 ・遠賀町コミュニティバス 老良・広瀬線(2)反時計回り(遠賀川駅(北口)～ふれあいの里～遠賀川駅(北口))の運行	町の広報紙に、バスのお得情報を掲載した。また、体験乗車や出前講座の募集を行うなど、利用促進の取り組みを行った。	A	A	前年度に比べ、利用者が911人増加している。団地から通院や買い物などの日常生活での利用が増加してきたことが大きな理由と考えられる。引き続き広報紙へのバスの利便性掲載や体験乗車の募集などの利用促進をはじめ、令和5年3月に策定した遠賀町地域公共交通計画に記載した利用促進事業に取り組むことで遠賀町コミュニティバスの利用促進を図っていく。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	
芦屋町地域公共交通 活性化協議会	芦屋町地域公共交通活性 化協議会	芦屋タウンバス 中央病院・遠賀川駅線の運行	バス路線・便数の維持確保を行ったほか、JR九州のダイヤ 改正に合わせ、時刻表改正を行った。	A	A	地域公共交通計画に定める利用者目標を達成した。引き続き利用者数の増加 を図る。	<p>・評価の指標は、系統毎の年間利用者数。</p> <p>・昨年度に引き続き、バス路線・便数の維持確保や、鉄道との接続に合わせたダイヤ改正に取り組まれている ことを評価します。</p> <p>・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中 長期)、費用対効果はどうか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期 待します。</p> <p>・「⑤目標・効果の達成状況」については、それぞれの系統全てにおいて目標を達成されたことは高く評価する とともに、今後は、利用者層の属性や利用者の増減の背景等に着目するなど、系統ごとにその特性を丁寧に分 析し、あわせて目標達成された要因分析等を行った上で、次年度の事業の改善に努めていただくことを期待し ます。</p> <p>・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくこと も、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公 共交通体系が構築されることを期待します。</p>
		芦屋タウンバス はまゆう・遠賀川駅線の運行	バス路線・便数の維持確保を行ったほか、JR九州のダイヤ 改正に合わせ、時刻表改正を行った。	A	A	地域公共交通計画に定める利用者目標を達成した。引き続き利用者数の増加 を図る。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
直方市公共交通協議会	直方市公共交通協議会	コミュニティバス上頓野線の運行 (直方駅～会下団地～竜王峽)	・時刻表及び路線図を庁舎、その他公共施設、ホームページに配架し、また、市内転入者への配布物に同封した。 ・回数乗車券や毎月5日にコミュニティバスの運賃を無料にし、利用促進に努めた。 ・市が主催するイベントにて公共交通の利用を促進するための啓発活動を実施。	A	C	・引き続き周知活動を行うとともに利用促進に向け、地域や市内でのイベント時に啓発活動を実施する。 ・利用促進の一環として新たな運賃制度の導入を検討する。 ・総延長が長くなっており、そのことが利用減少を招いている。今後、路線再編やバス停の見直し等を通じて、利用促進を図る。 ・利用者意見の集約のため、路線代表者との協議を実施する。	・評価の指標は、系統毎の1便当たりの利用者数、収支率、公的資金投入額。 ・昨年度に引き続き、時刻表及び路線図を庁舎、その他公共施設、ホームページ、市内転入者に配架するほか市報への折り込みによる周知に取り組みされていることを評価します。 また、回数乗車券や毎月5日にコミュニティバスの運賃無料など、「一度乗ってもらう取組」や「継続して乗ってもらう取組」の観点からの利用促進をされていることも高く評価します。	
		コミュニティバス鴨生田団地線の運行 (直方駅～鴨生田団地～サンリブのおがた店)	・時刻表及び路線図を庁舎、その他公共施設、ホームページに配架し、また、市内転入者への配布物に同封した。 ・回数乗車券や毎月5日にコミュニティバスの運賃を無料にし、利用促進に努めた。 ・市が主催するイベントにて公共交通の利用を促進するための啓発活動を実施。	A	A	・引き続き周知活動を行うとともに利用促進に向け、地域や市内でのイベント時に啓発活動を実施する。 ・利用促進の一環として新たな運賃制度の導入を検討する。 ・路線再編やバス停の見直し等を通じて、更なる利用促進を図る。 ・利用者意見の集約のため、路線代表者との協議を実施する。	・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうなのか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。 ・あわせて評価指標の「収支率」は、改善(上昇)の方向だけを目指すのではなく、物価上昇の影響や公共交通の公益性を鑑みつつ、全体のバランスの中で目標値を設定するよう努めていただくことを期待します。	
		コミュニティバス武谷線の運行 (直方駅～ハローデイ前～ゴルフ場)	・時刻表及び路線図を庁舎、その他公共施設、ホームページに配架し、また、市内転入者への配布物に同封した。 ・回数乗車券や毎月5日にコミュニティバスの運賃を無料にし、利用促進に努めた。 ・市が主催するイベントにて公共交通の利用を促進するための啓発活動を実施。	A	A	・引き続き周知活動を行うとともに利用促進に向け、地域や市内でのイベント時に啓発活動を実施する。 ・利用促進の一環として新たな運賃制度の導入を検討する。 ・路線再編やバス停の見直し等を通じて、更なる利用促進を図る。 ・利用者意見の集約のため、路線代表者との協議を実施する。	・「⑤目標・効果の達成状況」について、目標達成出来ない系統については、利用者層の属性や利用者の増減の背景に着目するなど、系統ごとにその特性を丁寧に分析した上で、目標達成に向けた来年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。 また、目標を達成した系統についても詳細に達成要因を分析を行っていただき、地域の日常的な利用需要の安定的な増加を期待します。	
		コミュニティバス植木線の運行 (直方駅～下新入～下町公民館)	・時刻表及び路線図を庁舎、その他公共施設、ホームページに配架し、また、市内転入者への配布物に同封した。 ・回数乗車券や毎月5日にコミュニティバスの運賃を無料にし、利用促進に努めた。 ・市が主催するイベントにて公共交通の利用を促進するための啓発活動を実施。	A	C	・引き続き周知活動を行うとともに利用促進に向け、地域や市内でのイベント時に啓発活動を実施する。 ・利用促進の一環として新たな運賃制度の導入を検討する。 ・一部の時間帯やエリアに利用が集中している傾向があり、応接車両の利用回数が特筆して多くなっている。このことにより利便性低下や利用低下を招くことが懸念されるため、路線再編やバス停の見直し等を通じて、利用促進を図る。 ・利用者意見の集約のため、路線代表者との協議を実施する。	・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。	
		コミュニティバス感田線の運行 (直方駅～東和苑北～行常集会所)	・時刻表及び路線図を庁舎、その他公共施設、ホームページに配架し、また、市内転入者への配布物に同封した。 ・回数乗車券や毎月5日にコミュニティバスの運賃を無料にし、利用促進に努めた。 ・市が主催するイベントにて公共交通の利用を促進するための啓発活動を実施。	A	B	・引き続き周知活動を行うとともに利用促進に向け、地域や市内でのイベント時に啓発活動を実施する。 ・利用促進の一環として新たな運賃制度の導入を検討する。 ・現行のバス停の設置場所と利用ニーズにギャップが生じている(湯野原バス停)。今後、路線再編やバス停の見直し等を通じて、利用促進を図る。 ・利用者意見の集約のため、路線代表者との協議を実施する。		
		コミュニティバス赤地新入線の運行 (緑光苑～直方駅～サンリブのおがた店)	・時刻表及び路線図を庁舎、その他公共施設、ホームページに配架し、また、市内転入者への配布物に同封した。 ・回数乗車券や毎月5日にコミュニティバスの運賃を無料にし、利用促進に努めた。 ・市が主催するイベントにて公共交通の利用を促進するための啓発活動を実施。	A	B	・引き続き周知活動を行うとともに利用促進に向け、地域や市内でのイベント時に啓発活動を実施する。 ・利用促進の一環として新たな運賃制度の導入を検討する。 ・居住地として利用の多いバス停(緑光苑)から主な目的地となる商業施設(サンリブのおがた)までの距離が他の路線に比べ長くなっている。今後、路線再編やバス停の見直し等を通じて、利用促進を図る。 ・利用者意見の集約のため、路線代表者との協議を実施する。		
久留米市地域公共交通協議会	久留米市地域公共交通協議会	北野地域よりみちバス運行 ・A日程(月・水・金):17便 ・B日程(火・木・土):17便	地域住民の日常生活において、安全・安心に移動できる地域公共交通の確保・維持のため、運行地域と行政が連携して現状の運行ルートやダイヤ、今後の利用促進について意見交換し、検討する場を作りながら、生活支援交通の運行継続に努めた。	A	C	目標1の未達成については、近年増加傾向にあった利用者数が、昨年12月～本年1月にかけてのインフルエンザ流行期に大幅に減少したことに加え、日常的に利用していた利用者の施設入所等によるものである分析している。 目標2の満足度は、前年度より上昇したものの、目標達成には至っていない。 公共交通機関への満足度が近年上昇していることを踏まえ、広域的な移動を担う鉄道・バスについて、各交通事業者と連携して利便性向上を図るとともに、よりみちバスが公共交通機関の補完交通として利用してもらえる仕組みづくりなど、利用促進による新規利用者の確保に向けた取組みも必要であると考えます。	・評価の指標は、系統毎の日利用者数と公共交通満足度。 ・行政と地域が連携して運行ルートやダイヤ、利用促進について意見交換を実施し、生活支援交通の維持に継続して取り組まれていることを評価します。	
		城島地域よりみちバス運行 ・A日程(月・水・土):17便 ・B日程(火・木・金):16便	地域住民の日常生活において、安全・安心に移動できる地域公共交通の確保・維持のため、運行地域と行政が連携して現状の運行ルートやダイヤ、今後の利用促進について意見交換し、検討する場を作りながら、生活支援交通の運行継続に努めた。	A	C	目標1の未達成の要因としては、近年増加傾向にあった利用者数が、昨年12月～本年1月にかけてのインフルエンザ流行期に大幅に減少したことが主な要因と分析。地域連携による利用促進の効果が出ており、下期は過去最高数となっている。 目標2の満足度は、前年度より上昇したものの、目標達成には至っていない。 他地域と比較すると満足度は低く、北野地域と同様に、各交通事業者と連携して利便性向上を図るとともに、よりみちバスとの相互利用が可能となる仕組みづくりなどによる新規利用者の確保に向けた取組みも必要であると考えます。	・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうなのか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。 ・「⑤目標・効果の達成状況」について、目標は未達成であるものの、利用者層の属性や系統ごとの特性から未達成の要因を丁寧に分析されており、高く評価するとともに、引き続き、詳細に利用状況や利用者の増減の背景の分析を行っていただき、地域の日常的な利用需要の安定的な増加を期待します。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
中間市地域公共交通 会議	中間市地域公共交通会議	太賀・朝霧系統	窓口やお電話で交通手段に関するお問い合わせがあった際、コミュニティバスの紹介や利用方法の説明を積極的に行った。また、自治会にコミュニティバスの周知チラシの回覧を依頼し、利用促進に努めた。	A	C	利用者、収支率ともに目標値には達していないが、昨年度と比較して状況が改善し、再び補助対象となった。持続可能な公共交通体系の構築に向けて、更なる利用者増を目指し、効果的な周知方法等を検討する。	・評価の指標は、系統毎の利用者数と収支率。 ・コミュニティバスの紹介や利用方法の積極的な説明、チラシの回覧など利用促進に取り組まれていることを評価します。	
		通谷・桜台系統	窓口やお電話で交通手段に関するお問い合わせがあった際、コミュニティバスの紹介や利用方法の説明を積極的に行った。また、自治会にコミュニティバスの周知チラシの回覧を依頼し、利用促進に努めた。年度途中でコミュニティバスの運行事業者が変更となった為、停留所掲示物の差替、市ホームページにて周知を実施した。	A	B	昨年度に引き続き収支率は目標値を上回っており、運行状況は改善してきている。持続可能な公共交通体系の構築に向けて、更なる利用者増を目指し、効果的な周知方法等を検討する。	・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうなのか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。	
		埋生・下大隈系統	窓口やお電話で交通手段に関するお問い合わせがあった際、コミュニティバスの紹介や利用方法の説明を積極的に行った。また、自治会にコミュニティバスの周知チラシの回覧を依頼し、利用促進に努めた。年度途中でコミュニティバスの運行事業者が変更となった為、停留所掲示物の差替、市ホームページにて周知を実施した。	A	C	利用者、収支率ともに目標値には達しておらず、昨年度と比較して運行状況は減少傾向にある。特に4月から9月にかけての利用者が前年度比で減少した。ただし、今年度から計画運行回数を変更したことにより補助対象となった。引き続き利用者の推移を見ながら、新規利用者増に向けて周知方法等を検討する。	・「⑤目標・効果の達成状況」について、目標に達していない指標や系統があるものの、前年度から利用者が増加している系統もあり評価します。なお、今後、目標達成出来ていない評価指標については、利用者層の属性や減少の背景に着目するなど、系統それぞれの特性を丁寧に分析した上で、目標達成に向けた来年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。	
		砂山・底井野系統	窓口やお電話で交通手段に関するお問い合わせがあった際、コミュニティバスの紹介や利用方法の説明を積極的に行った。また、自治会にコミュニティバスの周知チラシの回覧を依頼し、利用促進に努めた。	A	C	利用者、収支率ともに目標値には達しておらず、昨年度と比較して運行状況にほぼ変化はない。今年度から計画運行回数を変更したことにより補助対象となった。引き続き利用者の推移を見ながら、新規利用者増に向けて周知方法等を検討する。	・あわせて評価指標の「収支率」は、改善(上昇)の方向だけを目指すのではなく、物価上昇の影響や公共交通の公益性を鑑みつつ、全体のバランスの中で目標値を設定するよう努めていただくことを期待します。 ・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
みやま地域公共交通活性化協議会	みやま地域公共交通活性化協議会	<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。</p> <p>・出前講座を実施し、利用促進を図った。</p> <p>・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で「無料バスの日」イベントを実施した。</p> <p>・利用者向けアンケートを実施し、移動需要調査を行った。</p> <p>・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系である「予約制乗合タクシー」の実証実験を行った。</p>	A	A (A)	<p>・予約制乗合タクシーの実証実験の検証の結果、利用者の満足度が高く、本市での有効性が確認された。</p> <p>・利用者は少ないが、便数が非常に少なく、輸送効率が低い路線であるため、令和8年2月末をもって本路線の再編を行う。コミュニティバス路線の代替手段として市内全域を運行する「予約制乗合バス」を令和8年3月より本格導入する。</p>	<p>・評価の指標は、系統毎1便当たりの輸送人員。</p> <p>・市報、HP、SNSでの積極的な情報発信、交通事業者事業者や周辺自治体と共同した「無料バスの日」イベント等の利用促進や実証運行に取り組まれていることを高く評価します。</p> <p>・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうなのか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。</p>		
		<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。</p> <p>・出前講座を実施し、利用促進を図った。</p> <p>・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で「無料バスの日」イベントを実施した。</p> <p>・利用者向けアンケートを実施し、移動需要調査を行った。</p> <p>・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系である「予約制乗合タクシー」の実証実験を行った。</p>	A	B (B)	<p>・予約制乗合タクシーの実証実験の検証の結果、利用者の満足度が高く、本市での有効性が確認された。</p> <p>・運送性に欠け、利用者が少なく、輸送効率が低い路線であるため、令和8年2月末をもって本路線の再編を行う。コミュニティバス路線の代替手段として利用者の効率的な移動確保の観点から市内全域を運行する「予約制乗合バス」を令和8年3月より本格導入する。</p>	<p>・「⑤目標・効果の達成状況」について、目標に達していない系統があるものの、前年度から増加している系統もあり評価します。また、利用者層の属性や系統ごとの特性から未達成の要因を丁寧に分析されており、高く評価するとともに、引き続き、詳細に利用状況や利用者の増減の背景の分析を行っていただき、地域の日常的な利用需要の安定的な増加を期待します。</p>		
		<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。</p> <p>・出前講座を実施し、利用促進を図った。</p> <p>・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で「無料バスの日」イベントを実施した。</p> <p>・利用者向けアンケートを実施し、移動需要調査を行った。</p> <p>・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系である「予約制乗合タクシー」の実証実験を行った。</p>	A	B (B)	<p>・予約制乗合タクシーの実証実験の検証の結果、利用者の満足度が高く、本市での有効性が確認された。</p> <p>・利用者は少ないが、便数が少なく輸送効率が低い路線であるため、令和8年2月末をもって本路線の再編を行う。コミュニティバス路線の代替手段として市内全域を運行する「予約制乗合バス」を令和8年3月より本格導入する。</p>	<p>・「⑥今後の事業の改善点」に記載の「予約制乗合タクシー」の本格導入についても、実証実験の結果を基に「⑤目標・効果達成状況」と同様にご利用層の属性や地域ごとの特性を丁寧に分析していただき、地域にあった効果的な改善を行っていただくことを期待します。</p> <p>・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。</p>		
		<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。</p> <p>・出前講座を実施し、利用促進を図った。</p> <p>・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で「無料バスの日」イベントを実施した。</p> <p>・利用者向けアンケートを実施し、移動需要調査を行った。</p> <p>・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系である「予約制乗合タクシー」の実証実験を行った。</p>	A	A (B)	<p>・予約制乗合タクシーの実証実験の検証の結果、利用者の満足度が高く、本市での有効性が確認された。</p> <p>・便数が少なく、利用者も少ない路線であるため、令和8年2月末をもって本路線の再編を行う。コミュニティバス路線の代替手段として市内全域を運行する「予約制乗合バス」を令和8年3月より本格導入する。</p>			
		<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。</p> <p>・出前講座を実施し、利用促進を図った。</p> <p>・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で「無料バスの日」イベントを実施した。</p> <p>・利用者向けアンケートを実施し、移動需要調査を行った。</p> <p>・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系である「予約制乗合タクシー」の実証実験を行った。</p>	A	B (B)	<p>・予約制乗合タクシーの実証運行を実施した。</p> <p>・市内全域を運行する「予約制乗合バス」を令和8年3月より本格導入する。</p> <p>・コミュニティバス路線については、地域公共交通計画との整合性を図りながら、ルートやダイヤの見直しを検討する。</p> <p>・本路線は基幹路線であるが、利用者が低下しているため、よりニーズにあった路線の構築を目指し、利便性の向上を図る。</p>			
		<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。</p> <p>・出前講座を実施し、利用促進を図った。</p> <p>・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で「無料バスの日」イベントを実施した。</p> <p>・利用者向けアンケートを実施し、移動需要調査を行った。</p> <p>・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系である「予約制乗合タクシー」の実証実験を行った。</p>	A	A (A)	<p>・予約制乗合タクシーの実証運行を実施した。</p> <p>・市内全域を運行する「予約制乗合バス」を令和8年3月より本格導入する。</p> <p>・コミュニティバス路線については、地域公共交通計画との整合性を図りながら、ルートやダイヤの見直しを検討する。</p> <p>・運行見直しにあたっては、利用ニーズにあった路線の構築を目指し、利便性の向上を図る。</p>			
		<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。</p> <p>・出前講座を実施し、利用促進を図った。</p> <p>・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で「無料バスの日」イベントを実施した。</p> <p>・利用者向けアンケートを実施し、移動需要調査を行った。</p> <p>・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系である「予約制乗合タクシー」の実証実験を行った。</p>	A	A (A)	<p>・予約制乗合タクシーの実証運行を実施した。</p> <p>・市内全域を運行する「予約制乗合バス」を令和8年3月より本格導入する。</p> <p>・コミュニティバス路線については、地域公共交通計画との整合性を図りながら、ルートやダイヤの見直しを検討する。</p> <p>・運行見直しにあたっては、利用ニーズにあった路線の構築を目指し、利便性の向上を図る。</p>			
		<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。</p> <p>・出前講座を実施し、利用促進を図った。</p> <p>・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で「無料バスの日」イベントを実施した。</p> <p>・利用者向けアンケートを実施し、移動需要調査を行った。</p> <p>・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系である「予約制乗合タクシー」の実証実験を行った。</p>	A	C (C)	<p>・予約制乗合タクシーの実証運行を実施した。</p> <p>・市内全域を運行する「予約制乗合バス」を令和8年3月より本格導入する。</p> <p>・基幹路線(山川・高田線)、山川・高田線②と同じ号車であるため廃止にしないが、利用者が極端に少ない便である。来年度以降実施するコミュニティバスの抜本的な見直しにおいて、ダイヤ等の検討を行う。</p>			
		<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。</p> <p>・出前講座を実施し、利用促進を図った。</p> <p>・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で「無料バスの日」イベントを実施した。</p> <p>・利用者向けアンケートを実施し、移動需要調査を行った。</p> <p>・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系である「予約制乗合タクシー」の実証実験を行った。</p>	A	B (B)	<p>・予約制乗合タクシーの実証実験の検証の結果、利用者の満足度が高く、本市での有効性が確認された。</p> <p>・便数が少なく、利用者も少ない路線であるため、令和8年2月末をもって本路線の再編を行う。コミュニティバス路線の代替手段として市内全域を運行する「予約制乗合バス」を令和8年3月より本格導入する。</p>			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	二次評価結果	
							評価結果	
		<p>高田町の南部及び西部地域をJR渡瀬駅からあたご苑、西竹飯を経由して山川げんきかんまで運行</p> <p>高田町の南部及び西部地域をJR渡瀬駅からあたご苑を経由して山川げんきかんまで運行</p> <p>高田町の南部及び西部地域を山川げんきかんからあたご苑を経由してヨコクラ病院前まで運行</p>	<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。</p> <p>・出前講座を実施し、利用促進を図った。</p> <p>・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で「無料バスの日」イベントを実施した。</p> <p>・利用者向けアンケートを実施し、移動需要調査を行った。</p> <p>・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系である「予約制乗合タクシー」の実証実験を行った。</p>	A	C(C)	<p>・予約制乗合タクシーの実証実験の検証の結果、利用者の満足度が高く、本市での有効性が確認された。</p> <p>・便数に対して利用者数がかなり低い路線であるため、令和8年2月末をもって本路線の再編を行う。コミュニティバス路線の代替手段として市内全域を運行する「予約制乗合バス」を令和8年3月より本格導入する。</p>		
		<p>高田町の南部及び西部地域をJR渡瀬駅からあたご苑を経由して山川げんきかんまで運行</p>	<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。</p> <p>・出前講座を実施し、利用促進を図った。</p> <p>・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で「無料バスの日」イベントを実施した。</p> <p>・利用者向けアンケートを実施し、移動需要調査を行った。</p> <p>・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系である「予約制乗合タクシー」の実証実験を行った。</p>	A	C(C)	<p>・予約制乗合タクシーの実証実験の検証の結果、利用者の満足度が高く、本市での有効性が確認された。</p> <p>・便数が少なく、利用者数もかなり低い路線であるため、令和8年2月末をもって本路線の再編を行う。コミュニティバス路線の代替手段として市内全域を運行する「予約制乗合バス」を令和8年3月より本格導入する。</p>		
		<p>高田町の南部及び西部地域を山川げんきかんからあたご苑を経由してヨコクラ病院前まで運行</p>	<p>・市報、HP、SNSでの情報発信を実施した。</p> <p>・出前講座を実施し、利用促進を図った。</p> <p>・バスの利用促進、知名度向上を図る目的で、運行事業者や周辺自治体と共同で「無料バスの日」イベントを実施した。</p> <p>・利用者向けアンケートを実施し、移動需要調査を行った。</p> <p>・コミュニティバスにおける代替手段として新たな交通体系である「予約制乗合タクシー」の実証実験を行った。</p>	A	A(A)	<p>・予約制乗合タクシーの実証実験の検証の結果、利用者の満足度が高く、本市での有効性が確認された。</p> <p>・便数が少なく、輸送効率が低い路線であるため、令和8年2月末をもって本路線の再編を行う。コミュニティバス路線の代替手段として市内全域を運行する「予約制乗合バス」を令和8年3月より本格導入する。</p>		
嘉麻市地域公共交通会議	嘉麻市地域公共交通会議	(1) 稲葉桂川線 (市役所・稲葉病院経由)	<p>更なる利便性の向上、すべての利用者が利用しやすい公共交通を提供するため、市内循環線同様にノンステップバスを導入しました。</p> <p>ダイヤについては、通学等の利便性を向上させるため、路線の一部変更や増便を行うとともに、日祝日における短縮ダイヤを導入し、運行の効率化を図りました。</p> <p>また、今年度も前年から引き続き、バスの利便性向上を図ると共に、バスが走っていること、利用できることを周知するため、広報誌や市ホームページでのPRと、市内在住の学生に向けた通学定期券の補助を継続して実施し、通学での公共交通の利用を呼びかけを行いました。</p>	A	A	<p>適宜利用者からの要望や意見を精査し、ダイヤや路線の見直し、検討を実施してきました。</p> <p>今回も、目標としていた収支率20%以上の維持を達成しています。</p> <p>今後も利便性の向上と運行の効率化、わかりやすいバスを目指し、ノンステップバスのPRや継続した周知活動を実施してバスを利用してない層にも視野を向け、事業等を実施予定です。</p>	<p>・評価の指標は、収支率。</p> <p>・昨年から引き続き、報誌や市ホームページでのPR等の利用促進や路線の見直し等による利用者利便の向上や通学定期券の補助制度の実施に取り組まれていることを評価します。また、ノンステップバスの導入や待合環境の整備も取組も高く評価します。あわせて、学生等のニーズを適切に把握し、効率的、効果的なダイヤ等への変更を実施され、利用者利便を向上に努められていることも高く評価します。</p> <p>・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。</p> <p>・あわせて評価指標の「収支率」は、改善(上昇)の方向だけを指すのではなく、物価上昇の影響や公共交通の公益性を鑑みつつ、全体のバランスの中で目標値を設定するよう努めていただくことを期待します。</p> <p>・また、評価指標については、地域公共交通計画本体において設定された目標と整合するように「収支率」だけでなく、「利用者数」などの他の指標も含めて設定する等、多角的な評価の実施のご検討をお願いします。</p> <p>・「⑤目標・効果の達成状況」については、系統全てにおいて目標を達成されたことは高く評価する一方、事業者毎の系統を目標とするのではなく、各系統ごとに目標を設定し、それぞれの系統において利用者層の属性や利用者の増減の背景に着目するなど、系統ごとにその特性を丁寧に分析を行った上で、次年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。</p> <p>・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。</p>	
		(2) 稲葉桂川線 (東旭崎・運穂総合高校経由) ※R6.10.1～R7.3.31まで運行 R7.4.1以降は(2)(3)を(4)に統合		A				
		(3) 稲葉桂川線 (なつが丘・嘉麻市役所・稲葉病院経由) ※R6.10.1～R7.3.31まで運行 R7.4.1以降は(2)(3)を(4)に統合		A				
		(4) 稲葉桂川線 (なつが丘・嘉麻市役所・稲葉病院経由) ※R7.4.1以降は(2)(3)を(4)に統合		A				
		(5) 稲葉桂川線 (嘉麻市役所・運穂総合高校経由) ※R7.4.1以降(5)を延長		A				
		(7) 稲葉桂川線 (なつが丘・市役所経由)		A				
		(8) 稲葉桂川線 (山野社毛～稲葉病院) ※R6.10.1～R7.3.31まで運行 R7.4.1以降は(8)を(9)に統合		A				
		(9) 稲葉桂川線 (山野社毛～なつきの湯) ※R7.4.1以降(9)を延長		A				
		(10) 市内循環線東回り山田方面 ※R7.4.1以降運行分		A				
		(12) 市内循環線東回り山田方面 (稲葉病院～生涯学習館) ※R7.4.1以降延長 R7.4.1以降(11)を延長		A				
		(10) 市内循環線東回り山田方面 ※R6.10.1～R7.3.31まで運行		A				
		(11) 市内循環線東回り山田方面 (稲葉病院～生涯学習館) ※R6.10.1～R7.3.31まで運行 R7.4.1以降は(11)を(12)に統合		A				A
		(13) 市内循環線東回り山田方面 (嘉麻市役所～総合バスステーション) ※R6.10.1～R7.3.31まで運行 R7.4.1以降は(13)を(14)に統合		A				A

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	二次評価結果	
福智町地域公共交通会議	福智町地域公共交通会議	ふく〜るバス(AIオンデマンド交通「ふく〜るバス」の運行を町内全域で実施)	<p>【ふく〜るバス利用促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福智町公式LINE連携による予約アプリの開発・運用 ・上記予約アプリとマイナンバー連携によるDX推進 ・広報紙や説明会等による住民周知 ・バリアフリー車両導入(2台) <p>【運行効率化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SAVSの利用者属性(料金種別)集計機能を追加 <p>【各種ニーズ把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町民アンケート ・ふく〜るバス利用者アンケート ・運転手及びオペレーターヒアリング 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ふく〜るバスの新規利用者確保のため、広報紙やHP、町内イベント等でのPRに取り組み。 また、利用者のみならず、オペレーターの電話予約対応の負担軽減のため、LINEアプリの普及に向けたPRに取り組み。 ・高齢者福祉部門や免許返納担当部署と連携し、高齢者運転免許返納支援事業を継続して行い、公共交通への転換を促し、高齢ドライバーの交通事故防止に努める。 ・福智町地域公共交通計画が令和8年度末で計画終了となるため、次年度に現計画検証と合わせて、計画見直しを行う。 	<p>・評価の指標は、年間利用者数、収支率、財政負担額。</p> <p>・LINE連携による予約システムの開発・運用やマイナンバー連携のDXの推進、バリアフリー車両の導入、広報紙や説明会等による周知等の利用促進を実施されていることを高く評価します。</p> <p>・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを強く期待します。</p> <p>・「⑤目標・効果の達成状況」については、「利用者数」の目標を達成されたことを高く評価するとともに、利用者層の属性や増加の背景等の達成の要因についても丁寧に分析されており、引き続き、地域の日常的な利用需要の安定的な増加を期待します。</p> <p>また、評価指標の「収支率」は、改善(上昇)の方向だけを指すのではなく、物価上昇の影響や公共交通の公益性を鑑みつつ、全体のバランスの中で目標値を設定するよう努めていただくことを期待します。</p> <p>・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。</p>	
筑前町地域公共交通会議	筑前町地域公共交通会議	オンデマンドバス	-	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通年間利用者数 94% ・オンデマンドバス収支率 5% <p>公共交通機関についてはコロナ禍前に戻りつつある。本年度5%だったので、甘木鉄道や西鉄バスとの連携を強化することでオンデマンドバスの収支率の向上につなげたい。併せて広告料などの収入を見込めるよう事業展開を検討する。</p>	<p>・評価の指標は、年間利用者数、収支率、講座等の件数、モビリティマネジメントの回数、公的資金投入額、利用者数、商業観光施設との連携数、高齢者運転手の免許自主返納件数、拠点施設個所数、パークアodの駐車場数、広報媒体への案内・掲載回数。</p> <p>・講座の件数、モビリティマネジメント回数、商業観光施設との連携、広報媒体への掲載回数等のアウトプット指標を目標に掲げ、これらのことをほとんど目標達成されていることは高く評価します。</p> <p>・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。</p> <p>・「⑤目標・効果の達成状況」について、公共交通年間利用者数などの目標達成出来ていない評価指標については、利用者層の属性や利用増減の背景に着目するなど、地域の特性を丁寧に分析した上で、目標達成に向けた来年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。</p>	
			A		<ul style="list-style-type: none"> ・講座等の件数 10件 ・モビリティマネジメントの回数 1回 ・公的資金投入額 <p>どの事業についても計画通りに進んでおり、この状態を維持する。</p>			
			B		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数 70% ・商業観光施設との連携 1件 ・高齢者運転 <p>本格運行となり、有料運行の初年度であった。運行方法の周知や会員登録の促進などを中心に行い会員数は伸びている。商業観光施設との連携など利用促進につながる事業を展開する。併せて会員登録済の未利用者についてアプローチを行い、更なる利用者数の増加につなげる。</p>	<p>・あわせて評価指標の「収支率」は、改善(上昇)の方向だけを指すのではなく、物価上昇の影響や公共交通の公益性を鑑みつつ、全体のバランスの中で目標値を設定するよう努めていただくことを期待します。</p> <p>・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。</p>		
			A		<ul style="list-style-type: none"> ・拠点施設個所数 19か所 ・パークアodの駐車場 1か所 <p>計画通りに進んでおり、この状態を維持する。</p>			
A	<ul style="list-style-type: none"> ・広報媒体への案内・掲載 12回 <p>計画通りに進んでおり、次年度以降も町広報の内容をより充実させる。</p>							

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
糸田町地域公共交通協議会	糸田町地域公共交通協議会	<ul style="list-style-type: none"> ●運行系統名 いっとこカー(R7.2～R7.9) ●運行系統(区間) 糸田町及び田川市の一部で 区域運行を行うもの 	新規事業	A	B	①AIオンデマンド交通の利用者数については、引き続き利用促進を継続していく。 ②財政負担額および③収支率については、燃料費や人件費の高騰等の外部要素が主な要因であり、削減が困難なため、①の利用促進による収入(利用者)増加によって改善を図る方向で目標達成を目指す。また、必要に応じて次期地域公共交通計画改定時(R10年度)での目標値の変更も検討する。	・評価の指標は、利用者数、財政負担額、収支率。 ・住民意見を丁寧に関きながら、田川市への乗り入れの開始や広報誌での周知などの利用促進を実施されていることを高く評価します。 ・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。 ・「⑤目標・効果の達成状況」については、「利用者数」の目標を達成されたことを高く評価するとともに、利用者層の属性や増加の背景等の達成の要因についても丁寧に分析されており、引き続き、地域の日常的な利用需要の安定的な増加を期待します。 ・また、評価指標の「収支率」は、改善(上昇)の方向だけを指すのではなく、物価上昇の影響や公共交通の公益性を鑑みつつ、全体のバランスの中で目標値を設定するよう努めていただくことを期待します。 ・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。	
東峰村地域公共交通活性化協議会	東峰村地域公共交通活性化協議会	運行区域 ・東峰村村内全域 ・朝倉市杷木地区 ・大分県日田市大鶴地区 東峰村村内全域及び大分県日田市大鶴地区においては、年末年始を除き、8時30分から17時でAIオンデマンド運行を実施。予約は電話もしくは行公式LINE・専用アプリから可能。朝倉市杷木地区においては、廃線となった路線バスの代替として、朝便、日中便、夜便の3つの時間帯で村内及び杷木バス停前のみ乗降可能な予約不要の路線型として運行を実施。朝便及び夜便は平日のみ、日中便は年末年始を除き運行を実施。	事業初年度である。	A	B	令和6年10月1日時点で1,775人であった人口は1年間で50人減少し、1,725人となった。 高齢化率は48.1%から48.6%と増加傾向で、年少人口は減少傾向にある。 収支率の改善には、利用者を増やすことが必要と思われるが、通学での利用は、年少人口が減る一方で、進路選択が多様化しており、今後も一定のニーズはあると思われるが、増加は見込みにくい。導入当初より70代以上の利用が全体の9割以上を占めており、利用者数は増加傾向にある一方で、登録者数の伸び率は停滞し始めている。 今後、免許返納等により移動手段を模索する方や、現時点で事業を認知していない方、また、利用を躊躇している方など、新規利用者を開拓することで、収支率の改善は元より、移動手段の確保・維持することを目指していく。	・評価の指標は、利用者数、収支率、財政負担額。 ・住民意見を丁寧に関きながら、朝倉市や日田市への乗り入れの開始や広報誌での周知などの利用促進を実施されていることを高く評価します。 ・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。 ・「⑤目標・効果の達成状況」については、「利用者数」の目標を達成されたことを高く評価するとともに、利用者層の属性や利用の増加の背景等の達成の要因についても丁寧に分析されており、引き続き、地域の日常的な利用需要の安定的な増加を期待します。 ・また、評価指標の「収支率」は、改善(上昇)の方向だけを指すのではなく、物価上昇の影響や公共交通の公益性を鑑みつつ、全体のバランスの中で目標値を設定するよう努めていただくことを期待します。 ・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	二次評価結果 評価結果	
苅田町地域公共交通 会議	苅田町地域公共交通会議	苅田町コミュニティバス 北部ルートの運行	新規事業のため前回事業評価なし	A	C	・利用状況やニーズの変化を分析し、ルートやダイヤ改正などの見直しを検討する ・利用促進のためイベント等にて引き続き啓発活動を実施する	・評価の指標は、利用者数。 ・住民意見を丁寧に聞きながら、ダイヤ等の見直しによる利便性向上や広報誌での周知などの取組を着実に実施されていることを評価します。 ・今後これらの利用促進の効果を定量的に検証・分析(利用促進の結果どれくらい利用が増えたのか(短期、中長期)、費用対効果はどうか等)を行っていただいた上、更に効果的な利用促進を行っていただくことを期待します。	
		苅田町コミュニティバス 中央ルートの運行	新規事業のため前回事業評価なし	A	B	・利用状況やニーズの変化を分析し、ルートやダイヤ改正などの見直しを検討する ・利用促進のためイベント等にて引き続き啓発活動を実施する	・「⑤目標・効果の達成状況」について、目標達成出来ていない評価指標については、利用者層の属性や利用増減の背景に着目するなど、地域の特性を丁寧に分析した上で、目標達成に向けた来年度の事業の改善に努めていただくことを期待します。 ・今後「⑥事業の今後の改善点」に挙げられた取組及び地域公共交通計画の施策を着実に実施していただくとともに、交通事業者、地域に加え、他分野の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。	
		苅田町コミュニティバス 母原・小波瀬ルートの運行	新規事業のため前回事業評価なし	A	B	・利用状況やニーズの変化を分析し、ルートやダイヤ改正などの見直しを検討する ・利用促進のためイベント等にて引き続き啓発活動を実施する		
		苅田町コミュニティバス 白川ルートの運行	新規事業のため前回事業評価なし	A	C	・利用状況やニーズの変化を分析し、ルートやダイヤ改正などの見直しを検討する ・利用促進のためイベント等にて引き続き啓発活動を実施する		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年2月27日

九州運輸局

評価対象事業名：地域公共交通確保維持改善事業(フィーダー)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
鳥栖市地域公共交通会議	鳥栖市地域公共交通会議	弥生が丘循環線	利用促進のため、バスマップの配布等により、運行の基礎的な情報の提供(ルート及びダイヤなど)に努めた。	A	A	今後も引き続き利用促進に向け、沿線住民等への運行の基礎的な情報の提供(ルート及びダイヤなど)を行っていく必要がある。また、R7年3月に策定した地域公共交通計画を基に地域の実情に応じた利用促進策を検討・実施する必要がある。	評価の指標は、路線別の収支率(弥生が丘循環線)、路線毎の1便当たり利用者数(鳥栖地区循環線、田代地区循環線、基里地区循環線、旭地区循環線)。これまでに引き続き、バスマップ配付やイベント開催、ミニバス乗車体験会等の取組の他、プロスポーツチームとタイアップ企画等、積極的な利用促進に取り組んだことで、一部の系統で目標を達成できたことを評価します。本年度策定に取り組んだ地域公共交通利便増進実施計画に基づき利便性・効率性が高い地域旅客運送サービスが提供されることを期待します。
		鳥栖地区循環線	利用促進のため、バスマップの配布等により、運行の基礎的な情報の提供(ルート及びダイヤなど)に努めた。また、ミニバス車両に鳥栖市をホームタウンとするプロスポーツチームであるサガン鳥栖とSAGA久光スプリングスのマスコットをラッピングすることでミニバスの周知、認知度アップに努めた。	A	B		
		田代地区循環線	利用促進のため、バスマップの配布等により、運行の基礎的な情報の提供(ルート及びダイヤなど)に努めた。また、ミニバス車両に鳥栖市をホームタウンとするプロスポーツチームであるサガン鳥栖とSAGA久光スプリングスのマスコットをラッピングすることでミニバスの周知、認知度アップに努めた。	A	A		
		基里地区循環線	利用促進のため、バスマップの配布等により、運行の基礎的な情報の提供(ルート及びダイヤなど)に努めた。また、沿線の住民を対象にミニバス乗車体験会を開催し、意見交換や実際に乗っていただくことで利用促進に努めた。	A	B		
		旭地区循環線	利用促進のため、バスマップの配布等により、運行の基礎的な情報の提供(ルート及びダイヤなど)に努めた。また、ミニバス車両に鳥栖市をホームタウンとするプロスポーツチームであるサガン鳥栖とSAGA久光スプリングスのマスコットをラッピングすることでミニバスの周知、認知度アップに努めた。	A	C		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
嬉野市地域公共交通活性化協議会	嬉野市地域公共交通活性化協議会	嬉野市乗合タクシー(春日線)大野～ユースポ入口(大野原線)平重～嬉野医療C	市ホームページに時刻表や公共交通に関するお知らせ等を掲載し、市民や観光客向けに引き続きPRを行った。また、経路検索サイトへ春日線・大野原線ともに継続して行っていることや、更にGTFSSを用いてオープンデータ化を果たし、Google Mapで時刻や経路が検索できるようになり、利便性の向上と意見交換会での利用促進を図った。利用者数については、春日線については2%増、大野原線については5%減となっている。	A	B (春日線) R7年度の利用者状況はR6年度比で増加(31人)し、収支状況は概ね横ばいであった。固定の利用者に引き続き利用して貰える環境を整えたい。 (大野原線) R7年度の利用者状況はR6年度比で減少(▲17人)し、収支状況は右肩下がりであった。路線不定期の導入などにより持続可能な交通網としたい。 (特記事項) 近年大野原線については、フィーダー補助要件を大幅に下回っている。現状に則した運行形態への転換を図るため、R8年度より一部の便を除き路線不定期便及びフリー乗降等の導入により、持続可能な交通を目指す。 (全体) 運賃の見直しや、沿線住民や地元の地域コミュニティに対し利用促進を図る利用促進の取り組みを実施すると同時に、広報誌や市ホームページを通じて、より積極的に市民や観光客等へ情報発信を行っていく。令和4年度に策定した地域公共交通計画に基づき、利便性と財政面の両方に配慮しつつ、地域公共交通網の適正化を進めている。	評価の指標は、路線別1人あたりの運行コスト。 従来の市ホームページによる周知・広報に加え、乗合タクシーについてもGTFSSによるオープンデータ化を果たし利便性向上と利用促進に繋げた他、限られたリソースのもと利用状況や住民ニーズにできるだけ対応した路線再編を実現されたことを評価します。 引き続き再編後の利用状況に注視し効率的な利用促進を実施するとともに、把握された新たな課題等を次年度に策定予定の次期地域公共交通計画へ反映されることを期待します。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
		晴田線 (小城町バス)	(1) 運転免許証自主返納者に対するバス運賃割引制度を引き続き実施した。 (2) 老朽化したバス停の更新と、バス停時刻表の張替えを行った。	A	C	引き続き、利用実態に即したバスルートの見直しや、運行本数(日数)の適正化を図り、効率的で利用しやすい運行体制の構築に努める。 また、市報やホームページ、出前講座等を通じて運行情報の周知を強化するとともに、運転免許証自主返納者に対する割引制度の継続など、利用者の利便性向上に資する施策を推進し、さらなる利用促進を図っていく。	
		岩松線 (小城町バス)	(3) 広報誌やホームページにコミュニティバスの運行情報を掲載し、利用促進と周知に取り組んだ。 (4) 市バスに関する出前講座を実施し、利用促進に努めた。	A	C		
		三里線 (小城町バス)	(5) 市バスの時刻表を作成し市内の全世帯に配布を行った。 これらの活動を通じて、更なる利用促進と新たな需要の掘り起こしに取り組んだ。	A	C		
		北回りコース (三日月町巡回バス)	上記の(1)～(5)の取り組みに加え、バスルートの見直しとして南北コースの統合を実施した。これにより、運行効率の向上を図った。また、効率的な運行体制の構築を通じて、更なる利用促進と新たな需要の掘り起こしに取り組んだ。	A	A	バスルートの見直しを行い、令和7年4月に南北系統を統合するとともに、時刻表の改正を実施した(三日月町バス 三日月線)。	
		南回りコース (三日月町巡回バス)		A	C		
		三日月線 (三日月町バス)	上記の(1)～(5)を行い、更なる利用促進と新たな需要の掘り起こしに取り組んだ。	A	C	R7.4月～運行開始。引き続き、利用実態に即したバスルートの見直しや、運行本数(日数)の適正化を図り、効率的で利用しやすい運行体制の構築に努める。 また、市報やホームページ、出前講座等を通じて運行情報の周知を強化するとともに、運転免許証自主返納者に対する割引制度の継続など、利用者の利便性向上に資する施策を推進し、さらなる利用促進を図っていく。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
小城市地域公共交通活性化協議会	小城市地域公共交通活性化協議会	三日月小学校線(三日月町バス)	上記の(1)～(5)の取り組みに加え、乗り込み調査を実施し、実際の利用者の声を反映させた運行改善を進めた。これにより、更なる利用促進と新たな需要の掘り起こしを目指し、サービスの質向上に努めた。	A	B	R7.4月～運行開始。児童の登校実態に基づき、適切な時間帯にダイヤを調整し、利便性向上に努める。	評価の指標は1便あたりの利用者数。運転免許証自主返納者に対するバス運賃割引制度や広報誌・ホームページ等による周知等従来の取組に加え、出前講座による利用促進や一部の系統ではルートの見直し等を実施し、積極的に利用促進に取り組んだことを評価します。次年度に取り組むこととしている次期の地域公共交通計画の策定においては、昨年度に実施された利用実態調査の結果を踏まえ、利便性、効率性の高い地域旅客運送サービスの確保に向け協議会において積極的な議論、検討がなされることを期待します。	
		勝・柿樋瀬線(牛津町バス)		A	C	引き続き、利用実態に即したバスルートの見直しや、運行本数(日数)の適正化を図り、効率的で利用しやすい運行体制の構築に努める。		
		砥川線(牛津町バス)	上記の(1)～(5)を行い、更なる利用促進と新たな需要の掘り起こしに取り組んだ。	A	C	また、市報やホームページ、出前講座等を通じて運行情報の周知を強化するとともに、運転免許証自主返納者に対する割引制度の継続など、利用者の利便性向上に資する施策を推進し、さらなる利用促進を図っていく。		
		天満町・芦刈町線(牛津町バス)		A	C			
		広域線(広域バス右回り)	上記の(1)～(5)の取り組みに加え、バスルートの見直しを行い、効率的な運行を実現するとともに、更なる利用促進と新たな需要の掘り起こしにも取り組んだ	A	B	令和7年7月より運行ルートの見直しを実施。引き続き、利用実態に即したバスルートの見直しや、運行本数(日数)の適正化を図り、効率的で利用しやすい運行体制の構築に努める。		
		広域線(広域バス左回り)	上記の(1)～(5)の取り組みに加え、バス車体のラッピングを実施し、視認性の向上を図ることで、乗車しやすさを促進した。また、バスルートの見直しを行い、効率的な運行を実現するとともに、更なる利用促進と新たな需要の掘り起こしにも取り組んだ。	A	A	また、市報やホームページ、出前講座等を通じて運行情報の周知を強化するとともに、運転免許証自主返納者に対する割引制度の継続など、利用者の利便性向上に資する施策を推進し、さらなる利用促進を図っていく。		
		あしま～る線(芦刈町乗合タクシー)	上記の(1)～(5)を行い、更なる利用促進と新たな需要の掘り起こしに取り組んだ。	A	B	引き続き、利用実態に即したバスルートの見直しや、運行本数(日数)の適正化を図り、効率的で利用しやすい運行体制の構築に努める。		
		やまびこ線(小城やまびこタクシー)	市報やホームページ、出前講座などを積極的に活用し、運行情報の提供を強化するとともに、利用促進に努めていく。	B	A	また、市報やホームページ、出前講座等を通じて運行情報の周知を強化するとともに、運転免許証自主返納者に対する割引制度の継続など、利用者の利便性向上に資する施策を推進し、さらなる利用促進を図っていく。		
		江里山・石体線(小城やまびこタクシー)	また、山間部の特性を考慮した運行方法の見直しや、利用促進策を新たに検討する必要がある。	B	A	市報やホームページ、出前講座などを積極的に活用し、運行情報の提供を強化するとともに、利用促進に努めていく。また、山間部の特性を考慮した運行方法の見直しや、利用促進策を新たに検討する必要がある。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
神崎市地域公共交通活性化協議会	神崎市地域公共交通活性化協議会	北部コース西(右回り・左回り)	市HPや市報等における広報活動によるバス利用の周知活動や定期的な利用促進のための乗車回数券販売増加の取り組みとして事業者による利用者への声かけや積極的なコミュニケーション等を実施した。	A	A	これまでの利用実績や利用者アンケートを基に協議会で議論を行い、利用促進のための情報発信を行ったところ、1運行当たりの利用者数について目標を達成することが出来た。利用者アンケートを実施し、市民の移動ニーズや地域の特性を踏まえ、市内公共交通の効率化と充実を図り、新たな交通モードの導入を検討していく。	評価の指標は、1運行あたりの利用者数(北部コース西・東、中部コース西・東、南部コース西・東、神崎市～千代田線)と計画運行回数に対する稼働率(北部デマンド、中部デマンド、南部デマンド)。ホームページや市報等による広報活動等利用促進に向けた取組を継続して実施されたことにより、一部の系統において目標を達成されたことを評価します。本年度策定予定の地域公共交通計画に基づき、これからAIオンデマンド交通の導入はじめ市内交通の大幅な再編を目指すこととされておりませんが、それと並行して住民の外出機会の創出等、地域の移動需要の拡大に向けた取組もご検討下さいますようお願いいたします。
		北部コース東(右回り・左回り)	市HPや市報等における広報活動によるバス利用の周知活動や定期的な利用促進のための乗車回数券販売増加の取り組みとして事業者による利用者への声かけや積極的なコミュニケーション等を実施した。	A	A	これまでの利用実績や利用者アンケートを基に協議会で議論を行い、利用促進のための情報発信を行ったところ、1運行当たりの利用者数について目標を達成することが出来た。利用者アンケートを実施し、市民の移動ニーズや地域の特性を踏まえ、市内公共交通の効率化と充実を図り、新たな交通モードの導入を検討していく。	
		中部コース西(右回り・左回り)	市HPや市報等における広報活動によるバス利用の周知活動や定期的な利用促進のための乗車回数券販売増加の取り組みとして事業者による利用者への声かけや積極的なコミュニケーション等を実施した。	A	B	これまでの利用実績や利用者アンケートを基に協議会で議論を行い、利用促進のための情報発信を行ったが、1運行当たりの利用者数について目標を達成できなかった。利用者アンケートを実施し、市民の移動ニーズや地域の特性を踏まえ、市内公共交通の効率化と充実を図り、新たな交通モードの導入を検討していく。	
		中部コース東(右回り・左回り)	市HPや市報等における広報活動によるバス利用の周知活動や定期的な利用促進のための乗車回数券販売増加の取り組みとして事業者による利用者への声かけや積極的なコミュニケーション等を実施した。	A	B	これまでの利用実績や利用者アンケートを基に協議会で議論を行い、利用促進のための情報発信を行ったが、1運行当たりの利用者数について目標を達成できなかった。利用者アンケートを実施し、市民の移動ニーズや地域の特性を踏まえ、市内公共交通の効率化と充実を図り、新たな交通モードの導入を検討していく。	
		南部コース西	市HPや市報等における広報活動によるバス利用の周知活動や定期的な利用促進のための乗車回数券販売増加の取り組みとして事業者による利用者への声かけや積極的なコミュニケーション等を実施した。	A	A	これまでの利用実績や利用者アンケートを基に協議会で議論を行い、利用促進のための情報発信を行ったところ、1運行当たりの利用者数について目標を達成することが出来た。利用者アンケートを実施し、市民の移動ニーズや地域の特性を踏まえ、市内公共交通の効率化と充実を図り、新たな交通モードの導入を検討していく。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
		南部コース東	市HPや市報等における広報活動によるバス利用の周知活動や定期的な利用促進のための乗車回数券販売増加の取り組みとして事業者による利用者への声かけや積極的なコミュニケーション等を実施した。	A	A	これまでの利用実績や利用者アンケートを基に協議会で議論を行い、利用促進のための情報発信を行ったところ、1運行当たりの利用者数について目標を達成することが出来た。利用者アンケートを実施し、市民の移動ニーズや地域の特性を踏まえ、市内公共交通の効率化と充実を図り、新たな交通モードの導入を検討していく。	
		神埼～千代田線	市HPや市報等における広報活動によるバス利用の周知活動や定期的な利用促進のための乗車回数券販売増加の取り組みとして事業者による利用者への声かけや積極的なコミュニケーション等を実施した。	A	B	これまでの利用実績や利用者アンケートを基に協議会で議論を行い、利用促進のための情報発信を行ったが、1運行当たりの利用者数について目標を達成できなかった。利用者アンケートを実施し、市民の移動ニーズや地域の特性を踏まえ、市内公共交通の効率化と充実を図り、新たな交通モードの導入を検討していく。	
		(1)北部デマンド 神崎市神埼町内を区域とする	市HPや市報等における広報活動によるバス利用の周知活動や、地元コミュニティに出向いての出前講座などを通じて利用者登録の増加を図った。	A	A	これまでの利用実績や利用者アンケートを基に協議会で議論を行い、利用促進のための情報発信を行ったところ、1運行当たりの利用者数について目標を達成することが出来た。利用者アンケートを実施し、市民の移動ニーズや地域の特性を踏まえ、市内公共交通の効率化と充実を図り、新たな交通モードの導入を検討していく。	
		(1)中部デマンド 神崎市神埼町、千代田町内を区域とする	市HPや市報等における広報活動によるバス利用の周知活動や、地元コミュニティに出向いての出前講座などを通じて利用者登録の増加を図った。	A	A	これまでの利用実績や利用者アンケートを基に協議会で議論を行い、利用促進のための情報発信を行ったところ、1運行当たりの利用者数について目標を達成することが出来た。利用者アンケートを実施し、市民の移動ニーズや地域の特性を踏まえ、市内公共交通の効率化と充実を図り、新たな交通モードの導入を検討していく。	
		(1)南部デマンド 神崎市神埼町、千代田町内を区域とする	市HPや市報等における広報活動によるバス利用の周知活動や、地元コミュニティに出向いての出前講座などを通じて利用者登録の増加を図った。	A	A	これまでの利用実績や利用者アンケートを基に協議会で議論を行い、利用促進のための情報発信を行ったところ、1運行当たりの利用者数について目標を達成することが出来た。利用者アンケートを実施し、市民の移動ニーズや地域の特性を踏まえ、市内公共交通の効率化と充実を図り、新たな交通モードの導入を検討していく。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
鹿島市地域公共交通活性化協議会	鹿島市地域公共交通活性化協議会	市内循環バスの運行	令和7年度においても計画どおりの運行を実施した。運行内容等については、市報、市ホームページなどにおいて広報活動を随時行い、合わせて利用促進や利用へのきっかけ作りのために無料運行イベントを実施した。	A	A	利用者のニーズ等を適切に把握し、運行内容の見直しについて必要に応じ実施していく。また、他路線との乗継PRや学生・高齢者・障がい者・運転免許証自主返納者を対象とする無料運行イベント等を継続的に実施することで、新たな利用者の発掘を行い、更なる利用者増加に繋げる。	評価の指標は、1便あたりの利用者数(市内循環バス、高津原のりあいタクシー)、稼働率(予約型のりあいタクシー)。ホームページや市報等による周知や無料運行キャンペーン等利用促進に向けた取組を継続的に実施したことで、一部の系統において目標を達成されたこと、また、従来より利用が少なかった北鹿島線においては稼働率の目標達成には至らなかったものの利用者数の増加に繋がったことを評価します。次年度は次期の地域公共交通計画の策定に取り組まれることとされておりますが、本年度実施された地域公共交通人材育成事業の成果も活用しつつ、利便性、効率性の高い地域旅客運送サービスの確保に向け協議会において積極的な議論、検討がなされることを期待します。
		高津原のりあいタクシーの運行	令和7年度においても計画どおりの運行を実施した。運行内容等については、市報、市ホームページなどにおいて広報活動を随時行い、合わせて利用促進や利用へのきっかけ作りのために無料運行イベントを実施した。	A	B	利用者のニーズ等を適切に把握し、運行内容の見直しについて必要に応じ実施していく。また、他路線との乗継PRや学生・高齢者・障がい者・運転免許証自主返納者を対象とする無料運行イベント等を継続的に実施することで、新たな利用者の発掘を行い、更なる利用者増加に繋げる。	
		予約型のりあいタクシー(能古見線)の運行	令和7年度においても計画どおりの運行を実施した。運行内容等については、市報、市ホームページにおいて広報活動を随時行い、合わせて利用促進や利用へのきっかけ作りのために無料運行イベントを実施した。	A	A	利用者のニーズ等を適切に把握し運行内容の見直しについて必要に応じて実施していく。他路線との乗継PRや無料運行イベント等の実施、対象地域への登録・利用方法の出前講座を実施することで、新たな登録者を発掘するため周知活動の強化を行い、利用者増に繋げる。	
		予約型のりあいタクシー(北鹿島線)の運行	令和7年度においても計画どおりの運行を実施した。運行内容等については、市報、市ホームページにおいて広報活動を随時行い、合わせて利用促進や利用へのきっかけ作りのために無料運行イベントを実施した。	A	B	利用者のニーズ等を適切に把握し運行内容の見直しについて必要に応じて実施していく。また、利用者ニーズを聞き、停留所の見直しを行う。他路線との乗継PRや無料運行イベント等の実施、対象地域への登録・利用方法の出前講座を実施することで、新たな登録者を発掘するため周知活動の強化を行い、利用者増に繋げる。	
		予約型のりあいタクシー(古枝線)の運行	令和7年度においても計画どおりの運行を実施した。運行内容等については、市報、市ホームページにおいて広報活動を随時行い、合わせて利用促進や利用へのきっかけ作りのために無料運行イベントを実施した。	A	A	利用者のニーズ等を適切に把握し運行内容の見直しについて必要に応じて実施していく。他路線との乗継PRや無料運行イベント等の実施、対象地域への登録・利用方法の出前講座を実施することで、新たな登録者を発掘するため周知活動の強化を行い、利用者増に繋げる。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
みやき町地域公共交通確保維持改善協議会	みやき町地域公共交通確保維持改善協議会	〈みやき中央線〉 大島病院～齋藤整形外科の運行	コミュニティバス運賃無料デーを実施した。 (R6.12月～R7.2月の第2、第4金曜日と土曜日)また、運賃無料デーについて広報誌、全戸配布チラシ、町公式LINE等で周知を行うことで、コミュニティバスの利用促進を行った。	A	A	中央線は、安定した利用者数を維持しているため、引き続き広報活動等を強化し、利用者のさらなる増加を図る。 対照的に、枝線(中原線、北茂安線、三根東線、三根西線)については、目標達成できたのは中原線のみとなっている。これまで周知活動を行ってきたが枝線については、利用者の増加に結びついていない状況である。このような状況を考慮し、枝線については、デマンド交通などの代替交通の導入を含めた再編を検討する。	評価指標は、年間利用者数と1日平均利用者数。 来年度はAIオンデマンド交通の導入も視野に市内交通の再編に向けた検討に着手することとされており、並行して、従来から課題となっていたコミュニティバスと外出支援タクシーの相互補完のあり方のほか、住民の外出機会の創出に繋がる取組等移動需要の拡大に向けた施策についてもご検討をお願いします。	
		〈中原線〉 大島病院～板部～香田～大島病院の循環運行		A	A			
		〈北茂安線〉 大島病院～豆津～みやき庁舎～大島病院の循環運行		A	C			
		〈三根西線〉 齋藤整形外科～三根庁舎前～梅野委員前～齋藤整形外科の循環運行		A	C			
		〈三根西線〉 齋藤整形外科～三根庁舎前～梅野委員前～齋藤整形外科の循環運行		A	C			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
伊万里市民と考える地域交通会議	伊万里市民と考える地域交通会議	いまりんバス郊外線	・市内の病院、店舗や公共施設への時刻表の設置、市ホームページへの掲載により情報提供を行い、公共交通に対する認知向上と利用促進に取り組んだ。	A	C	市街地と住宅地を結ぶ路線であることから、今後もチラシ配布や説明会等による運行経路等の周知、利用促進を継続する。	評価の指標は、各系統における1便あたりの利用者数。ホームページや区長会を通じた呼びかけ等従来から実施されている利用促進策に継続して取り組まれましたが、目標を達成できたのは1系統に留まりました。目標を大きく下回っている系統については、利用者のニーズの把握に努め、公共交通を利用してほしい方にアプローチされることを期待します。
		いまりんバス地域線	・市内の病院、店舗や公共施設への時刻表の設置、市ホームページへの掲載により情報提供を行い、公共交通に対する認知向上と利用促進に取り組んだ。	A	A	R4.10から経路変更を行い、利便性向上を図っていることから、今後もチラシ配布や説明会等による運行経路等の周知、利用促進を継続する。	
		波多津ふれあい号	区長会を通じて運行実績の報告を行うなどして、地区単位や老人会等での利用呼びかけを依頼した。	A	B	区長会等への利用実績報告を通じ、地区住民への周知を行い、利便性向上に係るPRを通じて積極利用を呼び掛けていく。	
		コミュニティすこやかバス	区長会を通じて運行実績の報告を行うなどして、地区単位や老人会等での利用呼びかけを依頼した。	A	C	区長会等への利用実績報告を通じ、地区住民への周知を行い、利便性向上に係るPRを通じて積極利用を呼び掛けていく。	
		町内巡回バスくろがわ号	区長会を通じて運行実績の報告を行うなどして、地区単位や老人会等での利用呼びかけを依頼した。	A	C	区長会等への利用実績報告を通じ、地区住民への周知を行い、利便性向上に係るPRを通じて積極利用を呼び掛けていく。	
		松浦町デマンドタクシー	区長会を通じて運行実績の報告を行うなどして、地区単位や老人会等での利用呼びかけを依頼した。	A	B	区長会等への利用実績報告を通じ、地区住民への周知を行い、利便性向上に係るPRを通じて積極利用を呼び掛けていく。	
		二里町デマンドタクシー	区長会を通じて運行実績の報告を行うなどして、地区単位や老人会等での利用呼びかけを依頼した。	A	C	区長会等への利用実績報告を通じ、地区住民への周知を行い、利便性向上に係るPRを通じて積極利用を呼び掛けていく。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
佐賀市地域公共交通協議会	佐賀市地域公共交通協議会	・大和町松梅地区デマンドタクシーの運行 ・富士町コミュニティバスの運行 ・三瀬地区コミュニティバスの運行	(松梅)利用者数が頭打ちとなっており、更なる新規客の獲得を図っていく必要がある。デマンドタクシーの乗り方教室の開催、及び「べんりカー松梅号だより」を全戸に配布し、広く周知することで、利用者数の回復を図った。松梅地区公共交通活性化協議会でニーズに応じたダイヤ変更を検討し、試験運行を行った。 (富士)引き続き「富士町公共交通検討会議」において、利用実績に基づいた改善案を協議する。協議の内容は、「検討会議だより」を全戸配布して周知し、利用を呼び掛けた。 (三瀬)新高校1年生向けに資料配布を行い、通学手段として村外系統の利用を呼びかけるとともに、「三瀬地区コミュニティバスだより」を全戸配布し、利用者数の増加を図った。	A	B	(松梅)利用者数は微増したものの、更なる新規客の獲得を図る必要がある。「べんりカー松梅号だより」を全戸配布し、広く周知することで、利用者数の回復を図る。運行内容を変更した試験運行の結果を踏まえて、ダイヤ変更を検討する。 (富士)「富士町公共交通検討会議」において、利用実績に基づいた改善案を協議する。協議の内容は、「検討会議だより」を全戸配布して周知し、利用を呼び掛ける。また、交通モード最適化調査・分析事業の再編案について検討する。 (三瀬)新高校1年生向けに資料配布を行い、通学手段として村外系統の利用を呼びかけるとともに、三瀬地区コミュニティバスだより」を全戸配布し、利用者数の増加を図る。三瀬地区公共交通検討会議や、交通モード最適化調査・分析事業を通して、ニーズに対応したダイヤ変更等を検討する。	評価の指標は年間利用者数。 目標は達成できなかったものの、各地区検討会における協議や「検討会だより」による検討状況の住民への周知等、地域が主体となった検討の促進に継続して取り組まれたことを評価します。 令和6年度に策定された地域公共交通利便増進実施計画に加え、令和7年度に実施された市内交通モード最適化調査の成果に基づき、利便性、効率性の高い地域旅客運送サービスの提供に繋げることを期待します。
		・富士町コミュニティバスの運行	「富士町公共交通検討会議」において、利用実績に基づいた改善案を協議した。協議の内容は、「検討会議だより」を全戸配布して周知し、利用を呼び掛けた。	A	B	「富士町公共交通検討会議」において、利用実績に基づいた改善案を協議する。協議の内容は、「検討会議だより」を全戸配布して周知し、利用を呼び掛ける。また、交通モード最適化調査・分析事業の再編案について検討する。	
		・富士町コミュニティバスの運行	「富士町公共交通検討会議」において、利用実績に基づいた改善案を協議した。協議の内容は、「検討会議だより」を全戸配布して周知し、利用を呼び掛けた。	A	B	「富士町公共交通検討会議」において、利用実績に基づいた改善案を協議する。協議の内容は、「検討会議だより」を全戸配布して周知し、利用を呼び掛ける。また、交通モード最適化調査・分析事業の再編案について検討する。	
		・富士町コミュニティバスの運行	「富士町公共交通検討会議」において、利用実績に基づいた改善案を協議した。協議の内容は、「検討会議だより」を全戸配布して周知し、利用を呼び掛けた。	A	B	「富士町公共交通検討会議」において、利用実績に基づいた改善案を協議する。協議の内容は、「検討会議だより」を全戸配布して周知し、利用を呼び掛ける。また、交通モード最適化調査・分析事業の再編案について検討する。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
多久市地域公共交通会議	多久市地域公共交通会議	東多久立山線「東多久～立山」間の運行(多久市自家用有償運送)	令和6年12月から定時定路線型からAIオンデマンド「チョイソコたく」に運行形態を変更。また、運行内容の変更については説明会やパンフレット・市報・HPにて周知を行い、利用者の利便性向上に努めた。	A	C		評価の指標は1日あたり平均利用者数。令和6年12月に従来の定時定路線型からAIオンデマンド交通へ運行形態を見直し説明会や市報、ホームページ等で周知に努めたものの目標達成には至りませんでした。引き続き利用促進に向けた広報活動に取り組まれるとともに、住民の外出機会の創出等、地域の移動需要の拡大に向けた取組もご検討下さいますようお願いいたします。
		西多久納所線「西多久～納所」間の運行(多久市自家用有償運送)	令和6年12月から定時定路線型からAIオンデマンド「チョイソコたく」に運行形態を変更。また、運行内容の変更については説明会やパンフレット・市報・HPにて周知を行い、利用者の利便性向上に努めた。	A	C		
		南多久岸川線「南多久～岸川」間の運行(多久市自家用有償運送)	令和6年12月から定時定路線型からAIオンデマンド「チョイソコたく」に運行形態を変更。また、運行内容の変更については説明会やパンフレット・市報・HPにて周知を行い、利用者の利便性向上に努めた。	A	C		
		チョイソコたく多久市全域の運行(多久市自家用有償運送)	令和6年12月から定時定路線型からAIオンデマンド「チョイソコたく」に運行形態を変更。また、運行内容の変更については説明会やパンフレット・市報・HPにて周知を行い、利用者の利便性向上に努めた。	A	C		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
		(1)加部島 【呼子～加部島杉村】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。 また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進している。	A	A	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	
		(2)呼子台場 【呼子～呼子台場みなとプラザ】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。 また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進している。	A	C	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	
		(3)呼子・名護屋浜 【呼子～小友・名護屋浜～呼子】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。 また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進している。	A	B	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	
		(4)呼子・加部島 【呼子～加部島杉村～呼子】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。 また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進している。	A	B	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	
		(5)星賀 【星賀～入野】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。 また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進している。	A	C	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	
		(6)納所 【納所～入野】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。 また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進している。	A	A	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
唐津地域公共交通活性化協議会	唐津地域公共交通活性化協議会	(7)高串【高串福祉センター前～古保志気～入野】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進している。	A	C	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	評価の指標は、系統毎の収支率及び輸送人員。前年度に引き続き令和6年1月に策定した地域公共交通利便増進実施計画に基づき段階的に路線再編を行い、利便性、効率性の向上に取り組まれたことを評価します。一方で、目標を達成できなかった系統に関しては、令和8年4月に予定されている路線再編後の利用状況等を踏まえ、利用者の生活行動の分析やニーズ把握が行われることを期待します。次年度に取り組むこととされている次期の地域公共交通計画の策定に向けた検討では、協議会において、現行の地域公共交通計画、地域公共交通利便増進実施計画の進捗を踏まえつつ、新たな課題やニーズに対応した持続可能性の高い地域旅客運送サービスの確保に向け積極的な議論が行われることを期待します。
		(8)市内東【唐津駅～シーサイド前～唐津駅】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進している。	A	C	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	
		(9)市内南【大手口～唐津赤十字病院前～唐津駅】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進している。	A	C	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	
		(10)志気【志気～市民病院きたはた】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進している。	A	C	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	
		(11)成瀬【成瀬上～市民病院きたはた】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進している。	A	B	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	
		(12)肥前地区デマンドタクシー【肥前地区内】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進している。	A	C	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
		(13)相知・巖木地区デマンドタクシー【相知・巖木地区内】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。 また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進し	A	B	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	
		(14)浜玉地区デマンドタクシー【浜玉地区内】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。 また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進し	A	C	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	
		(15)七山地区デマンドタクシー【七山地区内】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。 また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進し	A	A	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	
		(16)北波多地区デマンドタクシー【北波多地区内】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。 また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進している	A	B	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	
		(17)大良地区デマンドタクシー【大良・旭ヶ丘地区内】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。 また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進し	A	C	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	
		(18)からワンライン【唐津駅～まいづる999～イオン唐津店】	本年度は持続可能な公共交通構築のためR7.4に利便増進実施計画に基づく路線再編を実施し、運行効率化と運転士不足への対応を進めた。 また、関係機関との協議を経て、持続可能な公共交通の構築に向けた取り組みを推進し	A	C	R8.4に利便増進実施計画に基づく更なる路線再編を実施予定。今後も運転士不足への対応、運行効率化のための路線再編を関係各所と慎重に協議しながら推し進めていく。また、路線再編と併せてMaasを活用した様々な施策に取り組み、効率性と利便性を高める。	
		(19)玄海町AIオンデマンド交通【玄海町】		A	C	利用者からの要望に柔軟に対応しながら、サービス向上を図り、効率性及び利便性を向上させていく。また今後もデマンド交通の周知と利用促進を図っていく。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
基山町地域公共交通活性化協議会	基山町地域公共交通活性化協議会	【1号車】基山駅～けやき台～高島団地～基山駅系統(1、2便)	<p>・2号車(1便)で弥生が丘地区への乗り継ぎができるように1号車ダイヤを見直し、利用者への利便性向上及びより安全な運行の実施に努めた。</p> <p>・コミュニティバス便利帳を全戸配布することにより、免許証自主返納者に対する運賃無料化や回数券、フリーパスの販売について周知を行った。</p> <p>・町広報誌でお試し乗車券の配布を行い、利用促進を図った。</p> <p>・通学等で利用する小学生への利用促進に努めた。</p>	A	A	<p>・今年度実施した乗込調査を引き続き実施し、バス利用者から意見聴取を行うほか、運行ダイヤ、ルート等についても必要に応じて検討し、コミュニティバスの利便性向上に努める。</p> <p>・プラチナ社会政策課と連携し、コミバス乗車体験や参加者へのアンケートを行うことで、新規利用者をはじめとした利用者数の増加につなげる。</p> <p>・教育学習課と連携し、通学等利用の利便性向上に努める。</p>	<p>評価の指標は1日あたり平均利用者数。利用者ニーズを踏まえた運行内容の見直しや運転免許返納者に対する運賃無料化措置に加え、遠距離通学の小学生に対する利用促進等、様々な利用層に対する利用促進に積極的に取り組まれたことで目標達成に繋がったことを評価します。</p> <p>来年度は、これまで実証運行を重ねてきたAIオンデマンド交通の本格導入に向け具体的な検討に着手することとされており、利便性、効率性の高い地域旅客運送サービスの提供に向け協議会において積極的な議論がなされることを期待します。</p>	
		【1号車】基山駅～けやき台～高島団地～やよいがおか～憩の家～基山駅系統(3便)						
		【1号車】基山駅～けやき台～高島団地～憩の家～基山駅系統(4便)						
		【1号車】基山駅～けやき台～高島団地～やよいがおか～憩の家～基山駅系統(5便)						
		【1号車】基山駅～けやき台～高島団地～やよいがおか～憩の家～基山駅系統(6、8、9便)						
		【1号車】基山駅～けやき台～高島団地～憩の家～基山駅系統(7、10便)						
		【2号車】園部・長野通学～宮浦～中心部～本桜～園部～中心部(0、1便)						
		【2号車】宮浦～本桜～園部～本桜～長野～宮浦(2便)						
		【2号車】本桜～長野～宮浦～本桜～園部(3便)						
【2号車】中心部～園部～長野～本桜～宮浦(4便)								

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
有田町地域公共交通会議	有田町地域公共交通会議	有田町曲川・大山地区における区域運行 登録者住宅～有田町役場等間を1日6便運行	制度定着に向けて広報、周知に取り組み、免許返納支援事業等の利用促進を図った。	A	B	免許返納促進及び返納者の利用促進、高齢者サロン等での周知を引き続き実施していく。 新規乗降場所(福祉保健センター)の設定、コミュニティバスの路線再編の影響を注視する必要がある。	評価の指標は年間利用者数。 従来に引き続き、高齢者サロンでの周知等広報活動に取り組まれましたが、目標達成には至りませんでした。 令和8年4月に予定されている運行エリアの見直し後の利用状況に注視するとともに、持続可能な地域旅客運送サービスが提供されることを期待します。	
吉野ヶ里町地域公共交通活性化協議会	吉野ヶ里町地域公共交通活性化協議会	循環線(デマンドタクシー)	町の広報誌、町のホームページ等での周知及び、未設置店舗等に周知ポスターを配布し、利便性及び利用者数の向上に努めた。	A	A	広報による知名度向上及び免許返納者の増加等により、利用者数は増加傾向にある。引続き広報活動に取り組み、利便性の向上に努め、利用者の増加を図る。	評価の指標は、交通結節点での乗降客数。 従来に引き続き、高齢者等を中心にAIオンデマンド交通の利用方法の周知に積極的に取り組んだことで目標を達成されたことを評価します。 今後も交通事業者と連携し、住民の外出機会の創出等地域の移動需要の拡大に繋がる取組等を通じて、利便性、効率性の高い地域旅客運送サービスの提供されることを期待します。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
太良町地域公共交通活性化協議会	太良町地域公共交通活性化協議会	多良地区:伊福・片峰線	利用状況等を詳細に分析した上で再編を検討	A	A	令和7年10月1日運行再編	<p>評価の指標は、1日あたり乗車人数、1回あたり輸送人数。 従来より目標を達成できていなかった系統を中心に利用実態の把握・分析のほか地元関係者との意見交換等を行い、令和7年10月の路線再編に繋がったことを評価します。 引き続き利用状況の把握に努めていただき、持続可能な地域旅客運送サービスが提供されることを期待します。</p>
		多良地区:中山線	利用状況等を詳細に分析した上で再編を検討	A	A	令和7年10月1日運行再編	
		多良地区:端月・川北線	利用状況等を詳細に分析した上で再編を検討	A	A	令和7年10月1日運行再編	
		多良地区:中尾線	利用状況等を詳細に分析した上で再編を検討	A	C	令和7年10月1日運行再編	
		大浦地区:広谷・多良線	利用状況等を詳細に分析した上で再編を検討	A	A	令和7年10月1日運行再編	
		大浦地区:広谷線	利用状況等を詳細に分析した上で再編を検討	A	C	廃止(再編により広谷・多良線に統合)	
		大浦地区:道越・多良線	利用状況等を詳細に分析した上で再編を検討	A	C	令和7年10月1日運行再編	
		大浦地区:道越巡回線	利用状況等を詳細に分析した上で再編を検討	A	C	廃止(再編により道越・多良線に統合)	
		大浦地区:今里・多良線	利用状況等を詳細に分析した上で再編を検討	A	A	令和7年10月1日運行再編	
		大浦地区:今里線	利用状況等を詳細に分析した上で再編を検討	A	C	廃止(再編により今里・多良線に統合)	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
大町町地域公共交通会議	大町町地域公共交通会議	「まちバス」南北ルート	前回の事業評価結果では、1日あたりの乗車人数、1回あたりの乗車人数は目標達成度約100%で目標を達成することができた。今年度の目標達成のための利用促進策として、利用者の少なかった第5便、第6便を対象に、下校時の高校生へコミュバス利用の呼び掛けを行った。	A	A	東西ルートと比較すると乗車実績は低い状況にある。現在、利用者がほとんどないバス停があり周辺住民への利用を呼びかけるとともに、より多くの利用可能性が見込める場所へのバス停移設を検討する。トライアルへの出入りに時間を要するため、町道への乗り入れ口の新設について、より利便性が高くなるよう事業者も巻き込んで取り組んでいく。	評価の指標は、系統別1日あたり乗車人数と1回あたり乗車人数。課題を明確に把握し必要な対策に着手に取り組まれることで、毎年度利用者数の増加に繋がっていることを評価します。引き続き利用者のニーズや利用実態の把握に努めていただき必要な見直しをご検討いただくことで、利便性、効率性の高い地域旅客運送サービスが提供されることを期待します。
		「まちバス」東西ルート	前回の事業評価結果では、1日あたりの乗車人数、1回あたりの乗車人数は目標達成度約125%で目標を達成することができた。今年度の目標達成のための利用促進策として、利用者の少なかった第5便、6便を対象に、下校時の高校生へコミュバス利用の呼び掛けを行った。	A	A	利用者が少ないバス停については、周辺住民への利用の呼びかけを行う。トライアルの出入りに時間を要するため、町道への乗り入れ口の新設について、より利便性が高くなるよう事業者も巻き込んで取り組んでいく。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年2月27日

九州運輸局

評価対象事業名:地域公共交通確保維持改善事業(フィーダー)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
長崎市公共交通 活性化協議会	長崎市公共交通活 性化協議会	琴海地区の運行	自治会回覧の周知や、地域 コミュニティ協議会の場を通 じて、デマンド交通の紹介や 利用促進を図った。	A	B	自治会回覧や地域の集まり の場を活用して利用促進を 継続する。	評価指標は、1便当たりの利 用者数。 乗合タクシーの利用につい て、今後も運行内容の周知 徹底や実態に応じた運行内 容の見直しを行うなど、利用 者増に向けた利便性向上の 取組を行うことを期待しま す。	
		東部地区の運行	自治会回覧による運行内容 を周知するとともに、連合自 治会の会合の場で利用状況 を共有することで、路線維持 に対する意識を地域全体で 持てた。	A	B	自治会回覧等で運行内容の 周知や利用促進を継続す る。	評価指標は、1日当たりの利 用者数。 今後も運行内容の周知徹底 や実態に応じた運行内容の 見直しを行うなど、利用者増 に向けた利便性向上の取組 を行うことを期待します。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
佐世保市・佐々町 地域公共交通活 性化協議会	佐世保市・佐々町 地域公共交通活 性化協議会	岩下洞穴・瀬戸越 団地線 【車両減価償却費 等国庫補助金交付 対象】	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の会議等で周知するなど、沿線町内会を通じたPR活動や専用回数券の継続利用などで、利用者の維持に努めた。 ・水道工事に伴う一部運行ルート・停留所の変更について、該当地域への周知、HPでの周知を実施した。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の利便性向上や利用促進のため、地元住民代表と交通事業者、行政による「交通対策協議会」を開催し、利用促進に向けた取り組みを行い、利用者の増加を図る。 ・今後も水道工事に伴う通行止めが予定されていることから、運行ルート等の変更について、該当地域への周知に加え、HPでの周知を実施する。 	<p>評価指標は、1回当たりの平均乗客数。</p> <p>地元住民代表等による交通対策協議会を定期的に開催し、バスの利用状況等の情報共有、改善策を協議されるなど利用促進に取り組みられていることを評価します。</p> <p>引き続き、利用実態を把握し、利便性向上や利用促進に取り組んでいただき、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。</p>	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
大村市地域公共交通会議	大村市地域公共交通会議	地域内フィーダー系統 (乗合バス型運行) 富の原協和町線 (野岳入口行き)	反映することができた。	A	A	引き続き地域に最適で持続可能な移動手段の確保に努めたい。	評価の指標は、平均乗車密度。適切なダイヤの見直しなど利用促進に向けた取組を行っていることについて評価します。引き続き、協議会が設定する今後の改善点が着実に実施されることにより、持続可能な公共交通が構築されることを期待します。	
		地域内フィーダー系統 (乗合バス型運行) 富の原協和町線 (黒丸入口行き)	反映することができた。	A	B	今後も利用動向を注視し、適切なダイヤ設定を検討するなど、利便性の向上に努めたい。		
		地域内フィーダー系統 (乗合バス型運行) 南部循環線 (右回り)	反映することができた。	A	A	引き続き地域に最適で持続可能な移動手段の確保に努めたい。		
		地域内フィーダー系統 (乗合バス型運行) 南部循環線 (左回り)	反映することができた。	A	A	引き続き地域に最適で持続可能な移動手段の確保に努めたい。		
		地域内フィーダー系統 (乗合バス型運行) 小路口諏訪線	反映することができた。	A	A	引き続き地域に最適で持続可能な移動手段の確保に努めたい。		
		地域内フィーダー系統 (乗合バス型運行) 北部循環線 (右回り)	反映することができた。	A	A	引き続き地域に最適で持続可能な移動手段の確保に努めたい。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		地域内フィーダー系 系統 (乗合バス型運行) 北部循環線 (左回り)	反映することができた。	A	A	引き続き地域に最適で持続 可能な移動手段の確保に努 めたい。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
平戸市愛のり交通 活性化委員会	平戸市愛のり交通 活性化委員会	令和2年10月1日より実施した市内公共交通再編に伴い、既存幹線の再編によるフィーダー系統の整備を行い、平戸市中南部地区住民の交通利便性向上を図ることを目的に、市ふれあいバス(紐差-宮の浦線)の運行を実施する。	・目標に対する評価 ⇒収支率を1%増加 ※(前回)R7年度収支率: 9.2% ※前年同期(R5.10~R6.3)	A	B	①引き続き交通事業者や高校、病院等と協議し、利便性の良いダイヤの検討、接続強化を図るとともに、利用者が極端に少ない昼間の時間帯での区域運行の導入など、効率性の高い運行ダイヤの検討に努める。 ②キャッシュレス決済の推進により、利用者確保を目指すとともに、行政や委託事業者の事務負担軽減に努める。 ③人件費や燃料費等、物価高騰の影響により経費が増加している。経費増減に見合った対価設定を図る等、当該路線の今後の在り方について検討していく。	評価の指標は、収支率を前年比0.3%増加。目標値である収支率については達成出来なかったものの、学生を中心に利用者が増加しており、営業収益が増加していることは評価します。引き続き、協議会が設定する今後の改善点が着実に解決されることにより、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
松浦市地域公共交通活性化協議会	松浦市地域公共交通活性化協議会	乗合タクシー(定時 定路線型)の運行 (阿翁浦～入野線)	協議会や分科会等を通じて運行事業者や地域住民と情報交換を行っている。 松浦市地域公共交通計画ではバス利用者数の令和8年度(計画最終年度)の目標値を11,601人に設定しており、利用促進策に係る個別のKPIについては、事業実施段階において協議会において検討する。	A	B	収支率低下の要因は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による公共交通利用者の減に加え、原油高による燃料費の高騰が大きい。 今後は利用促進策の強化(チラシの配布等)に努める。	評価の指標は、路線毎の収支率。 協議会や分科会等を通じて運行事業者や地域住民と情報交換を行っていることについては評価します。 今後島内の人口減少が進む中、利用状況の把握や分析を行い、地域公共交通計画の施策が着実に実施され、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。	
		デマンドタクシー (区域型)の運行 (阿翁浦線)	松浦市地域公共交通計画では乗合タクシー利用者数の令和8年度(計画最終年度)の目標値を8,206人に設定しており、利用促進策に係る個別のKPIについては、事業実施段階に協議会において検討する。	A	B	収支率低下の要因は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による公共交通利用者の減に加え、原油高による燃料費の高騰が大きい。 今後は利用促進策の強化(チラシの配布等)に努める。		
		デマンドタクシー (区域型)の運行 (殿ノ浦線)	松浦市地域公共交通計画では乗合タクシー利用者数の令和8年度(計画最終年度)の目標値を8,206人に設定しており、利用促進策に係る個別のKPIについては、事業実施段階に協議会において検討する。	A	B	収支率低下の要因は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による公共交通利用者の減に加え、原油高による燃料費の高騰が大きい。 今後は利用促進策の強化(チラシの配布等)に努める。		
		デマンドタクシー (区域型)の運行 (船唐津線)	松浦市地域公共交通計画では乗合タクシー利用者数の令和8年度(計画最終年度)の目標値を8,206人に設定しており、利用促進策に係る個別のKPIについては、事業実施段階に協議会において検討する。	A	A	今後は利用促進策の強化(チラシの配布等)に努める。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
対馬市地域公共交通活性化協議会	対馬市地域公共交通活性化協議会	椎根～厳原間予約制乗合タクシーの運行 椎根・厳原線	75歳以上への公共交通利用券(500円×12枚)の配布や免許返納者への優遇制度等の周知を図り利用者の増加を目指した。	A	A	対馬市が実施する75歳以上の在宅高齢者へ交付している公共交通利用券(500円×12枚)や免許返納者への優遇制度等の更なる周知を図り、新たな利用者の獲得を目指す。また、事業者や利用者にはヒアリングを行い、ニーズに沿った運行へ転換し、利用者数増加につながる取組を検討する。	評価の指標は、1便当たりの利用者数。 定時路線から時間帯の運行へ変更するなど利用者の要望や実態に合わせた利便性向上の取組について評価します。 現在75才以上の方への公共交通利用券の配布や免許返納者への優遇制度等の周知を図っているが、他の利用者のニーズも把握した上で、協議会が設定する今後の改善点が着実に実施されることを期待します。	
		田ノ浜～樫滝間コミュニティバスの運行 田ノ浜・樫滝線	75歳以上への公共交通利用券(500円×12枚)の配布や免許返納者への優遇制度等の周知を図り利用者の増加を目指した。	A	B	対馬市が実施する75歳以上の在宅高齢者へ交付している公共交通利用券(500円×12枚)や免許返納者への優遇制度等の更なる周知を図り、新たな利用者の獲得を目指す。田ノ浜～越高間コミュニティバスの運行を田ノ浜・樫滝線へ統合し、利用者数の増加を図る。		
		田ノ浜～佐賀間コミュニティバスの運行 田ノ浜・佐賀線	75歳以上への公共交通利用券(500円×12枚)の配布や免許返納者への優遇制度等の周知を図り利用者の増加を目指した。	A	A	引き続き、対馬市が実施する75歳以上の在宅高齢者へ交付している公共交通利用券(500円×12枚)や免許返納者への優遇制度等の更なる周知を図り、新たな利用者の獲得を目指す。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		雞知～緒方間予約 制乗合タクシーの 運行 雞知・緒方線	75歳以上への公共交通利用 券(500円×12枚)の配布や 免許返納者への優遇制度等 の周知を図り利用者の増加 を目指した。	A	B	対馬市が実施する75歳以上 の在宅高齢者へ交付してい る公共交通利用券(500円× 12枚)や免許返納者への優 遇制度等の更なる周知を図 り、新たな利用者の獲得を目 指す。また、事業者や利用者 にヒアリングを行い、ニーズ に沿った運行へ転換し、利用 者数増加につながる取組を 検討する。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
五島市公共交通 活性化再生協議 会	五島市公共交通活 性化再生協議会	五島市久賀島内17 系統運行	渡船待合所へ時刻表を掲示 し、利用促進を図っている。	A	B	今後も引き続き利用者数拡 大を目指し、運行事業者や 地域町内会と連携し利用促 進に取り組む。	評価指標は、年間利用者 数。 利用者のニーズに合わせた 運行の見直しや時刻表の刑 事、広報誌や戸別訪問等で 利用促進を図っていること について評価します。 引き続き利用状況の把握や 分析を行い、持続可能な公 共交通となることを期待し ます。	
		五島市福江島内1 系統運行 (空港線)	五島つばき空港や福江港 ターミナルに時刻表を掲示す るとともに運行事業者のホー ムページで継続して周知を 行っている。	A	A	引き続き五島つばき空港や 福江港ターミナルに時刻表を 掲示するとともに運行事業者 のホームページで周知を図 る。		
		五島市富江地区1 系統運行 (区域運行)	広報誌や市ホームページへ の掲載を通じて事業内容や 利用方法を周知し、市民の 理解促進と利用拡大を図っ た。	A	B	広報紙やホームページで周 知を図るとともに、イベント などで地域住民と接する機会 を創出することで、移動に関 するニーズや利用満足度等 を把握し、よりよい運行形態 となるよう努める。		
		五島市岐宿地区1 系統運行 (区域運行)	広報誌や市ホームページへ の掲載を通じて事業内容や 利用方法を周知し、市民の 理解促進と利用拡大を図っ た。	A	B	広報紙やホームページで周 知を図るとともに、イベント などで地域住民と接する機会 を創出することで、移動に関 するニーズや利用満足度等 を把握し、よりよい運行形態 となるよう努める。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		五島市福江地区1 系統運行 (区域運行)	広報誌や市ホームページへの掲載を通じて事業内容や利用方法を周知し、市民の理解促進と利用拡大を図った。	A	A	広報紙やホームページで周知を図るとともに、イベントなどで地域住民と接する機会を創出することで、移動に関するニーズや利用満足度等を把握し、よりよい運行形態となるよう努める。		
		五島市富江地区1 系統運行 (太田～富江線)	支所へのチラシ掲示や広報誌で周知を行った。	A	A	引き続き利用促進活動に取り組み、路線の維持存続に努める。		
		五島市奈留地区1 系統運行 (区域運行)	広報誌や市ホームページへの掲載を通じて事業内容や利用方法を周知し、市民の理解促進と利用拡大を図った。	A	B	広報紙やホームページで周知を図るとともに、イベントなどで地域住民と接する機会を創出することで、移動に関するニーズや利用満足度等を把握し、よりよい運行形態となるよう努める。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
新上五島町交通 ネットワーク促進 協議会	新上五島町交通 ネットワーク促進協 議会	①浜串～有川線 有川港ターミナル ～浜串間の運行	これまでに作成した交通マップ等の啓発パンフレットの利用促進のために、ニューズレターや、電子書籍化によるインターネットでの周知を行い、利用促進に努めた。	A	A	地域の実情把握により、利用促進に努める。	評価の指標は、1往復当たりの利用者数。 自己評価については、ニューズレターや電子書籍化によるインターネットでの周知など利用促進についての取組について評価します。 今後は、利用実態の把握・分析を行うとともに、利便性向上や利用促進に取り組んでいただき、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。	
		②浜串～有川線 浜串入口～有川港 ターミナル間の運 行	これまでに作成した交通マップ等の啓発パンフレットの利用促進のために、ニューズレターや、電子書籍化によるインターネットでの周知を行い、利用促進に努めた。	A	B	目標値を下回ったものの地域の実情把握により、更なる利用促進に努める。		
		③江の浜線1 有川港ターミナル ～頭ヶ島協会間の 運行	これまでに作成した交通マップ等の啓発パンフレットの利用促進のために、ニューズレターや、電子書籍化によるインターネットでの周知を行い、利用促進に努めた。	A	B	目標値を下回ったものの地域の実情把握により、更なる利用促進に努める。		
		④江の浜線2 有川港ターミナル ～江の浜間の運行	これまでに作成した交通マップ等の啓発パンフレットの利用促進のために、ニューズレターや、電子書籍化によるインターネットでの周知を行い、利用促進に努めた。	A	B	目標値を下回ったものの地域の実情把握により、更なる利用促進に努める。		
		⑤江の浜線3 頭ヶ島協会～青島 間の運行	これまでに作成した交通マップ等の啓発パンフレットの利用促進のために、ニューズレターや、電子書籍化によるインターネットでの周知を行い、利用促進に努めた。	A	B	目標値を下回ったものの地域の実情把握により、更なる利用促進に努める。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		⑥江の浜線4 青方～江の浜間の 運行	これまでに作成した交通マップ等の啓発パンフレットの利用促進のために、ニューズレターや、電子書籍化によるインターネットでの周知を行い、利用促進に努めた。	A	B	目標値を下回ったものの地域の実情把握により、更なる利用促進に努める。		
		⑦鯛の浦線1 鯛ノ浦～有川港 ターミナル間の運 行	これまでに作成した交通マップ等の啓発パンフレットの利用促進のために、ニューズレターや、電子書籍化によるインターネットでの周知を行い、利用促進に努めた。	A	A	地域の実情把握により、利用促進に努める。		
		⑧神之浦線1 有川港ターミナル ～干切間の運行	これまでに作成した交通マップ等の啓発パンフレットの利用促進のために、ニューズレターや、電子書籍化によるインターネットでの周知を行い、利用促進に努めた。	C	B	利用者の減少等に伴い、令和6年11月30日付で路線廃止となった。		
		⑨神之浦線2 有川港ターミナル ～干切間の運行	これまでに作成した交通マップ等の啓発パンフレットの利用促進のために、ニューズレターや、電子書籍化によるインターネットでの周知を行い、利用促進に努めた。	A	B	目標値を下回ったものの地域の実情把握により、更なる利用促進に努める。		
		⑩神之浦線3 有川港ターミナル ～浜串入口間の運 行	これまでに作成した交通マップ等の啓発パンフレットの利用促進のために、ニューズレターや、電子書籍化によるインターネットでの周知を行い、利用促進に努めた。	A	B	目標値を下回ったものの地域の実情把握により、更なる利用促進に努める。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		⑪神之浦線4 浜串～有川港ター ミナル間の運行	これまでに作成した交通マッ プ等の啓発パンフレットの利 用促進のために、ニューズレ ターや、電子書籍化によるイ ンターネットでの周知を行 い、利用促進に努めた。	A	B	目標値を下回ったものの地 域の実情把握により、更なる 利用促進に努める。		

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年2月27日
九州運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持改善事業(フィーダー)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
天草地域公共交通活性化協議会	天草地域公共交通活性化協議会	本渡市街地循環線(のってみゆうかー)の運行	令和5年3月からコロナの規制緩和が行われたことから一時的に移動需要が増加したものと分析している。公共交通乗り方教室を開催し、市内小学校等8か所で低学年中心に300人が参加。バスに関する学習や実車による乗車体験を引き続き実施。バスの路線図や時間を記載したチラシを作成し、公共施設等への配布・架設を実施。事業者においては、バス電車1日乗車券「わくわく1DAYバス」のデジタルチケットを導入し、利用促進を実施。のってみゆうかーは循環線であるため、乗降データの取得が困難であったことから、利用者アンケートにより調査を実施。	A	B	公共交通乗り方教室等の利用促進の取組みを継続的に実施する。また、福祉・教育・まちづくりなど他分野との連携の可能性を模索し、さらなるPR活動の充実を図っていく。利用者アンケートから把握したよく利用されるバス停や周辺状況をチラシ等に記載するなど、情報の充実化を図る。	評価の指標は、年間利用者数及び1便当たりの利用者数。小学生を対象とした乗り方教室の実施や広報活動など、利用促進に取り組みされたことを評価します。自己評価については、利用者の増加・減少の要因を分析し、そこから対応策に繋げていくこともご検討願います。今後も、協議会が設定する今後の改善点の着実な実施とともに、地域の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。	
		熊本地区高齢者学級等において乗合タクシーのチラシを活用し、10か所で188人に周知。	A	A	運行内容を見直しながら、利便性の向上を図る。福祉、教育、まちづくりなどの分野との連携をさらに強化し、利用促進に取り組んでいく。			
		新和地域AIオンデマンド乗合タクシーの運行	-	A	B	福祉、教育、まちづくりなどの分野との連携をさらに強化し、利用促進に取り組んでいく。		
南阿蘇鉄道沿線地域公共交通活性化協議会	南阿蘇鉄道沿線地域公共交通活性化協議会	・ゆるっとバス白水ルート(白川水源入口・温泉センター環状経由)高森駅前～立野駅(R6.10.1～R7.9.30)	利用者からの要望、意見等を随時受け付け、ニーズの把握を行うとともに、平成28年熊本地震にかかるインフラ復旧など(南阿蘇鉄道全線運転再開)にあわせた運行ルートやダイヤの見直しを適宜行い、公共交通の確保に努めた。	A	B	南阿蘇鉄道全線運転再開により利用者の大幅な減少があった。今後については、運行事業者などと利用者の動向や現状把握に努め、利便性向上のためのダイヤ改正やルートの見直しを行い、他の交通モードとの接続強化に努め、より効果的で利便性の高い公共交通体系の構築に取り組む。	評価の指標は、年間利用者数。「目標・効果達成状況」欄に系統ごとの利用者の増加・減少の要因を詳細に分析し、記載が行われている点を評価します。	
		・ゆるっとバス白水ルート(白川水源入口経由)高森駅前～立野駅(R6.10.1～R7.9.30)				多様化する移動ニーズに対応するため、鉄道等との連携・役割分担を明確にし、地域公共交通ネットワークの再構築に取り組まれることを期待します。		
		・ゆるっとバス久木野ルート(あそ望の郷・長陽駅前経由)高森駅前～南阿蘇村役場(R6.10.1～R7.9.30)						
合志市地域公共交通協議会	合志市地域公共交通協議会	レターバス(北ルート1便目、8便目)	乗降カウントシステムにより、利用状況の把握・分析を行った。また、利便増進を目的として、ダイヤ改正の準備を行った。利用促進の取り組みとして、地域の高齢者団体への公共交通の利用案内や、市民祭りでバスの乗り方教室を実施した。また、マイ時刻表による乗り換え案内を実施した。	A	B	目標値に対し、一部目標を達成。運行路線について、次年度に見直しを行い、より地域のニーズにあった路線の構築を目指し、利便性の向上を図る。併せて、中高生の通学手段、高齢者の買い物・通院の移動手段確保のため、実態に則した適切な移動サービスを検討する。	評価の指標は、利用者数、収支率、公共交通を利用している市民の数、乗り継ぎが円滑にできている市民の数、主要な駅・バス停の乗降者数、レターバスの遅れ時間及び市民1人あたりの運行委託料。バスの乗り方教室や広報活動などの利用促進への取り組みのほか、乗降データにより利用状況を把握・分析しダイヤ改正に向けた準備を進められたことを評価します。自己評価については、利用者の増加・減少の要因を分析し、そこから対応策に繋げていくこともご検討願います。今後も、協議会が設定する今後の改善点の着実な実施とともに、地域の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における	備考	
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点		二次評価結果
水俣市地域公共交通協議会	水俣市地域公共交通協議会	水俣駅・葛彩館線 (水俣駅前～水俣市役所・渡野～葛彩館)	第三者評価委員会における評価に対する反映状況 (1) 系統ごとに利用者の増加・減少の要因を詳しく分析し、改善に繋げていくことが重要。 ⇒系統ごとの利用状況を詳細に把握するため、乗降カウントシステムなどの導入を検討する。	A	A	(1) 乗降カウントシステムなどの導入により、利用状況を詳細に把握することで、分析・改善に繋げる。	評価の指標は、年間利用者数の減少率の抑制。 バス事業者と連携し、バス乗り方教室を実施するなど、利用促進に取り組まれたことを評価します。 自己評価については、利用者の増加・減少の要因を分析し、そこから対応策に繋げていくこともご検討願います。 今後も、協議会が設定する今後の改善点の着実な実施とともに、地域の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。	
		水俣駅・大川線 (水俣駅前～深川・愛林館前～大川公民館前)	(2) 現在策定中の地域公共交通計画に基づき、今後も地域の関係者の連携と協働による「共創」の取り組みの一層の推進を期待する。 ⇒令和7年4月に、連携事業者からの支援により、水俣駅へ「トヨタカーシェア」を導入し、2次交通の充実を図った。 また、令和7年10月には、運行事業者の協力により、高齢者向け乗り方教室を実施し、市民のバス利用の促進を図った。	A	B	(2) 地域公共交通計画に基づき、引き続き、地域の関係者の連携と協働による「共創」の取組を推進する。		
		流合橋経由招川内・茂道線 (招川内～流合橋・水俣駅前～茂道漁港)		A	A	引き続き、みならずバス運賃無償化事業補助金を実施し、利用者数の増加を図る。		
		頭石経由招川内・茂道線 (招川内～頭石・水俣駅前～茂道漁港)		A	B			
		木臼野経由水俣市役所・水俣駅線 (水俣市役所～梅戸・木臼野～水俣駅前)		A	A			
		水俣市役所・木臼野線 (水俣市役所～梅戸・茂川～木臼野上)		A	B			
長洲・荒尾地域公共交通活性化協議会	長洲・荒尾地域公共交通活性化協議会	長洲町予約型タクシー(きんぎょタクシー)の運行 (長洲町内全域及び荒尾市・玉名市の特定施設)	長洲・荒尾地域内フィーダー系統確保維持計画どおり長洲町予約型乗合タクシー(きんぎょタクシー)を運行した。また、運転免許証返納者(65歳以上)への1年間無料乗車券配布などを継続して実施し、日常生活に必要な移動手段の確保を図った。利用者からの要望を受けて土曜日における実証運行を行い、利用者増加に向けて取り組んだ。	A	A	R6年3月に策定した「長洲町地域公共交通計画」に基づき、きんぎょタクシーの利便性を更に高め、利用者数の増加を図る。 また、土曜日における乗合タクシーの実証運行の結果を受けて、本格運行に向けて取り組み、利用者の更なる増加を図る。	評価の指標は、年間利用者数及び財政負担額。 運転免許証返納者への無料乗車券の配布や地域の要望に基づき土曜日に実証運行を行うなど、利用促進等に取り組まれ、目標を達成されたことを評価します。引き続き、利用者のニーズや利用実態を把握した上で、継続的な協議が進められることを期待します。 今後も、協議会が設定する今後の改善点の着実な実施とともに、地域の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。	
益城町地域公共交通会議	益城町地域公共交通会議	福田地区～指定停留所14箇所への予約型運行 (1日8便、日曜祝日年末年始は運休)	運行内容を変更(便数や指定停留所数の追加)し、利用者は増加傾向にある。 前回の輸送実績と目標値の差が大きかったため、令和7年度より目標値を実績をふまえた算定方法に見直している。	A	A	利用状況を注視しながら、広報活動やさらに見直しが必要な部分等についても柔軟に検討していく。広報においては、主な利用者層である高齢者にわかりやすく伝わるよう周知する。	評価の指標は、年間利用者数。 利用者ニーズに応じ、増便や停留所の追加など利便性の向上に取り組まれたことを評価します。引き続き、利用者のニーズや利用実態を把握した上で、継続的な協議が進められることを期待します。 自己評価にあたっては、実績値に対する評価だけでなく、利用者の増加・減少の要因を分析し、そこから対応策に繋げて行くこともご検討願います。 今後も、協議会が設定する今後の改善点の着実な実施とともに、地域の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
宇土市地域公共交通活性化協議会	宇土市地域公共交通活性化協議会	ミニバス網津・緑川線の運行	老朽化したバス停や認識が困難になっているバス停の整備や、無料運行を実施し、乗車機会の創出と公共交通に対する意識啓発による利用促進に取り組んだ。 また、関係施設へのチラシの設置や広報紙、HP、各種SNSにより幅広い年齢層へ情報発信を行った。	A	C	事業は適切に実施されたが、目標は未達成であった。本系統は他系統と比較すると利用者が多いが、今後も利用者を増やすため、地域公共交通計画との整合性を図りながら、ルートの見直しや広報紙・SNS等を活用し、積極的な利用啓発に努めていく。	評価の指標は、年間利用者数、1便当たりの利用者数及び収支率。 バス停の整備や無料運行による乗車機会の創出、公共交通の周知活動に取り組まれたことを評価します。	
		ミニバス宇土北部線の運行	老朽化したバス停や認識が困難になっているバス停の整備や、無料運行を実施し、乗車機会の創出と公共交通に対する意識啓発による利用促進に取り組んだ。 また、関係施設へのチラシの設置や広報紙、HP、各種SNSにより幅広い年齢層へ情報発信を行った。	A	B	事業は適切に実施されたが、年間利用者数の目標が未達成であった。 本系統は他系統と比較すると大幅に増加傾向にある。今後もより利用者を増やすため、地域公共交通計画との整合性を図りながら、ルートの見直しや広報紙・SNS等を活用し、積極的な利用啓発に努めていく。	自己評価にあたっては、実績値に対する評価だけでなく、利用者の増加・減少の要因を分析し、そこから対応策に繋げて行くこともご検討願います。	
		ミニバス轟線の運行	老朽化したバス停や認識が困難になっているバス停の整備や、無料運行を実施し、乗車機会の創出と公共交通に対する意識啓発による利用促進に取り組んだ。 また、関係施設へのチラシの設置や広報紙、HP、各種SNSにより幅広い年齢層へ情報発信を行った。	A	C	事業は適切に実施されたが、目標は未達成であった。本系統は運行エリアが市街地に近く、需要の掘り起こしが難しい系統である。 そのため、地域公共交通計画との整合性を図りながら、様々な輸送資源を活用した交通体系を検討していく。		
		ミニバス花園北部線の運行	老朽化したバス停や認識が困難になっているバス停の整備や、無料運行を実施し、乗車機会の創出と公共交通に対する意識啓発による利用促進に取り組んだ。 また、関係施設へのチラシの設置や広報紙、HP、各種SNSにより幅広い年齢層へ情報発信を行った。	A	C	事業は適切に実施されたが、目標は未達成であった。本系統の利用者数は、これまで増加傾向にあったものの、令和7年度はやや減少に転じた。今後もより利用者を増やすため、地域公共交通計画との整合性を図りながら、ルートの見直しや広報紙・SNS等を活用し、積極的な利用啓発に努めていく。		
		ミニバス花園南部線の運行	老朽化したバス停や認識が困難になっているバス停の整備や、無料運行を実施し、乗車機会の創出と公共交通に対する意識啓発による利用促進に取り組んだ。 また、関係施設へのチラシの設置や広報紙、HP、各種SNSにより幅広い年齢層へ情報発信を行った。	A	C	事業は適切に実施されたが、目標は未達成であった。本系統は他系統と比較すると1便当たりの利用者数が少なく、ニーズを把握し需要の掘り起こしが必要と思われる。また、より利用者を増やすため、地域公共交通計画との整合性を図りながら、ルートの見直しや広報紙・SNS等を活用し、積極的な利用啓発に努めていく。		
		コミュニティバス(循環線)の運行	無料運行や乗り方教室、イベントなどに合わせた周知啓発等、乗車機会の創出と公共交通に対する意識啓発による利用促進に取り組んだ。 また、関係施設へのチラシの設置や広報紙、HP、各種SNSにより幅広い年齢層へ情報発信を行った。	A	C	事業は適切に実施されたが、目標は未達成であった。本系統は市街地を循環する系統であり、市街地の拠点間の移動を目的としており、利用者は増加傾向にある。今後もより利用者を増やすため、地域公共交通計画との整合性を図りながら、ルートの見直しや路線バスやJR、ミニバス等の他の交通機関との接続性の向上を検討していく。 また、広報紙やSNS等を活用し、積極的な利用啓発に努めていく。		
		予約型乗合タクシーの運行	高齢者福祉部門と連携した各種説明会における周知活動等を通じ、公共交通に対する意識啓発による利用促進に取り組んだ。また、LINE予約・運行管理システムを導入し、運行事業者の予約・配車業務の負担軽減及び利用者の利便性向上を図った。 さらに、関係施設へのチラシの設置や広報紙、HP、各種SNSにより幅広い年齢層へ情報発信を行った。	A	B	事業は適切に実施されたが、収支率の目標が未達成であった。 運行開始当初から比較すると利用者は増加している。今後もより利用者を増やすため、関係機関との連携を強化するとともに、広報紙やSNS等を活用し、積極的な利用啓発に努めていく。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
荒尾市地域公共交通活性化協議会	荒尾市地域公共交通活性化協議会	荒尾市予約型乗合タクシー(平井地区)の運行	地域包括支援センターが主催する介護予防教室の参加者を対象に、参加者の行動パターンに合った公共交通利用プランの提案などを行う「モビリティ・マネジメント」を実施し、公共交通の利用促進を図った。 さらに、公共交通のメリットを説明した動画を作成し、教室で視聴していただくことで、参加者の公共交通への利用転換を促した。 また、広報紙や市のホームページ等により、情報発信を行った。	A	C	地区ごとに利用実態を把握し、高齢者や通勤利用者を含めた利用促進に向けた周知を強化していく。 あわせて、モビリティ・マネジメントの対象者や手法について検討し、効果的な利用促進策を実施する。また、おもいやりタクシーとの相互利用を推進することで利用促進を図る。	評価の指標は、利便性に関する満足度及び年間利用者数。 地域の関係者等と連携したモビリティ・マネジメントの実施や乗り方教室や公共交通に関する情報発信など、利用促進に取り組みられたことを評価します。
		荒尾市予約型乗合タクシー(府本地区)の運行	地域包括支援センターが主催する介護予防教室の参加者を対象に、参加者の行動パターンに合った公共交通利用プランの提案などを行う「モビリティ・マネジメント」を実施し、公共交通の利用促進を図った。 さらに、公共交通のメリットを説明した動画を作成し、教室で視聴していただくことで、参加者の公共交通への利用転換を促した。 また、広報紙や市のホームページ等により、情報発信を行った。	A	C	地区ごとに利用実態を把握し、高齢者や通勤利用者を含めた利用促進に向けた周知を強化していく。 あわせて、モビリティ・マネジメントの対象者や手法について検討し、効果的な利用促進策を実施する。また、おもいやりタクシーとの相互利用を推進することで利用促進を図る。	全ての指標において目標値を下回っていることから、目標達成に向け、地域の関係者の連携と協働による「共創」の取り組みの一層の推進に期待します。
		住吉線(再編前)の運行 (R6.10.1～R6.11.30) 東履形福祉村循環線(再編後)の運行 (R6.12.1～R7.9.30)	地域包括支援センターが主催する介護予防教室の参加者を対象に、参加者の行動パターンに合った公共交通利用プランの提案などを行う「モビリティ・マネジメント」を実施し、利用促進を図った。 さらに、公共交通のメリットを説明した動画を作成し、教室で視聴していただくことで、参加者の公共交通への利用転換を促した。 また、市内の幼稚園・保育園において、バス乗り方教室を実施したほか、ゆめタウンシティモールにおいても、「バス乗車体験会を実施した。いずれの施策においても、「無料お試し乗車券」を配付し、利用促進を図った。	A	C	利用状況の調査結果を踏まえ、令和6年12月路線再編を実施し、有明医療センターへの乗入れを開始したほか、ニーズに応じた運行回数・ダイヤを設定し、利便性の向上を図った。 今後も再編後の利用状況を継続的に検証するとともに、利用促進に向けた周知の強化を図り、利用者数の回復・増加を目指す。 また、モビリティ・マネジメントの対象者や手法について検討し、効果的な利用促進策を実施する。 おもいやりタクシーとの相互利用を推進することで利用促進を図る。	今後も、協議会が設定する今後の改善点の着実な実施とともに、地域の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。
		倉掛線(再編前)の運行 (R6.10.1～R6.11.30) 倉掛循環線(再編後)の運行 (R6.12.1～R7.9.30)	地域包括支援センターが主催する介護予防教室の参加者を対象に、参加者の行動パターンに合った公共交通利用プランの提案などを行う「モビリティ・マネジメント」を実施し、利用促進を図った。 さらに、公共交通のメリットを説明した動画を作成し、教室で視聴していただくことで、参加者の公共交通への利用転換を促した。 また、市内の幼稚園・保育園において、バス乗り方教室を実施したほか、ゆめタウンシティモールにおいても、「バス乗車体験会を実施した。いずれの施策においても、「無料お試し乗車券」を配付し、利用促進を図った。	A	C	利用状況の調査結果を踏まえ、令和6年12月路線再編を実施し、有明医療センターへの乗入れを開始したほか、ニーズに応じた運行回数・ダイヤを設定し、利便性の向上を図った。 今後も再編後の利用状況を継続的に検証するとともに、利用促進に向けた周知の強化を図り、利用者数の回復・増加を目指す。 また、モビリティ・マネジメントの対象者や手法について検討し、効果的な利用促進策を実施する。 おもいやりタクシーとの相互利用を推進することで利用促進を図る。	
		八幡台線(再編前)の運行 (R6.10.1～R6.11.30) 八幡台線(再編後)の運行 (R6.12.1～R7.9.30)	地域包括支援センターが主催する介護予防教室の参加者を対象に、参加者の行動パターンに合った公共交通利用プランの提案などを行う「モビリティ・マネジメント」を実施し、利用促進を図った。 さらに、公共交通のメリットを説明した動画を作成し、教室で視聴していただくことで、参加者の公共交通への利用転換を促した。 また、市内の幼稚園・保育園において、バス乗り方教室を実施したほか、ゆめタウンシティモールにおいても、「バス乗車体験会を実施した。いずれの施策においても、「無料お試し乗車券」を配付し、利用促進を図った。	A	C	利用状況の調査結果を踏まえ、令和6年12月路線再編を実施し、有明医療センターへの乗入れを開始したほか、ニーズに応じた運行回数・ダイヤを設定し、利便性の向上を図った。 今後も再編後の利用状況を継続的に検証するとともに、利用促進に向けた周知の強化を図り、利用者数の回復・増加を目指す。 また、モビリティ・マネジメントの対象者や手法について検討し、効果的な利用促進策を実施する。 おもいやりタクシーとの相互利用を推進することで利用促進を図る。	
		桜山線の運行 (R6.12.1～R7.9.30)	地域包括支援センターが主催する介護予防教室の参加者を対象に、参加者の行動パターンに合った公共交通利用プランの提案などを行う「モビリティ・マネジメント」を実施し、利用促進を図った。 さらに、公共交通のメリットを説明した動画を作成し、教室で視聴していただくことで、参加者の公共交通への利用転換を促した。 また、市内の幼稚園・保育園において、バス乗り方教室を実施したほか、ゆめタウンシティモールにおいても、「バス乗車体験会を実施した。いずれの施策においても、「無料お試し乗車券」を配付し、利用促進を図った。	A	C	再編後の利用状況を継続的に検証するとともに、利用促進に向けた周知の強化を図り、利用者数の回復・増加を目指す。 また、モビリティ・マネジメントの対象者や手法について検討し、効果的な利用促進策を実施する。 おもいやりタクシーとの相互利用を推進することで利用促進を図る。	
		清里線の運行 (R6.12.1～R7.9.30)	地域包括支援センターが主催する介護予防教室の参加者を対象に、参加者の行動パターンに合った公共交通利用プランの提案などを行う「モビリティ・マネジメント」を実施し、利用促進を図った。 さらに、公共交通のメリットを説明した動画を作成し、教室で視聴していただくことで、参加者の公共交通への利用転換を促した。 また、市内の幼稚園・保育園において、バス乗り方教室を実施したほか、ゆめタウンシティモールにおいても、「バス乗車体験会を実施した。いずれの施策においても、「無料お試し乗車券」を配付し、利用促進を図った。	A	C	再編後の利用状況を継続的に検証するとともに、利用促進に向けた周知の強化を図り、利用者数の回復・増加を目指す。 また、モビリティ・マネジメントの対象者や手法について検討し、効果的な利用促進策を実施する。 おもいやりタクシーとの相互利用を推進することで利用促進を図る。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	二次評価結果	
五名市地域公共交通会議	五名市地域公共交通会議	(1)九州看護福祉大学経由 玉名駅・新玉名駅線	公共交通マップや時刻表の作成、広報等で情報提供の充実を図った。 対象事業(1)の主な利用者である九州看護福祉大学および補助対象事業者と定期的に意見交換を実施し、必要な変更を行った。 また、対象事業(2)の利用促進を図るためにR7.5.31に「五名市街地循環バス無料の日」を実施した。あわせて、若年層の利用促進のため主に小学生を対象とした乗り方教室を実施した。	A	C	利用者のニーズや利用実態をもとに、通勤・通学に利用しやすい運行時間帯への見直しや住民等への周知などを検討する。 また、無料の日や乗り方教室などのイベントを開催し、公共交通に乗るきっかけ作りを行う。 公共交通マップや時刻表を作成し、分かりやすい情報提供を行う。	評価の指標は、収支率、財政負担額及び年間利用者数。 主な利用者である大学との意見交換及び運行内容の変更、五名市街地循環バス無料の日の実施、小学生を対象とした乗り方教室の実施など、公共交通の利用促進に取り組まれたことを評価します。	
		(2)五名市街地循環線		A	B	既存の公共交通との利用促進を図るよう、乗継券の配布を検討する。	目指すべき地域の交通体系の実現に向け、設定している目標の指標が適切か、目標値の水準が適切か等についても検討が行われることを期待します。 今後、協議会が設定する今後の改善点の着実な実施とともに、地域の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。	
津奈木町地域公共交通会議	津奈木町地域公共交通会議	予約型乗合タクシー「つなぎタクシー」 ・津奈木町内全域及び水俣市内の特定施設間を運行	(1)新たに乗降場所を町内5箇所に設置 (2)11枚綴り回数券(町内・町外)の販売を引き続き行い、利用促進及び利便性の向上を図った (3)免許証自主返納者への特典として回数券(町内便・町外便)を1セットずつ配布し、新規利用者の獲得と利用促進を図った (4)つなぎタクシーの利用方法等について、町広報誌に年1回掲載し、住民へのつなぎタクシー利用促進と制度周知を図った	A	C	より効率的な運行を目指すために、意見や要望の検証をしながら適宜見直しをかけていくとともに、つなぎタクシー自体の周知や現在公共交通を利用していない層にも視野を向け、利用しやすい、わかりやすい地域公共交通を目指した事業等を展開していく。 また、令和7年10月に町内に宿泊施設が開業したことを踏まえ、観光との連携も見直しを行い、来訪者の移動手段としての活用促進を図る必要がある。 今後、町地域公共交通計画に基づき、地域公共交通の維持・改善に努める。	評価の指標は、1日当たり利用者数。 利用者獲得のため、利用促進や利便性の向上に取り組まれたことを評価します。 目標値を大きく下回っていることから、利用者のニーズを把握し、公共交通を利用して欲しい方にアプローチされることを期待します。 今後、協議会が設定する今後の改善点の着実な実施とともに、地域の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。	
八代市地域公共交通会議	八代市地域公共交通会議	東町線(区域)の運行	○利用方法、運転免許返納者割引事業等についての周知・情報提供に関する取組を実施した。	A	A	○各沿線ごとに個別に運行路線や乗り継ぎについての周知を実施する。	評価の指標は、年間利用者数及び稼働率。 公共交通の利便性向上や利用促進に取り組まれ、一部の系統において目標を達成されたことを評価します。 また、系統毎に利用者の増加・減少の要因を分析し、評価書へ記載されている点も評価します。 目標が達成出来なかった系統については、要因をより詳細に分析し、各系統に応じた改善の取り組みにつなげてください。 今後、協議会が設定する今後の改善点の着実な実施とともに、地域の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。	
		産島線(区域)の運行	○利用促進策の一環として、地域の方々と協働した周知カレンダーの作成・配布を行った。(鏡町線)			○沿線地域や関係団体と連携し、利用実態に合わせた利用促進の取組を実施する。		
		平和町線(右回り)(路線定期)の運行	○利用者からの要望や利用状況を踏まえ、増便(日奈久～坂本線)や、乗降場所の追加(日奈久～坂本線、産島線)を行った。			○利用方法、運転免許返納者割引事業等についての周知・情報提供に関する取組を引き続き実施し、利用者の増加へつなげていく。		
		平和町線(左回り)(路線定期)の運行	○利便性向上のため、乗降制限区間撤廃を実施した。(平和町線)			○利用者からの要望や利用状況を踏まえた運行内容の見直しを行う。		
		日奈久～坂本線(区域)の運行	○運行内容の見直しに合わせ、公共交通マップ及び総合時刻表の更新を行い、配布やHPでの周知を行った。			○運行内容の見直しに合わせ、公共交通マップ及び総合時刻表の更新を行い、丁寧に情報提供を行う。		
		鏡町線(区域)の運行						
		高田線(区域)の運行						
		ごかくるま(区域)の運行						
		百済来～坂本線(区域)の運行						
和水町地域公共交通会議	和水町地域公共交通会議	菊水線	・区域乗継料金の割引を実施し、利用促進及び利便性の向上を図った。 ・町民生委員児童委員協議会や老人クラブ連合会の会合時に、制度周知を行った。 ・交通×福祉分野の共創による人材育成事業を実施した。	A	B	利用件数の増加と合わせて、運行の効率化(＝相乗り率の向上)を図る施策の検討。 また、交通事業者や地域との連携・協議を実施することで、持続可能な公共交通を目指す。 共創プラットフォーム協議会で取組んでいる実証運行事業の結果を分析し、本町に適した公共交通を検討・協議していく。	評価の指標は、登録者数及び年間利用件数。 地域の関係者等と連携し、利用促進やモビリティ人材育成事業に取り組まれたこと評価します。 目標・効果の達成状況の評価については、目標達成・未達成に関わらず、その要因を詳細に分析し、個々の系統に応じた改善の取組につなげてください。また、分析結果を評価書に記載することもご検討ください。	
		三加和線	・区域乗継料金の割引を実施し、利用促進及び利便性の向上を図った。 ・町民生委員児童委員協議会や老人クラブ連合会の会合時に、制度周知を行った。 ・交通×福祉分野の共創による人材育成事業を実施した。	A	A	今後、協議会が設定する今後の改善点の着実な実施とともに、地域の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
人吉・球磨地域公共交通活性化協議会	人吉・球磨地域公共交通活性化協議会	運行系統名:人吉・錦線 運行区間:JR人吉駅前ロータリー～柳瀬バス停～肥後西村駅 キロ程:往9.1Km、復9.1Km	通学定期については生徒数の影響で減少しているが、通勤定期・定期外については微増となっている。 持続可能な旅客運送サービスの提供を図るために、関係自治体及び関係団体が企画するイベント等との連携、また、地元バス事業者と共同で「人吉球磨どこでもキップ」の販売を行うなど、新たな利用者層の掘り起こしを図った。	A	B	・令和8年度上半期中のくま川鉄道全線運行再開まで、引き続き、くま川鉄道の代替輸送手段として、地域の日常生活に必要な不可欠な本事業を継続していく。 ・更なる利用者増を図るため、利用者分析や現行の接続ダイヤ調整、乗換等の情報周知の充実といった取組を、学校、関係自治体及び地域の関係者と協働して進めていく。	評価の指標は、年間利用者数及び利用者満足度。 地域の関係者等と連携し、地域のイベントとの連携、企画乗車券の造成、広報活動など、利用促進に取り組まれたことを評価します。	
		乗合バスまるおか号(山田線、万江線)	令和7年4月から運行内容を変更(乗降場所の増設、時刻表の見直し)したことにより、利用者は増加傾向にある。 ホームページや広報誌で利用方法等の情報発信、また、民生委員に対して説明を行い、広く利用方法や運転免許返納者割引制度についての周知を行った。	A	B	・利用者満足度アンケート等の実施により、効果や課題を把握し、効率的で利便性が高い公共交通体系を構築していく。 ・路線ごとの利用者数等を分析し、施策に反映していく。 ・利用方法、運転免許返納者割引事業等についての周知・情報提供に関する取組を引き続き実施し、利用者の増加につなげる。	少子化の進展により、今後も通学利用が減少していくことを想定し、新たな利用者の獲得に向けて早い段階から対策を検討されることを期待します。 今後も、協議会が設定する今後の改善点の着実な実施とともに、地域の関係者との連携と協働による「共創」の取組を推進し、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。	

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年2月27日
九州運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持改善事業(フィーダー)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況		
大分市地域公共交通協議会	大分市地域公共交通協議会 (1) 赤仁田ルート	赤仁田～判田局前の運行	<p>・令和5年度事業では、登録者が入所や入院により自宅を離れたことが、①年間利用者数、②稼働率が未達成となった要因であると分析しています。</p> <p>・「利用者の満足度調査」を新たに評価指標とし、全ルートの地域検討会でアンケート調査を実施しました。70%以上が満足していると回答する目標を達成しております。</p>	A	B	<p>●引き続き、ルートごとに毎年開催する「地域検討会」を継続する中で、地域の実情や利用者ニーズの変化に対応した見直しを行いながら、利用者・交通事業者・行政の協働で、以下の事項に取り組み。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用実績の評価及び検証 ・地域住民の利用ニーズの把握 ・次年度の運行計画の検討 ・利用促進 <p>●引き続き、停留所に標柱・ベンチの設置を進め、利用環境の向上を図る。</p> <p>●引き続き、制度紹介チラシや利用状況報告のチラシを回覧するほか、自治会と連携し、地域への制度説明会を開催する等、広報活動を行うことで、地域全体への周知を図り、新規利用者の拡大に繋げる。</p>	<p>評価の指標は①年間利用者数、②稼働率(実績運行日数・運行可能日数)、③地域検討会開催回数、④利用者の満足度、⑤潜在的な利用者発掘に向けた取り組み</p> <p>利用者が参加して次年度の運行計画を検討する「地域検討会」を路線ごとに開催するなど、利用促進に取り組みされていることに対して評価します。</p> <p>公共交通の利用促進に取り組み、目標を達成されたことを評価します。引き続き利用者のニーズや利用実態を把握した上で、関係者との協議が継続されることを期待します。</p> <p>一部系統について登録者の入所や入院による利用者減とのことで、公共交通である以上は、一部のヘビーユーザーの動向で実績に大きな影響が及ぶ様な運行するものではないと考えられますので、更に多様な利用者が利用できる様に、引き続き利用促進・周知活動が行われる事を願います。</p> <p>引き続き、協議会が設定する今後の改善点が着実に解決されることにより、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。</p>
	大分市地域公共交通協議会 (2) 赤仁田ルート	赤仁田～判田局前の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (3) 椋原ルート	椋原中～判田局前の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (4) 椋原ルート	椋原中～判田局前の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (5) 弓立ルート(通常便:戸次)	第二黒岩橋奥～戸次の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (6) 弓立ルート(通常便:戸次)	第二黒岩橋奥～戸次の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (7) 弓立ルート(通学便:戸次)	第二黒岩橋奥～戸次の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (8) 弓立ルート(通学便:戸次)	第二黒岩橋奥～戸次の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (9) 弓立ルート(通常便:判田)	第二黒岩橋奥～戸次の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (10) 弓立ルート(通常便:判田)	第二黒岩橋奥～戸次の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (11) 中野ルート	中野～戸次の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (12) 中野ルート	中野～戸次の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (13) 上石合ルート	屋形木～野津原支所の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (14) 入蔵ルート	グループホーム館奥～野津原の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (15) 市尾ルート	奥村～坂ノ市駅の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (16) 延命寺ルート	栗熊～坂ノ市駅の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (17) ノールート	田尾～浜入口の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (18) 塵山ルート	塵山団地～坂ノ市駅の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (19) 折立上ルート	折立上～坂ノ市駅の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (20) 道尻ルート	タブの木～坂ノ市駅の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (21) 上白木ルート	13組～生石一丁目の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (22) 木佐上ルート(馬場)	赤井～馬場の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (23) 木佐上ルート(幸崎駅)	赤井～幸崎駅の運行					
	大分市地域公共交通協議会 (24) 河内ルート	明谷橋～河内入口の運行					

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	二次評価結果	
	大分市地域公共交通協議会 (25)河内ルート	明谷橋～河内入口の運行						
	大分市地域公共交通協議会 (26)大志生木ルート	元宮～大志生木の運行						
	大分市地域公共交通協議会 (27)大黒ルート	大黒～佐賀間の運行						
	大分市地域公共交通協議会 (28)臼関線	佐賀間～臼杵 (補助対象:大分市内のみ)		A	B	●引き続き、利用状況やバス時刻表を回覧配布し、路線維持のためのバス利用の意識づけを行う。 ●交通だけに限らず、商業施設や病院など、他分野と連携・協働し、持続可能な公共交通体系の構築の検討をする。		
	大分市地域公共交通協議会 (29)臼関線	佐賀間～下浦						
	大分市地域公共交通協議会 (30)杵原線	野稲田～下八幡～生石一丁目				●引き続き、利用状況やバス時刻表を回覧配布し、路線維持のためのバス利用の意識づけを行う。 ●交通だけに限らず、商業施設や病院など、他分野と連携・協働し、持続可能な公共交通体系の構築の検討をする。		
	大分市地域公共交通協議会 (31)杵原線	野稲田～ミスターマックス～生石一丁目						
	大分市地域公共交通協議会 (32)杵原線	野稲田入口～下八幡～生石一丁目						
	大分市地域公共交通協議会 (33)杵原線	西大分駅前～ミスターマックス～野稲田入口						
	大分市地域公共交通協議会 (34)杵原線	西大分駅前～ミスターマックス～野稲田						
	大分市地域公共交通協議会 (35)机張原線	机張原公民館前～下八幡～生石一丁目						
	大分市地域公共交通協議会 (36)机張原線	机張原公民館前～ミスターマックス～生石一丁目		A	B			
	大分市地域公共交通協議会 (37)机張原線	机張原公民館前～ミスターマックス～西大分駅前						
	大分市地域公共交通協議会 (38)中大山線	中大山～下八幡～生石一丁目						
	大分市地域公共交通協議会 (39)中大山線	中大山～ミスターマックス～西大分駅前						
	大分市地域公共交通協議会 (40)東八幡線	西大分駅前～下八幡～東八幡						
	大分市地域公共交通協議会 (41)東八幡線	西大分駅前～ミスターマックス～東八幡						
	大分市地域公共交通協議会 (42)東八幡線	生石一丁目～ミスターマックス～東八幡						
	大分市地域公共交通協議会 (43)杵原線	野稲田入口～ミスターマックス～生石一丁目						
別府市公共交通活性化協議会	別府市公共交通活性化協議会	別府市大所・小坂地区から別府医療センターの間を、週に3日、1日4便乗合タクシーの運行。(事前予約があった日のみ。)	これまでの事業評価は、関の江団地線のみ評価を行っていたため、今回は未記入。	A	A	生活に不可欠な移動手段として存続させるため、地域への周知方法の工夫等を行い、さらなる利用者の増加を図りたい。	評価の指標は年間輸送人員。 公共交通の利用促進に取り組み、目標を達成されたことを評価します。来年度以降は、単年度での目標の設定(達成)に加え、長期的な視点での目標も設定(達成)されることを期待します。 引き続き、協議会が設定する今後の改善点が着実に解決されることを期待します。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	二次評価結果	
中津市公共交通会議	中津市公共交通会議	申請番号1 路線バス事業 【永添線】 中津駅前～万田～大貞車庫前	市報やHP等のPRやマイ時刻表の作成、バスマップの更新、乗り方教室の開催などを行い、利用者へのバス利用環境の改善や利用促進を図った。	A	A	令和5年3月に策定した「中津市公共交通計画」の進捗管理を適切に行うとともに、バス利用者の増加のための各種利用拡大施策にバス事業者と連携して取り組み、バスの利用拡大を図る。	評価の指標は年間輸送人員。 各種PRやバスマップの整備等により目標を達成した事を評価します。 引き続き、協議会が設定する今後の改善点が着実に解決されることを期待します。 また、一部事業については目標の達成はできなかったものの、今後はデマンドに移行することであり、より地域住民のニーズに答える運行が行われることを期待します。	
		申請番号2 路線バス事業 【耶馬溪線】 中津駅前～沖代町～野路		A	A			
		申請番号3 路線バス事業 【耶馬溪線】 中津駅前～沖代町～大貞車庫前		A	A			
		申請番号4 路線バス事業 【耶馬溪線】 中津駅前～中津北高校～大貞車庫前		A	A			
		申請番号5 路線バス事業 【深株線】 中津駅～アメニティタウンかみまくさ		A	B			
		申請番号6 路線バス事業 【海岸中高線】 志麻前～鍋島～中津駅前		A	A			
		申請番号7 路線バス事業 【田口線】 中津駅前～イオン～八面山荘	A	A	令和5年3月に策定した「中津市公共交通計画」の進捗管理を適切に行うとともに、バス利用者の増加のための各種利用拡大施策にバス事業者と連携して取り組み、バスの利用拡大を図る。			
		申請番号8 コミュニティバス 【城井線①】 平田診療所～本中氏宅前～平田診療所	市報やHP等のPRや乗り方教室などの住民へ周知や乗降調査を行い利用者の意見の収集をした。 また、マイ時刻表の作成やGIFSデータの整備を行い利用促進を図った。	A	C	令和8年10月よりデマンド運行へ移行し、路線を統合したエリア編成での運行及び週2回運行を行う。 また、デマンド運行への移行にあたり、利便性の低く、コミュニティバスを利用していなかった地域住民へのアプローチを行い、新規利用者の増加に努める。		
		申請番号9 コミュニティバス 【城井線②】 平田診療所～本中氏宅前～旬菜館		A	C			
		申請番号10 コミュニティバス 【川原口線】 旬菜館～津民診療所～旬菜館		A	B			
		申請番号11 コミュニティバス 【上ノ川内榎木線】 旬菜館～津民診療所～旬菜館		A	C			
		申請番号12 コミュニティバス 【大島台金吉線】 耶馬溪支所～下郷診療所～柿坂		A	C			
		申請番号13 コミュニティバス 【大島伊福線】 耶馬溪支所～下郷診療所～柿坂		A	C			
		申請番号14 コミュニティバス 【極山路鎌城線】 耶馬溪支所～下郷診療所～柿坂		A	C			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	二次評価結果	
日田市地域公共交通確保維持協議会	日田市地域公共交通確保維持協議会 ひたはしり号Aコース	日田～玉川町～日隈～石井～日田の循環コースを運行	・ひたはしり号に対する利用者からの要望については、日田バスと情報共有し把握に努めた。また、アンケート調査を行い、ニーズの把握に努めた。	A	A	令和5年3月に策定した「日田市地域公共交通計画」の進捗管理を適切に行うとともに、地域からの要望や利用者の需要を日田バスと連携して把握し、利用者の増及び利便性のさらなる向上を図る。	評価の指標は計画回数、年間輸送人員。 昨年度に実施した適切なルート設定等により利便性が向上し利用者が増えたこと及びイベント等により利用促進を実施したことが利用者増につながったとの事で評価します。 さらなる利便性向上を図られることについて期待します。	
	日田市地域公共交通確保維持協議会 ひたはしり号Bコース	日田～田島町～若宮～隈町旅館街～高瀬～日田の循環コースを運行	・9月21日に「バスの日イベント」を日田バスと共催し、「ひたはしり号1日無料乗車体験」やBRT車両の展示などを行い、公共交通の利用促進を図った。					
	日田市地域公共交通確保維持協議会 ひたはしり号Cコース	日田～豆田町～朝日町～清岸寺町～城町～日田の循環コースを運行						
	日田市地域公共交通確保維持協議会 五馬線	日田～小迫～五馬入口のコースを運行	・令和3年度に送迎・輸送に関する地域座談会(勉強会)を五馬地区住民と市で開催して以降、住民間で当該地域における送迎・輸送を含む地域課題に関する協議が行われている。 ・9月21日に「バスの日イベント」を日田バスと共催し、「ひたはしり号1日無料乗車体験」やBRT車両の展示などを行い、公共交通の利用促進を図った。	A	C	日田バス(株)の運転手不足や利用者の減少に伴い、令和8年9月30日を持って廃線することから、地域の実情に応じた適正な交通モードのあり方を地域住民等と一緒に検討中であり、地域住民の交通手段の確保に努める。		
佐伯市地域公共交通確保維持改善協議会	佐伯市地域公共交通確保維持改善協議会	佐伯市コミュニティバス 黒沢・岸河内線	・地域公共交通マップ総合時刻表の窓口配布 ・ホームページ・市報等によるコミュニティバス情報の周知 ・民生委員や社会福祉協議会、ケアマネジャーに対しマイ時刻表の作成について周知 ・市内各地区において利用者との意見交換会を開催。	A	B	地域公共交通網を維持するため、佐伯市地域公共交通計画に基づき、効率的な路線やダイヤの見直しを進めていく。また、市のホームページや市報を活用し、乗り方教室の開催等啓発活動を行い、利用促進に努める。引き続きマイ時刻表を作成し、利用利便を向上させるサービスを実施し利用促進に繋げる。	評価の指標は年間輸送人員、1便あたり輸送人員。 意見交換会の開催やマイ時刻表等を利用した周知活動について評価をします。 自己評価については、利用者の増加・減少の要因を分析し、そこから対応策に繋げていくことをご検討願います。また目標設定について不相当である事業もあるようなので、設定している目標の指標が適切か、目標値の水準が適切か等の検討が行われることを期待します。	
		佐伯市コミュニティバス 下堅田・青山線		A	C	同上		
		佐伯市コミュニティバス 大入島線		A	B	令和7年10月から大入島線2として北回り線を新たに設定し運行を開始した。 地域公共交通網を維持するため、佐伯市地域公共交通計画に基づき、効率的な路線やダイヤの見直しを進めていく。また、市のホームページや市報を活用し、乗り方教室の開催等啓発活動を行い、利用促進に努める。引き続きマイ時刻表を作成し、利用利便を向上させるサービスを実施し利用促進に繋げる。		
		佐伯市コミュニティバス 米水津・鶴見線		A	A	地域公共交通網を維持するため、佐伯市地域公共交通計画に基づき、効率的な路線やダイヤの見直しを進めていく。また、市のホームページや市報を活用し、乗り方教室の開催等啓発活動を行い、利用促進に努める。引き続きマイ時刻表を作成し、利用利便を向上させるサービスを実施し利用促進に繋げる。		
		佐伯市コミュニティバス 弥生・本匠デマンド線		A	A	令和6年10月から利便性向上のため、本匠デマンドとの統合を行った。 地域公共交通網を維持するため、佐伯市地域公共交通計画に基づき、効率的なエリアの見直しを進めていく。また、市のホームページや市報を活用し、乗り方教室の開催等啓発活動を行い、利用促進に努める。引き続きマイ時刻表を作成し、利用利便を向上させるサービスを実施し利用促進に繋げる。		
		佐伯市コミュニティバス 宇目デマンド線		A	B	地域公共交通網を維持するため、佐伯市地域公共交通計画に基づき、効率的なエリアの見直しを進めていく。また、市のホームページや市報を活用し、乗り方教室の開催等啓発活動を行い、利用促進に努める。引き続きマイ時刻表を作成し、利用利便を向上させるサービスを実施し利用促進に繋げる。		
		佐伯市コミュニティバス 直川デマンド線		A	A	同上		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	二次評価結果	
臼杵市地域公共交通活性化協議会	臼杵市地域公共交通活性化協議会	【城崎線、白岩線、パークゴルフ場線、佐志生線、南津留線、西神野線、市内循環線、南野津・東谷線】	効果的なコミュニティバスの運行のための路線見直しや利用促進を図るための協議を運行事業者及び地元住民と行った。また、市報やケーブルテレビを活用し公共交通情報を発信した。	A	A	引き続き公共交通に関する情報発信を行う。また、地域の拠点となる施設を中心としたコミュニティバス路線の見直しを、地域住民と一緒に検討する等、利用者増にむけた取り組みを行う。	評価の指標は年間輸送人員、1便あたり輸送人員。運行事業者と利用促進について随時検討を行っていることについて評価します。	
		【中津浦線、泊ヶ内線、割後場線】	バス事業者と利用促進について随時検討を行った。また路線毎の路線図、時刻表を市のホームページに掲載し、市の窓口にて配布するなどの取り組みを行った。	A	B	引き続きバス事業者と利用促進について検討をしていくとともに地域説明会でも意見聴取を行い、路線の見直しやエリア運賃の導入等の検討を行う。また、公共交通の安全性を訴える等、利用者増にむけたモビリティマネジメントを行う。	均一制運賃がR74～導入されたことから、利用者のニーズ等の把握を行い、利用促進に向けた取り組みが着実に実施されることを期待します。 今後はモビリティマネジメントの実施について期待します。	
		ふじかわち線	運行事業者と利用促進について随時検討を行った。また、市報や市のホームページで公共交通情報を発信し公共交通の利用を促した。	A	A	引き続き運行事業者と利用促進について検討をしていくとともに地域説明会でも意見聴取を行い、見直しの検討を行う。また、車を持っていても公共交通を利用する機運を高めるためのモビリティマネジメントを行う。		
津久見市地域公共交通活性化協議会	津久見市地域公共交通活性化協議会	中央病院～津久見駅線	乗降調査を行い、利用者の状況や属性を把握した。高齢者向けの利用促進説明会を開催し、アンケート調査を行った。時刻表や年末年始のお知らせを配布し、ホームページに掲載して周知を行った。	A	B	利便増進計画を策定し、ダイヤの変更・増便を行った。利用促進につながる回数券の作成や、認知度を高める方法を検討していく。また、時刻表の配布などの広報活動も引き続き行う。	評価の指標は年間輸送人員、運行割合(畑～津久見線)に努めていること、高齢者むけの説明会を実施するなどについて評価します。	
		落の浦～大浜線	アンケート調査を行い、利用者の状況を把握した。調査結果を参考に路線の在り方について検討を行い、定時定路線から予約型運行へ変更することを決定した。また、時刻表や年末年始のお知らせを配布し、ホームページに掲載して周知を行った。	A	B	利便増進計画を策定し、予約型運行に変更・ダイヤの変更・増便を行った。利用促進につながる回数券の作成や、認知度を高める方法を検討する。また、時刻表の配布などの広報活動も引き続き行う。	自己評価については、利用者の増加・減少の要因を分析し、そこから対応策に繋げていくことを検討願います。	
		畑～津久見駅線	時刻表や年末年始のお知らせを行い、ホームページに掲載して周知を行った。	A	A	利便増進計画を策定し、ダイヤの変更・増便を行った。また、停留所の増設も行い、利便増進を図る。回数券の作成等利用促進につながる方策を検討していく。また、時刻表の配布などの広報活動も引き続き行う。	今後も、R7年10月の利便増進実施計画に基づく再編や利便の増進により、更なる利用者利便の増進と持続可能な旅客運送サービスの提供の確保されることを期待します。	
		路線バス17系統	乗降調査をし、利用者の状況や属性を把握した。高齢者向けの利用促進説明会を開催し、アンケート調査を行った。中西循環線については、検討の結果乗合タクシーへの転換を決定した。時刻表や年末年始のお知らせを配布し、周知を行った。	A	B	利便増進計画を策定し、路線系統の整理・ダイヤ変更等の運行効率化を図る。また、運賃を200円均一にし、分りやすく利用しやすい路線バスを目指す。利用促進につながる、乗合タクシーと共通の回数券作成を検討していく。時刻表の配布などの広報活動も引き続き行う。		
竹田市地域公共交通活性化協議会	竹田市地域公共交通活性化協議会	高伏・上町線	当該地域におけるデマンド交通導入の検討をしたが、事業実施まで至っていない。本路線はゾーン制運賃導入しており、観光客がより利用しやすい路線となった。	A	A	地域拠点である長湯温泉と市街中心部を結ぶ地域間交通及び観光の主要路線として、ダイヤ等の検討を進め利用者の増加を図ってきたい。	評価の指標は年間輸送人員。甘椋線について、乗降調査等を実施し最適なダイヤの構築を再検証されたことに対して評価します。	
		甘椋線	沿線の小学校の統合が行われ、利用者が極端に減少している。乗降調査等を実施し最適なダイヤの構築を再検証した。	A	C	小学校の統合が行われ極端に利用者が減少した。今後は利用者ニーズを乗降調査等を実施し目標の変更も踏まえて、最適なダイヤの構築を模索していきたい。	R7年度からゾーン制運賃の導入と、ジモテキのエリア拡大がされたことについて、利用者のニーズを把握するとともに、新規利用者の掘り起こしに繋がるような取り組みが実施されることを期待します。	
		姫岳コース・宮砥コース	運行開始から7年が経過しその間に利用者は10%ほど減少しているものの、人口の自然減を加味すると緩やかな利用者の減少となっている。今年度も利用推進及び新規利用者の掘り出しを行い、利用者の減少の幅を少しでも小さくしていくように取り組みを行った。	B	B	今年は急激に利用者が減少しています。利用者の平均年齢が84歳となっており、利用回数の減少が推測される。利用者の増加は非常に困難であるが、利用者の減少の幅を少しでも小さくしていくように取り組みを行いたい。	今後は交通だけでなく、交通以外の分野とも連携・協働し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	二次評価結果	
豊後高田市地域公共交通会議	豊後高田市地域公共交通会議	<p>熊野線 田染平野～健康交流センター花いろ～商工会議所</p> <p>小畑線 夷谷温泉～三浦郵便局～サンクリニック</p> <p>夷線 夷谷温泉～西夷公民館～10-1構造改善センター</p> <p>羽根線 夷谷温泉～羽根上公民館～サンクリニック</p> <p>上野線 上野～健康交流センター花いろ～商工会議所</p> <p>並石線 大日大橋～健康交流センター花いろ～商工会議所</p> <p>長岩屋線 三畑公民館～健康交流センター花いろ～商工会議所</p> <p>草地線 長添～スーパーあさの～商工会議所</p> <p>黒土線 小河内～スバランド真玉～スーパーまたま</p> <p>白野線 山畑～白野公民館～スーパーまたま</p>	<p>・運行事業者と協力し、便別、停留所別の乗降調査を実施した。</p> <p>また、ダイヤ改正に伴う協議を行った。</p> <p>・市民乗合タクシー時刻表や観光地や温泉施設への乗り方の情報を市民向けに配信した。</p> <p>・個人向けの乗継ダイヤを掲載したマイ時刻表を作成し、利用率向上に努めた。</p> <p>・利用促進を図るために、市報、HP、CATV等の市の広報媒体を活用した情報発信を行った。</p>	A	B	<p>前年度から約400人の利用者減となり、目標値を下回った。</p> <p>関係機関と協力し伴う目標値の再精査を行う。引き続き地域住民等の意見を反映しながら、さらなる利用拡大を目的に運行時間やルートの変更を検討していく。併せて地域の高齢者サロン等で事業周知を行い利用者の拡大に努める。</p>	<p>評価の指標は年間輸送人員。</p> <p>①運行事業者と協力し、便別、停留所別の乗降調査を実施。②市民乗合タクシー時刻表や乗り方の情報を市民向けに配信。③個人向けの乗継ダイヤを掲載したマイ時刻表を作成。④利用促進を図るために、市報、ホームページ、ケーブルテレビ等の市の広報媒体を活用した情報発信を行ったことを評価します。</p>	
			<p>・個人向けの乗継ダイヤを掲載したマイ時刻表を作成し、利用率向上に努めた。</p> <p>・利用促進を図るために、市報、HP、CATV等の市の広報媒体を活用した情報発信を行った。</p>	A	C	<p>温泉施設の利用者減の影響もあり、前年度から約130人の利用者減となった。人口が少ない地域であるが、市中心部へ移動する路線バスへの乗り継ぎや温泉施設への利用等に必要な系統であるため、利用者のニーズに合わせた便数や運行日数の再精査を検討する。また、温泉施設や地域のその他施設に周知媒体掲載を行い利用促進に努める。</p>	<p>公共交通の利用促進に取り組み、目標を達成されたことを評価します。来年度以降は、単年度での目標の設定(達成)に加え、長期的な視点での目標も設定(達成)されることを期待します。</p> <p>他方、温泉施設の利用者減に伴い輸送人員が減少した系統については、同施設と連携した利用促進に期待します。</p> <p>今後は交通だけでなく、交通以外の他の分野とも連携・協働し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。</p>	
				A	C	<p>地域の中心となる温泉施設の利用者減の影響もあり、前年度から約220人の利用者減であった。小畑線同様、人口の少ない地域であるが、市中心部へ移動する路線バスへの乗り継ぎや温泉施設への利用等に必要な系統であるため、利用者のニーズに合わせた便数や運行日数の再精査を検討する。また、温泉施設や地域のその他施設に周知媒体掲載を行い利用促進に努める。</p>		
				A	C	<p>前年度から80人の利用者減となり、利用者の減少に伴い大きく目標値を下回った。温泉施設の利用者減・医療施設の送迎サービスに係る利用者が増加したことが原因である。人口の少ない地域であるが、市中心部へ移動する路線バスへの乗り継ぎや温泉施設への利用等に必要な系統であるため、便数や運行日数の再精査を検討する。</p>		
				A	A	<p>前年度から約120人の利用者増であった。市中心部に位置する商業施設や医療施設に向かうために多く利用された。今後も運行時間やルートの変更を検討し、利用者に寄り添った効果的な運行を図る。</p>		
				A	A	<p>前年度から約120人の利用者増であり、目標値を上回った。今後も地域住民の意見を反映しながら、初めての方も利用しやすい運行形態を関係機関と共に検討していく。同時に運行時間やルートの変更を検討し、更なる効果的な運行を図る。</p>		
				A	A	<p>前年度から約70人の利用者増であった。新規の方が多く利用されたこともあり目標値を上回ることができた。人口減が進んでいる地域であるが、地域の運転免許を持たない高齢者の貴重な生活交通手段となっている。今後も利用実態の把握に努めるとともに、利用者の意向調査等を行いニーズ</p>		
				A	A	<p>前年度とほぼ同じ利用者数ではあったが目標値を上回ることができた。運転免許を持たない高齢者等の生活に欠かせない交通手段であるため、引き続き利用実態の把握に努めていく。また、路線バスと接続を考慮した運行となるよう関係機関と協議を行い調整・検討していく。</p>		
				A	B	<p>昨年度から約200人の利用者減となった。人口減が進んでいる地域であるが、運転免許を持たない高齢者の貴重な生活交通手段となっている。利用実態の把握に努めるとともに、利用者の意向調査等を行いニーズに沿った運行を検討していく。また、利用者からは利用方法が難しいとの声も聞く。乗り方の説明や目的地までのオーダーメイド時刻表を作成する等利用者に寄り添った支援に努め、利用者促進を図る。</p>		
				A	A	<p>昨年度から70人の利用者増となった。運転免許を持たない高齢者の生活に欠かせない交通手段であるため、利用実態の把握に努めていく。また、路線バスと接続を考慮した運行となるよう調整していく。</p>		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	二次評価結果	
杵築市地域公共交通活性化協議会	杵築市地域公共交通活性化協議会	八坂線	市公式ウェブサイトに掲載し、市内外に乗合タクシーについて周知を行った。 免許返納者に対して、乗合タクシーの登録をお願いした。	A	C	1便当たりの乗車人数が2.19人/便となり、利用者数の減少が見られる。 乗合タクシーであることから現状の2.19人が維持できるよう市公式ウェブサイトやケーブルテレビを活用し、利用促進に努める。 利用者数を確保するため、運転免許証返納者に対し、乗合タクシーの利用登録を推進する。	評価の指標は1便あたり輸送人員。 目標値を大きく下回っていることから、利用者のニーズを把握し、公共交通を利用して欲しい方にアプローチされることを期待します。 今後は利用状況の把握・分析を行うことにより、効率的な利用促進が実施されることを期待します。	
		北杵築線		A	B	目標値は達成できなかったが、目標値に近づけられるよう市公式ウェブサイトやケーブルテレビを活用し、利用促進に努める。 利用者数を確保するため、運転免許証返納者に対し、乗合タクシーの利用登録を推進する。		
		東線		A	C	利用者数を確保するため、運転免許証返納者に対し、乗合タクシーの利用登録を推進する。		
		大内線		A	C	人口減少が進んでいることもあり、利用者の大きな増加は見込みないが、市公式ウェブサイトやケーブルテレビを活用し、利用促進に努める。 利用者数を確保するため、運転免許証返納者に対し、乗合タクシー利用登録を推進する。		
		大田線		A	C	1便当たりの利用者数を目標値に近づけられるよう市公式ウェブサイトやケーブルテレビを活用し、利用促進に努める。 利用者数を確保するため、運転免許証返納者に対し、乗合タクシー利用登録を推進する。		
宇佐市地域公共交通会議	宇佐市地域公共交通会議	路線バス (1)乙女	利用者や地域の要望等について、可能な範囲で反映させ、利便性の向上を図るように努めた。 また、路線図や時刻表の配布や、HPでの啓発など、利用者の増加に向け取り組んだ。	A	C	有効な対策・施策を積極的に行いながら、地域の公共交通の発展に努めているところであるが、沿線人口の減少や新規の利用者を獲得することができず、目標を達成することができなかった。 路線図や時刻表の配布や、HPでの啓発などの利用促進に向けた取組を行っていききたい。	評価の指標は年間輸送人員。 自己評価については、利用者減少の要因を分析するとともに、利用者のニーズを把握した上で、子ども、学生、高齢者など公共交通を利用して欲しい方に対してアプローチすることをご検討願います。 今後も利用状況の把握・分析を行うことにより、効率的な利用促進が実施されることを期待します。	
		路線バス (2)豊州		A	C			
		路線バス (3)津房		B	B			
		路線バス (4)明治		B	B			
		コミュニティバス (7)長洲・金屋		A	A	路線図や時刻表の配布やHPでの啓発などの利用促進の効果により、新規の利用者を獲得することができ、目標を達成することができた。 今後も利用者の増加に向けた取り組みを行っていききたい。		
		コミュニティバス (8)(9)上麻生		A	B	有効な対策・施策を積極的に行いながら、地域の公共交通の発展に努めているところであるが、沿線人口の減少や新規の利用者を獲得することができず、目標を達成することができなかった。 路線図や時刻表の配布や、HPでの啓発などの利用促進に向けた取組を行っていききたい。		
		コミュニティバス (10)(11)麻生・横山		A	B			
		コミュニティバス (12)(13)高家・天津		A	B			
		コミュニティバス (14)(15)西馬城		A	B	路線図や時刻表の配布やHPでの啓発などの利用促進の効果により、新規の利用者を獲得することができ、目標を達成することができた。 今後も利用者の増加に向けた取り組みを行っていききたい。		
		コミュニティバス (16)(17)柳ヶ浦		A	B			
		コミュニティバス (18)南毛		A	C			
		コミュニティバス (24)高並		A	A	路線図や時刻表の配布やHPでの啓発などの利用促進の効果により、新規の利用者を獲得することができ、目標を達成することができた。 今後も利用者の増加に向けた取り組みを行っていききたい。		
		コミュニティバス (25)田所		A	C	有効な対策・施策を積極的に行いながら、地域の公共交通の発展に努めているところであるが、沿線人口の減少や新規の利用者を獲得することができず、目標を達成することができなかった。 路線図や時刻表の配布や、HPでの啓発などの利用促進に向けた取組を行っていききたい。 路線図や時刻表の配布やHPでの啓発などの利用促進の効果により、新規の利用者を獲得することができ、目標を達成することができた。 今後も利用者の増加に向けた取り組みを行っていききたい。		
		コミュニティバス (26)和氣・佐野		B	A			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	二次評価結果	
		<p>予約制乗合タクシー(27)東部(安心院)</p> <p>予約制乗合タクシー(28)中部(安心院)</p> <p>予約制乗合タクシー(29)北部(安心院)</p> <p>予約制乗合タクシー(30)西部(安心院)</p>	<p>利用者や地域の要望等について、可能な範囲で反映させ、利便性の向上を図るように努めた。</p> <p>また、運行区域の配布や、HPでの啓発など、利用者の増加に向け取り組んだ。</p>	A	A	<p>利便性と効率性の高い公共交通機関の提供により、新規の利用者を獲得することができ、目標を達成することができた。</p> <p>今後も利用者の増加に向けた積極的な取り組みを行ってきたい。</p>		
豊後大野市地域公共交通活性化協議会	豊後大野市地域公共交通活性化協議会	<p><三重町> 8路線 山田線、小坂線、菅尾線、川辺・向野線、内田線、三重東線(※)、菅尾・宇対瀬線、三重南線(※)の運行</p> <p><清川町> 3路線 通学東小線(※)、通学西小線(※)、清川市民病院線の運行</p> <p><緒方町> 7路線 小富士線、上緒方・小富士線(※)、上緒方線、長谷川・南部線(※)、長谷川線、南部東線、南部西線の運行</p> <p><朝地町> 10路線 朝地・市民病院線、近地・普光寺線、北部幹線、鳥屋線、綿田線、臼木線、小川野・志屋線、梨原線、南部幹線、田夫時線の運行</p> <p><大野町> 14路線 岩杉線、古殿線、藤浪線、沢田線、牧原・広戸線、木浦畑線、田中・市民病院線、安藤線、矢田線、通学貴原・菅田線(※)、通学小倉木線(※)、通学北園線(※)、通学原徳尾線(※)、通学牧原線(※)の運行</p> <p><千歳町> 0路線</p> <p><犬飼町> 5路線 宇津尾木線、高津原線、西寒田線、田原・戸上線、通学通山線(※)の運行</p> <p>計47路線(※印の12路線は、通学時間帯のみ運行)</p>	<p>利用実態及び事業者の状況に合わせて、また、交通資源の整理及び社会実験の結果等も踏まえて、運行内容の見直しを三重・大野・緒方地区において実施するとともに、利用促進に努めた。</p>	A	B	<p>利用実態及び事業者の状況に合わせて、路線バス、コミバス、あいのりタクシー、コミタク、スクールバス等の交通資源の整理と抜本的な再編を市全体で地域ごとに段階的に行う。</p> <p>路線バスの運賃をコミバスと同様に、ゾーン制に統一した効果について検証を行う。</p> <p>新しい運行形態やシステム導入に慣れていただくために、きめ細かな説明会や免許返納を控えた高齢者等をターゲットとした利用促進を積極的に行っていく。</p>	<p>評価の指標は、利用者1人当たり運行コスト、利用者満足度、年間利用者数。</p> <p>交通資源の整理及び社会実験の結果を踏まえて運行無様の見直しを行っていることについて評価します。</p> <p>利用者満足度調査において、7項目全てで目標の80%を上回っていることに対して評価します。</p> <p>R7.4～市内でゾーン制運賃が実施されたことから、利用者のニーズ等の把握を行い、利用促進に向けた取り組みが着実に実施されることを期待します。</p> <p>今後も引き続き多様な関係者と連携・協働し、持続可能な公共交通体系が構築されることを期待します。</p>	
		<p>(あいのりタクシーの運行)</p> <p><三重町> 南部線、東部線、西部・白山線の運行</p> <p><清川町> 牧口線、合川線の運行</p> <p><緒方町> 祖母・楨線の運行</p> <p><大野町> 土師線の運行</p>	<p>モニタリングの継続実施により、利用状況の把握に努めた。</p>	A	B	<p>利用実態及び事業者の状況に合わせて、路線バス、コミバス、あいのりタクシー、コミタク、スクールバス等の交通資源の整理と抜本的な再編を市全体で地域ごとに段階的に行う。</p> <p>路線バスの運賃をコミバスと同様に、ゾーン制に統一した効果について検証を行う。</p> <p>新しい運行形態やシステム導入に慣れていただくために、きめ細かな説明会や免許返納を控えた高齢者等をターゲットとした利用促進を積極的に行っていく。</p>		
由布市地域公共交通活性化協議会	由布市地域公共交通活性化協議会	<p>阿蘇野コース</p> <p>スクールバス阿蘇野コース</p> <p>シャトル(大病院や庄内庁舎)</p>	<p>本系統の利用地域は地元商店も無く、高齢化率が約60%と高齢化が進行している地域である。地域の足を確保・維持するために、利用促進のための周知や利便性向上のための検討を行った。</p> <p>スクールバスについては、入学予定の児童へ利用に関するお知らせを各小中学校で行うことで利用の呼びかけを行った。</p> <p>シャトルについては、毎週水曜日の水中運動利用者へ無料乗車券の交付を行うことで利用促進を行った。</p>	A	C	<p>利用促進に向け、免許返納者に対して窓口でバス利用に向けて説明などを行う。</p> <p>定時定路線である本コースについて、無料運行の生徒専用送迎タクシーへの変更を検討中。</p> <p>利用促進に向け、赤宇路線である本路線を利用してもらうために、水中運動教室等も含めた広報活動のさらなる強化を行う。</p>	<p>評価の指標は年間輸送人員。</p> <p>入学予定の児童について利用の呼びかけを行っていること及び目的となる施設利用者に対する利用促進策の実施について評価します。</p> <p>目指すべき地域の交通体系の実現に向け、設定している目標の指標が適切か、目標値の水準が適切か等の検討が行われることを期待します。</p> <p>新たな交通手段の検討を含め今後も利用状況の把握・分析を行うことにより、効率的な利用促進が実施されることを期待します。</p>	
国東市地域公共交通会議	<p>国東市地域公共交通会議 竹田津線 [申請番号1]</p> <p>国東市地域公共交通会議 竹田津線 [申請番号2]</p> <p>国東市地域公共交通会議 竹田津線 [申請番号3]</p> <p>国東市地域公共交通会議 豊崎線 [申請番号4]</p>	<p>国東～竹田津港 (伊美経由)</p> <p>伊美～国東 (国見中・伊美港経由)</p> <p>国東～伊美 (伊美港経由)</p> <p>国東～稲川 (国中・小原経由)</p>	<p>地域協働推進事業(計画期間:平成25～27年度)の一端である利用助成券制度が好評で利用額も増加傾向にあるため、令和5年度からは対象事業者をさらに拡大し、令和7年度についても引き続き実施した。</p> <p>市内路線図と時刻表が一体となった総合時刻表についても令和7年度も作成・配布し、さらに「乗車券の買い方」と「路線バスの乗り方」をまとめた動画を作成した。</p> <p>さらに、市の広報誌やホームページ、公式LINE上で市内の交通施策に関する広報活動を繰り返し行った。</p>	A	C	<p>児童、生徒だけでなく、地域住民の利用を促すため、事業者と連携し、助成券などの広報周知をより一層図っていく。</p> <p>児童、生徒だけでなく、地域住民の利用を促すため、事業者と連携し、助成券などの広報周知をより一層図っていく。</p>	<p>評価の指標は年間輸送人員。</p> <p>利用助成券制度が好評であることについて評価します。</p> <p>他方、助成制度が好評でありつつも目標を下回っている点について利用者の増加・減少の要因を分析し、そこから対応策に繋げていくことをご検討願います。</p> <p>引き続き、協議会が設定する今後の改善点が着実に解決されることを期待します。</p>	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点		
	国東市地域公共交通会議 豊崎線 [申請番号5]	国東～稲川 (小原経由)		A	C	地域住民の利用を促すため、事業者と連携し、助成券などの広報周知をより一層図っていく。		
	国東市地域公共交通会議 文珠線 [申請番号6]	国東～文珠 (小原経由)		A	B			
	国東市地域公共交通会議 文珠線 [申請番号7]	国東～文珠 (国中・小原経由)		A	C			
	国東市地域公共交通会議 岩戸寺線 [申請番号8]	国東～岩戸寺上 (国中・小原経由)		A	A			
	国東市地域公共交通会議 岩戸寺線 [申請番号9]	国東～岩戸寺上 (小原経由)		A	B			
日出町生活交通確保維持協議会	日出町生活交通確保維持協議会	日出町デマンド交通 豊岡・南端地区	A	A	2区域における運行については、利用者数は目標値を達成しているものの、時間帯によって予約が集中し、希望する便を確保できない事例が生じている。このため、現行の運行体制では、需要に十分対応しきれない場面が見受けられる。こうした状況を踏まえ、デマンド交通のさらなる拡充については、既存交通事業への影響が大きいことから、令和7年10月より、予約が取れない一部の利用者を対象としたタクシー補助を実施し、利用環境の改善を図っている。今後は、関係事業者等との協議を重ねつつ、地域の実情や利用ニーズに即した持続可能な交通サービスのあり方について検討・再編・実施を行い、利用者の利便性向上に努めていく。	評価の指標は年間輸送人員。 地域における公聴会の実施やデマンド利用回数券の配布、予約が取れない場合のタクシー券の配布などの利用促進策について評価します。 公共交通の利用促進に取り組み、目標を達成されたことを評価します。引き続き利用者のニーズや利用実態を把握した上で、継続的な協議が進められることを期待します。 引き続き、協議会が設定する今後の改善点が着実に解決されることを期待します。		
		日出町デマンド交通 藤原・赤松地区	A	B				
		日出町デマンド交通 川崎・大神地区	A	A				
九重町地域交通協議会	九重町地域交通協議会 運行系統名: (1)東飯田線	東飯田地区～ 各施設	従前の定時路線の利用者が低調であったことから、利用者のニーズに合わせてデマンド型交通を導入した。意見交換会等で周知と利用促進を図った。	A	B	利用者の属性としては、免許を持たない高齢者がほとんどであり、『予約をする』という行為に対し抵抗を感じるケースが多く、『初めの1回』に対するハードルがある。 引き続き、対面での説明の場を増やし、利用促進を図る。	評価の指標は年間輸送人員。 乗り方教室やサロンでの説明会、GTFS等を利用した積極的な利用促進策について評価します。 公共交通の利用促進に取り組み、目標を達成されたことを評価します。引き続き利用者のニーズや利用実態を把握した上で、継続的な協議が進められることを期待します。 引き続き、協議会が設定する今後の改善点が着実に解決されることを期待します。	
	九重町地域交通協議会 運行系統名: (2)野上線	野上地区～ 各施設		A	A			
	九重町地域交通協議会 運行系統名: (3)南山田線	南山田地区～ 各施設		A	A			
	九重町地域交通協議会 運行系統名: (4)九重縦断線	塚脇～ 豊後中村駅～ 恵良駅～ 飯田交流センターの運行	乗り方教室の実施や高齢者サロン等での説明会により利用促進を図った。 また、GTFSデータの作成や、グーグルマイマップを活用したバス停位置図の改修など利用者目線の改善を進めた。	A	B	引き続き乗客数の増加に向け、広報誌や町HP、ケーブルテレビ、SNS等を活用し、利用方法についての周知を進める。またJRや高速バス等他の交通機関との接続改善のためのダイヤ改正や、バスロケーションシステムの導入等についても適宜検討を行う。		
	九重町地域交通協議会 運行系統名: (5)九重縦断線	飯田交流センター～豊後中村駅 ～九重ICの運行		A	B			
	九重町地域交通協議会 運行系統名: (6)九重縦断線	牧ノ戸峠～ 豊後中村駅～ 九重ICの運行		A	A			
	九重町地域交通協議会 運行系統名: (7)九重縦断線	牧ノ戸峠～ 豊後中村駅～ 九重ICの運行		A	B			
	九重町地域交通協議会 運行系統名: (8)九重縦断線	九重登山口花山峠～豊後中村駅 ～塚脇の運行		A	B			
	九重町地域交通協議会 運行系統名: (9)九重縦断線	九重登山口みやま～豊後中村駅 ～塚脇の運行		A	B			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	二次評価結果	
玖珠町地域公共交通活性化協議会								
玖珠町地域公共交通活性化協議会 系統名:まちなか循環バス	わらべの館を起点として、町中心部の主要施設(役場、商店、医療機関、金融機関等々)を循環 1日8便(西回り4便 東回り4便)運行	高齢者の利用増と免許返納者対策として高齢者を対象とした、バス・タクシー券交付事業を実施している。中学生に公共交通の役割や大切さを体験してもらうことで、高校生になった際に積極的に利用してもらうことを目的とし、町内バス乗車無料事業を令和5年6月より実施している。 令和7年5月に新設された病院の敷地内に停留所を移設し、利便性と安全性の向上も図った。 利用者の増加や利便性の向上を目指し、令和6年4月よりわかりやすい運賃体系(一律150円)に改定している。	A	B	利用者状況等の把握と分析を引き続き行い、利用者増と利便性が向上する取組を今後検討していく必要がある。 また、中高生の通学利用や夜間の交通空白解消に向けた対策も含めて検討する。	評価の指標は年間輸送人員。 バス・タクシー券交付事業及び町内バス無料事業などによる利用促進策について評価します。 他方、目標を下回っている系統も多くあることから、ゾーン運賃の利用者の浸透など、目指すべき地域の交通体系の実現に向け、設定している目標の指標が適切か、目標値の水準が適切か等の検討が行われることを期待します。		
玖珠町地域公共交通活性化協議会 系統名:小型乗合バス(岩室線)	仲田から下長野間の運行(毎週水曜日に運行)	高齢者の利用増と免許返納者対策として高齢者を対象とした、バス・タクシー券交付事業を実施している。 令和6年4月よりゾーン制運賃(最大300円)を導入し、運賃の引き下げを行い、利用者の増加を図っている。	A	B	料金改定に伴う利用者状況等の把握と分析を引き続き行い、利用者増と利便性が向上する取組を今後検討していく必要がある。 また、令和7年10月からは町中心部の病院等へのアクセス向上のため、停留所の新設および路線延長を実施し、令和7年10月から令和8年3月までの間で、町の周辺部においてフリー降車の実証事業を行い、利便性の向上を図っていく。 今後も、高齢者が利用しやすい路線にするため、運行事業者と連携を密にして、路線の経路や運行時刻の見直しをしていく。	引き続き、協議会が設定する今後の改善点が着実に解決されることにより、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。		
玖珠町地域公共交通活性化協議会 系統名:ふれあい福祉バス(伐株線)	唐杉公民館から福祉センター間の運行(毎週火曜日の運行)	比較的町中心部に近いことから、自家用車の利用が多い地区を通る路線である。 高齢者の利用増と免許返納者対策として高齢者を対象とした、バス・タクシー券交付事業を実施している。 また、利用者の増加や利便性の向上を目指し、令和6年4月よりゾーン制運賃の導入し、より利用しやすい運賃(一律150円)に改定している。	A	C	料金改定に伴う利用者状況等の把握と分析を引き続き行うが、利用者は減少し続けているため、利用者がいないバス停の見直しや他の路線との統一など大幅な改善を行う。 令和7年10月から令和8年3月までの間で、町の周辺部においてフリー降車の実証事業を行い、利便性の向上を図り、効果の検証を実施する。			
玖珠町地域公共交通活性化協議会 系統名:ふれあい福祉バス(小田線)	小田小学校入口から福祉センター間の運行(毎週金曜日の運行)	比較的町中心部に近いことから、自家用車の利用が多い地区を通る路線である。 高齢者の利用増と免許返納者対策として高齢者を対象とした、バス・タクシー券交付事業を実施している。 また、利用者の増加や利便性の向上を目指し、令和6年4月よりゾーン制運賃の導入し、一部区間においては運賃を減額している。	A	A	料金改定に伴う利用者状況等の把握と分析を引き続き行う。利用者がゼロという点もあるため、利用者がいないバス停の見直しや他の路線との統一など大幅な改善を行う。 また、令和7年10月から令和8年3月までの間で、町の周辺部においてフリー降車の実証事業を行い、利便性の向上を図り、効果の検証を実施する。			
玖珠町地域公共交通活性化協議会 系統名:ふれあい福祉バス(山浦線通学便)	古園からJR豊後森駅間の運行(平日運行)	運行距離が長い路線であり運賃格差が生じていた路線の一つであった。格差是正、利用者の増加、利便性の向上を目的とし、令和6年4月よりゾーン制運賃(最大300円)に改定している。 また、令和7年4月より学校の下校時刻の変更にあわせて、運行内容の変更した。	A	C	料金改定に伴う利用者状況等の把握と分析を引き続き行い、利用者増と利便性が向上する取組を今後検討していく必要がある。 令和7年10月からは町中心部の商業施設等へのアクセス向上のため、停留所の新設を実施し、令和7年10月から令和8年3月までの間で、町の周辺部においてフリー降車の実証事業を行い、利便性の向上を図っていく。 特に高齢者が多い地域であるため、高齢者の利用増加につながる取組の充実の検討を引き続き行う必要がある。			
玖珠町地域公共交通活性化協議会 系統名:ふれあい福祉バス(山浦線)	古園から福祉センター間の運行(毎週火・金曜日の運行)	高齢者の利用増と免許返納者対策として高齢者を対象とした、バス・タクシー券交付事業を実施している。 また、路線距離が長く、町内を運行する路線によって運賃格差が生じていたため、格差是正、利用者の増加、利便性の向上を目的とし、令和6年4月よりゾーン制運賃(最大300円)に改定している。	A	C	料金改定に伴う利用者状況等の把握と分析を引き続き行い、利用者増と利便性が向上する取組を今後検討していく必要がある。 令和7年10月からは町中心部の商業施設等へのアクセス向上のため、停留所の新設を実施し、令和7年10月から令和8年3月までの間で、町の周辺部においてフリー降車の実証事業を行い、利便性の向上を図っていく。 特に高齢者が多い地域であるため、高齢者の利用増加につながる取組の充実の検討を引き続き行う必要がある。			
玖珠町地域公共交通活性化協議会 系統名:ふれあい福祉バス(日出生線通学便)	日出生北部コメンから塚脇間の運行(平日運行)	運行距離が長い路線であり運賃格差が生じていた路線の一つであった。格差是正、利用者の増加、利便性の向上を目的とし、令和6年4月よりゾーン制運賃(最大300円)に改定している。	A	C	料金改定に伴う利用者状況等の把握と分析を引き続き行い、利用者増と利便性が向上する取組を今後検討していく必要がある。 令和7年10月からは路線沿いにある高校への通学利用に活用できるように高校付近に停留所の新設を実施し、令和7年10月から令和8年3月までの間で、町の周辺部においてフリー降車の実証事業を行い、利便性の向上を図る。 少子化に伴い、遠方に住む学生の利用が減少しており、起点、終点等の見直しの検討を行う必要がある。			
玖珠町地域公共交通活性化協議会 系統名:ふれあい福祉バス(日出生線)	小野原から塚脇間の運行(毎週月・木曜日の運行)	高齢者の利用増と免許返納者対策として高齢者を対象とした、バス・タクシー券交付事業を実施している。 また、路線距離が長く、町内を運行する路線によって運賃格差が生じていたため、格差是正、一般利用者の増加、利便性の向上を目的に、令和6年4月よりゾーン制運賃(最大300円)に改定している。	A	C	料金改定に伴う、利用者状況等の把握と分析を行い、利用者増と利便性が向上する取組を今後検討していく必要がある。 令和7年10月からは町中心部の病院等へのアクセス向上のため、停留所の新設および路線延長を実施し、令和7年10月から令和8年3月までの間で、町の周辺部においてフリー降車の実証事業を行い、利便性の向上を図っていく。 高齢者が多く、移転補償等による転居が多い地域であるため、高齢者の利用者増加につながる取組の検討を行う。 一方で人口減少を鑑み、運行本数の見直し(毎週月・木曜毎週木曜のみ)等も検討し、持続可能な運行体系の実現に向け、検討をする必要がある。			

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年2月27日
九州運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持改善事業(フィーダー)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
都城市地域公共交通会議	都城市地域公共交通会議	○運行区間: 都城市山之口町 北東部⇄中心部 ○運行日: 火・金曜日 ○運行回数: 1日往復3.5回 ※デマンド運行	○温泉施設の臨時休業(R7.6~R7.12)のため、利用者が減少した。 ○地域内のスーパー閉店後の対応として、各エリアの3便目に買い物便となる高城総合支所便を導入した。 ○AIを活用した予約・集計運行システムを採用。事務効率化を図っている。 ○利用方法を学んでもらう、“乗り方教室”を開催した。	A	B	○地域内のニーズ等を調査・分析し、利用者増に繋がる対策を検討する。 ○地区内の郵便局、コンビニ、温泉施設、年金朝市、タクシーなどでのPRを継続しながら、新規利用者の開拓を進める。 ○山之口高城地域包括支援センターや地域内事業所のケアマネジャーに協力を求めながら新規利用者の開拓を進める。	評価指標は、コミュニティバス・乗合タクシーの年間利用者数。 社会福祉協議会等の地域の関係者と連携し、買物体験ツアーの開催や施設等でのPRを実施するなど、積極的に利用促進策に取り組まれたことを評価します。引き続き、地域の関係者との連携による「共創」の取組の推進を期待します。	
		○運行区間: 都城市山之口町 南部⇄中心部 ○運行日: 月・水・木曜日 ○運行回数: 1日往復3回 ※デマンド運行	○温泉施設の臨時休業(R7.6~R7.12)のため、利用者が減少した。 ○地域内のスーパー閉店後の対応として、各エリアの3便目に買い物便となる高城総合支所便を導入した。 ○AIを活用した予約・集計運行システムを採用。事務効率化を図っている。 ○利用方法を学んでもらう、“乗り方教室”を開催した。	A	B	○地域内のニーズ等を調査・分析し、利用者増に繋がる対策を検討する。 ○地区内の郵便局、コンビニ、温泉施設、年金朝市、タクシーなどでのPRを継続しながら、新規利用者の開拓を進める。 ○山之口高城地域包括支援センターや地域内事業所のケアマネジャーに協力を求めながら新規利用者の開拓を進める。	目標・効果の達成状況の評価については、目標の達成・未達成に関わらず、その要因を、より詳細に分析し、個々の系統に応じた改善の取組につなげてください。	
		○運行区間: 都城市庄内地区 東西町平田乙房線 ○運行日: 月・火・木・金曜日 ○運行回数: 1日往復2回 ※路線定期	○新規利用者開拓のため、市と社会福祉協議会等と連携し、買物体験ツアーを実施した。 ○移動支援が必要な人や地区内の施設等でPRを実施し、新規利用者の開拓を進めた。	A	B	○新規利用者開拓のため、社会福祉協議会等と連携し、目的に応じた企画便を検討する。 ○引き続き、移動支援が必要な人や地区内の施設等でPRを実施することにより、更なる新規利用者の開拓を進める。	引き続き、交通会議が設定した事業の今後の改善点が着実に解決され、また、地域公共交通計画に定めた事業の確実な実施により、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。	
		○運行区間: 都城市庄内地区 関之尾川崎島子野線 ○運行日: 月・火・木・金曜日 ○運行回数: 1日往復2回 ※路線定期	○新規利用者開拓のため、市と社会福祉協議会等と連携し、買物体験ツアーを実施した。 ○移動支援が必要な人や地区内の施設等でPRを実施し、新規利用者の開拓を進めた。	A	B	○新規利用者開拓のため、社会福祉協議会等と連携し、目的に応じた企画便を検討する。 ○引き続き、移動支援が必要な人や地区内の施設等でPRを実施することにより、更なる新規利用者の開拓を進める。		
		○運行区間: 都城市夏尾町及び山田町 Aコース ○運行日: 月・水・金曜日 ○運行回数: 1日往復2.5回 ※デマンド運行	○町内放送、公民館加入世帯に向けた広報チラシの各戸配布、公民館長会や民生委員児童委員定例会での説明を行い、新規利用者の開拓を進めた。 ○定期券購入者へ期限の事前周知を行うことで、利用者にとってストレスのない環境作り及び継続利用を促した。	A	B	○利用希望者の要望に柔軟に対応できるよう、停留所の増設等の運行体制の整備を検討する。 ○乗合タクシーを利用したくなるようなイベントを検討する。		
		○運行区間: 都城市山田町 Bコース ○運行日: 火・木・土曜日 ○運行回数: 1日往復2.5回 ※デマンド運行	○町内放送、公民館加入世帯に向けた広報チラシの各戸配布、公民館長会や民生委員児童委員定例会での説明を行い、新規利用者の開拓を進めた。 ○定期券購入者へ期限の事前周知を行うことで、利用者にとってストレスのない環境作り及び継続利用を促した。	A	B	○利用希望者の要望に柔軟に対応できるよう、停留所の増設等の運行体制の整備を検討する。 ○乗合タクシーを利用したくなるようなイベントを検討する。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		○運行区間： 都城市山田町 Cコース ○運行日： 水・金曜日 ○運行回数： 1日往復2.5回 ※デマンド運行	○町内放送、公民館加入世帯に向けた広報チラシの各戸配布、公民館長会や民生委員児童委員定例会での説明を行い、新規利用者の開拓を進めた。 ○定期券購入者へ期限の事前周知を行うことで、利用者にとってストレスのない環境作り及び継続利用を促した。	A	B	○利用希望者の要望に柔軟に対応できるよう、停留所の増設等の運行体制の整備を検討する。 ○乗合タクシーを利用したくなるようなイベントを検討する。		
延岡市地域公共交通活性化協議会	延岡市地域公共交通活性化協議会	①美々地線	○協議会で検討し、承認を受けた生活交通確保維持改善計画どおりに乗合タクシーの運行を実施し、路線の維持・確保を図った。	A	C	○市の福祉部門が実施する、公共交通を活用した介護予防事業(高齢者が路線バス、コミュニティバス等を利用して通うことができる場所で介護予防に関するプログラムを実施することで、運転免許証を返納した方も参加することができる。また、路線バス、コミュニティバス等の待ち時間を活用して買い物等の生活機能全般の維持向上を目指す。)により利用を促す。 ○免許返納者が期間限定でコミュニティバス・乗合タクシーを半額で利用できる制度を引き続き運用していく。	評価の指標は、系統毎の1回あたりの利用者数。 地域住民の要望に応じたダイヤ変更や路線変更の実施、公共交通を活用した介護予防事業により高齢者の利用を図るなど利用促進に取り組みされたことを評価します。 目標を下回った系統については、その要因をより詳細に分析し、各系統に応じた改善の取組につなげてください。 引き続き、交通会議が設定した事業の今後の改善点が着実に解決され、利便増進実施計画に基づく再編等により、更なる利用者利便の増進と持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。	
		②鹿川線		A	B			
		③二股線		A	B			
		④猿渡線		A	C			
		⑤三ヶ村線		A	B			
		⑥大保下線		A	C			
		⑦下崎・笠下黒原線		A	A			
		⑧片内・菅原線		A	A			
		⑨上中尾線		A	C			
		⑩下塚線		A	D			
		⑪市尾内線	A	C				
		⑫三川内線	A	D				
		⑬上三輪・貝の畑～祇園線	A	A				
		⑭安井・神戸～レーヨン線	A	A				
		⑮須佐～大武線	A	A				
		⑯小川・平田～祇園線	A	B				
		⑰櫛津・土々呂線	A	A				
		⑱小野・石田線	A	A				
		⑲赤水・鯛名線	A	A				
		⑳伊形線	A	A				
		○協議会で検討し、承認を受けた生活交通確保維持改善計画どおりに乗合タクシーの運行を実施し、路線の維持・確保を図った。 ○南部地域4系統について、令和7年4月より、利便増進計画に基づいて鶴ヶ丘公園まで延伸した。						

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	
		⑰上赤線	○協議会で検討し、承認を受けた生活交通確保維持改善計画どおりにコミュニティバスの運行を実施し、路線の維持・確保を図った。	A	B	○市の福祉部門が実施する、公共交通を活用した介護予防事業(高齢者が路線バス、コミュニティバス等を利用して通うことができる場所で介護予防に関するプログラムを実施することで、運転免許証を返納した方も参加することができる。また、路線バス、コミュニティバス等の待ち時間を活用して買い物等の生活機能全般の維持向上を目指す。)により利用を促す。 ○免許返納者が期間限定でコミュニティバス・乗合タクシーを半額で利用できる制度を引き続き運用していく。 ○延岡市地域公共交通計画に基づき、市民の意見を取り入れながら最適な路線の構築を検討していく。特に、利用が目標乗車人数を下回る路線については、利用者へのアンケートや意見交換会等を実施し、より使い勝手の良い経路・時刻表に見直しを行っていく。	
	⑱下塚線	A		C			
	⑲瀬口線	A		B			
	⑳家田線	A		D			
	㉑㉒まちなか循環バス	○協議会で検討し、承認を受けた生活交通確保維持改善計画どおりにまちなか循環バスの運行を実施し、路線の維持・確保を図った。	A	A	○小学生の運賃無料期間キャンペーンを引き続き実施しつつ、その他の利用促進に資する取組を検討する。 ○自治会、高齢者クラブ等を対象としたバスでの「お出かけ企画」にてまちなか循環バスを活用する。		
	㉓㉔北部まちなか循環バス	○令和7年1月から北部・南部まちなか循環バスの実証運行を開始し、4月から本格運行に移行した。	A	A	○市の福祉部門が実施する、公共交通を活用した介護予防事業(高齢者が路線バス、コミュニティバス等を利用して通うことができる場所で介護予防に関するプログラムを実施することで、運転免許証を返納した方も参加することができる。また、路線バス、コミュニティバス等の待ち時間を活用して買い物等の生活機能全般の維持向上を目指す。)により利用を促す。		
	㉕㉖南部まちなか循環バス	○バス利用促進の一環として、8月に小学生運賃無料期間キャンペーンを実施した。	A	C	○延岡市地域公共交通計画に基づき、市民の意見を取り入れながら最適な路線の構築を検討していく。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
小林市地域公共交通活性化協議会	小林市地域公共交通活性化協議会	小林一上九瀬線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	C	須木区域唯一の路線であり、通学で利用している利用者がいるため、維持・存続が不可欠である。しかし、少子化により通学利用者が減少したことにより目標を達成することができなかった。新規利用者の開拓など利用促進を図る。	<p>評価の指標は、系統毎の年間利用者数。</p> <p>イベントでのPRや広報誌を活用した意識啓発活動、時刻表の配付など利用促進に取り組みられたことを評価します。</p> <p>目標・効果の達成状況の評価については、目標達成・未達成に関わらず、その要因を詳細に分析し、個々の系統に応じた改善の取組につなげてください。また、分析結果を評価書に記載することもご検討ください。</p> <p>引き続き、交通会議が設定した事業の今後の改善点が着実に解決され、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。</p>	
		小林一上九瀬線【上原地区経由】	様々な機会において、利用促進を図った。	A	C	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図りつつ、必要に応じて路線の見直しを検討する。		
		小林一鷲野循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	C	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図りつつ、必要に応じて路線の見直しを検討する。		
		小林一岡原循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	C	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図りつつ、必要に応じて路線の見直しを検討する。		
		小林一種畜牧場線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	C	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図りつつ、必要に応じて路線の見直しを検討する。		
		小林一南ヶ丘線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	C	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図りつつ、必要に応じて路線の見直しを検討する。		
		小林一環野一千歳線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	C	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図りつつ、必要に応じて路線の見直しを検討する。		
		小林一運動公園循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	B	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図る。		
		小林一運動公園循環線※逆循環	様々な機会において、利用促進を図った。	A	B	時刻表の配布やイベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図る。		
		小林一深草循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	A	様々な機会において、利用促進を図ったことにより目標値を達成した。引き続き、地域のニーズ把握に努め、利用促進を図る。		
		小林一深草循環線※逆循環	様々な機会において、利用促進を図った。	A	A	様々な機会において、利用促進を図ったことにより目標値を達成した。引き続き、地域のニーズ把握に努め、利用促進を図る。		
		小林一大出水循環線	様々な機会において、利用促進を図った。	A	A	様々な機会において、利用促進を図ったことにより目標値を達成した。引き続き、地域のニーズ把握に努め、利用促進を図る。		
		小林一三松循環線【岩瀬地区経由無】	様々な機会において、利用促進を図った。	A	B	複数の病院や商業施設を経由する路線であり、主要施設を循環するバスとして維持・存続が不可欠である。引き続き、イベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図る。		
		小林一三松循環線【岩瀬地区経由有】	様々な機会において、利用促進を図った。	A	B	複数の病院や商業施設を経由する路線であり、主要施設を循環するバスとして維持・存続が不可欠である。引き続き、イベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図る。		
小林一三松循環線【八幡原市民センター経由】	様々な機会において、利用促進を図った。	A	B	複数の病院や商業施設を経由する路線であり、主要施設を循環するバスとして維持・存続が不可欠である。引き続き、イベント時のPR活動、広報紙を活用した意識啓発活動によって利用促進を図る。				

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
日向市地域公共交通会議	日向市地域公共交通会議	東1コース	・高齢者向けスマホ教室に出向き、市民バス紹介チラシや、体験乗車ができるよう無料乗車券を配布し新規利用者の獲得を図った。 ・運転免許の自主返納の間合せがあった際には、時刻表の配布や市民バスの半額割引券交付の案内や、路線バスやタクシー等のサービス等について案内を行い、公共交通機関の利用を促した。 (その他の取組) ・後期高齢者医療保険証送付時に市民バスの紹介チラシを同封し周知を図った(月1回)。	A	A	・市民バスの利便性向上のためAIオンデマンドバスを導入し、令和7年12月から実証運行を開始した。令和8年4月からの本格運行に向けて、今後は既存バスから新しいバスに移行していただくよう利用者への周知に努める。また、これまで利用のなかった層(通勤、通学、子育て世帯等)への周知を行い、新規利用者の獲得を図る。	評価の指標は、系統毎の年間利用者数。 市HPへのバス経路図データやバス停の掲載等による情報発信やあらゆる機会を活用した利用促進策を実施するなど積極的な取組を評価します。 目標を下回った系統については、その要因をより詳細に分析し、各系統に応じた改善の取組につなげてください。 引き続き、交通会議が定めた各施策が確実に実施されることを期待します。また、一部系統について、AIオンデマンドバスの実証運行を開始しており、新規利用者の獲得やより住民のニーズに応える持続可能な旅客運行サービスが提供されることを期待します。	
		東2コース1		A	A			
		東2コース2		A	A			
		西1コース1		A	B			
		西1コース2		A	B			
		西2コース		A	B			
		南1コース		A	B			
		南2コース		A	B			
		北1コース		A	B			
		北2コース		A	B			
		美々津日向市駅線コース1	A	A	・高齢者向けスマホ教室等に出向き、市民バスの周知や無料乗車券の配布により体験乗車をしていただくことで、新規利用者の獲得を図る。			
		美々津日向市駅線コース2	A	A				
		美々津日向市駅線コース3	A	A				
		美々津日向市駅線コース4	A	A				
		田野羽坂線	・高齢者向けスマホ教室に出向き、市民バス紹介チラシや、体験乗車ができるよう無料乗車券を配布し新規利用者の獲得を図った。	A	B	・高齢者向けスマホ教室等に出向き、市民バスの周知や無料乗車券の配布により体験乗車をしていただくことで、新規利用者の獲得を図る。		
		仲深坪谷越表線	・運転免許の自主返納の間合せがあった際には、時刻表の配布や市民バスの半額割引券交付の案内や、路線バスやタクシー等のサービス等について案内を行い、公共交通機関の利用を促した。	A	C			
		福瀬小野田線	(その他の取組) ・後期高齢者医療保険証送付時に市民バスの紹介チラシを同封し周知を図った(月1回)。	A	B			
		仲深坪谷線	・高齢者向けスマホ教室に出向き、市民バス紹介チラシや、体験乗車ができるよう無料乗車券を配布し新規利用者の獲得を図った。	A	A			
		寺迫庭田線	・運転免許の自主返納の間合せがあった際には、時刻表の配布や市民バスの半額割引券交付の案内や、路線バスやタクシー等のサービス等について案内を行い、公共交通機関の利用を促した。	A	B	・高齢者向けスマホ教室等に出向き、市民バスの周知や無料乗車券の配布により体験乗車をしていただくことで、新規利用者の獲得を図る。		
		飯谷田の原線	(その他の取組) ・後期高齢者医療保険証送付時に市民バスの紹介チラシを同封し周知を図った(月1回)。	A	A			
鶴毛粗木線	・高齢者向けスマホ教室等に出向き、市民バスの周知や無料乗車券の配布により体験乗車をしていただくことで、新規利用者の獲得を図る。	A	A					

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
西都市地域公共交通活性化協議会	西都市地域公共交通活性化協議会	平野・石尾線 西都ショッピングセンター～石尾	○広報紙等を活用し、利用促進に努めた。 ○経路・ダイヤの見直しを行ったが、変更までには至らなかった。	A	A	中学校の通学用路線としての活用に向け、ダイヤ・ルートの再編を検討する。新規利用者の取り込みによる収支改善等により、路線の確保・維持を図る。	評価の指標は、系統毎の年間利用者数。 広報誌等を活用した利用促進に向けた取組を行われたことを評価します。 引き続き、交通会議が設定した事業の今後の改善点が着実に解決されることを期待します。 一部事業については目標の達成はできなかったものの、中学校再編に合わせて通学用路線としての活用に向けたダイヤ・ルートの再編を検討されていることから、より地域住民のニーズに応える持続可能な旅客運行サービスが提供されることを期待します。	
		長谷線 西都ショッピングセンター～上長谷	○広報紙等を活用し、利用促進に努めた。 ○経路・ダイヤの見直しを行ったが、変更までには至らなかった。	A	A	中学校の通学用路線としての活用に向け、ダイヤ・ルートの再編を検討する。新規利用者の取り込みによる収支改善等により、路線の確保・維持を図る。		
		山田・上沖線 西都ショッピングセンター～中山	○広報紙等を活用し、利用促進に努めた。 ○経路・ダイヤの見直しを行ったが、変更までには至らなかった。	A	B	現行の運行体制を維持しつつ、利用促進に努めながら、効率的な運行に向けた検討を継続する。		
		岩爪線 西都ショッピングセンター～岩爪	○広報紙等を活用し、利用促進に努めた。 ○経路・ダイヤの見直しを行ったが、変更までには至らなかった。	A	C	利用促進に努めながら、需要に応じた効率的な運行に向けた検討を継続する。		
		長園線 西都ショッピングセンター～長園	○広報紙等を活用し、利用促進に努めた。 ○経路・ダイヤの見直しを行ったが、変更までには至らなかった。	A	B	現行の運行体制を維持しつつ、利用促進に努めながら、効率的な運行に向けた検討を継続する。		
		岩井谷・並木線 並木～西都ショッピングセンター	○広報紙等を活用し、利用促進に努めた。 ○経路・ダイヤの見直しを行ったが、変更までには至らなかった。	A	B	現行の運行体制を維持しつつ、利用促進に努めながら、効率的な運行に向けた検討を継続する。		
		穂北線 西都ショッピングセンター～尾吐	○広報紙等を活用し、利用促進に努めた。 ○経路・ダイヤの見直しを行ったが、変更までには至らなかった。	A	B	中学校の通学用路線としての活用に向け、ダイヤ・ルートの再編を検討する。新規利用者の取り込みによる収支改善等により、路線の確保・維持を図る。		
		加勢・小豆野線 小豆野～西都バスセンター	○広報紙等を活用し、利用促進に努めた。 ○加勢・小豆野線と結節する区域運行デマンド型乗合タクシーの区域拡大を行い、利用促進を図った。	A	C	現行の運行体制を維持しつつ、利用促進に努めながら、効率的な運行に向けた検討を継続する。		
		茶臼原線 茶臼原周辺地区～穂北支所周辺・妻地区	○広報紙等を活用し、利用促進に努めた。 ○利便性向上のため、対象区域の拡大を行った。	A	A	現行の運行体制を維持しつつ、利用促進に努めながら、効率的な運行に向けた検討を継続する。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
高原町地域公共交通会議	高原町地域公共交通会議	不定期路線運行:小久保線 運行曜日 【月・木・金】 運行時間 【8:44から11:36まで】 運行期間 【R6.10.1～R7.3.31】	利用者・事業者への意見聴取内容を踏まえ変更した一部エリアの区域運行を継続し、利用者の利便性の向上、定着に努めた。令和7年1月から2月にかけては各地区を訪問しての説明会を開催し、町民に対し、運行状況等の説明、利用の呼びかけを行った。	A	B	令和7年4月より町内全域を対象とした区域運行を開始。これまでの利用方法から変更した主な点として、①町民のどなたでも利用できること、②自宅までの送迎、③運行時間と曜日の増加であり、これまで以上に利便性を高めた。利用状況は概ね順調に推移しているものの、乗合タクシーのことを知らない町民も多いため、引き続き、広報紙への情報掲載や乗り方教室の開催、他部署や関係団体と連携して各会議での情報共有の場を創出し周知を図る。また、社会福祉協議会とも連携を図り各地区の茶飲ん場への参加や自宅訪問などを実施する。 一方で、乗合タクシーの時間帯や予約方法等に関する改善要望の声もあるため、利用状況や運行状況を分析しながら、さらに利用しやすくなるための改善につなげる。	令和7年4月より、町内全域を対象とした区域運行の開始に向けて説明会を20地区で開催、希望者への自宅訪問による周知等を実施。運行開始後も他分野と連携して、ケアマネージャー会や社会福祉法人協議会等の会合に参加し情報共有を図るなど利用促進にかかる取組が行われたことを評価します。 今後も運行内容の周知や利用実態に応じた運行内容の見直しを行うなど利用者増に向けた利用促進に向けた取組が行われることを期待します。	
		定期路線運行:後川内線 運行曜日 【火・金・土】 運行時間 【8:15から12:28まで】 運行期間 【R6.10.1～R7.3.31】	利用者・事業者への意見聴取内容を踏まえたダイヤ・ルートによる運行を継続し、利用者の利便性の向上、定着に努めた。令和7年1月から2月にかけては各地区を訪問しての説明会を開催し、町民に対し、運行状況等の説明、利用の呼びかけを行った。	A	B			
		定期路線運行:湯之元蒲牟田線 運行曜日 【水・土】 運行時間 【8:20から12:00まで】 運行期間 【R6.10.1～R7.3.31】	利用者・事業者への意見聴取内容を踏まえたダイヤ・ルートによる運行を継続し、利用者の利便性の向上、定着に努めた。令和7年1月から2月にかけては各地区を訪問しての説明会を開催し、町民に対し、運行状況等の説明、利用の呼びかけを行った。	A	A			
		不定期路線運行:常盤台線 運行曜日 【月・木】 運行時間 【8:29から11:45まで】 運行期間 【R6.10.1～R7.3.31】	令和7年1月から2月にかけては各地区を訪問しての説明会を開催し、町民に対し、運行状況等の説明、利用の呼びかけを行った。	A	C			
		不定期路線運行:広原線 運行曜日 【月・水】 運行時間 【8:30から12:12まで】 運行期間 【R6.10.1～R7.3.31】	令和7年1月から2月にかけては各地区を訪問しての説明会を開催し、町民に対し、運行状況等の説明、利用の呼びかけを行った。	A	C			
		区域運行:町内全域線 運行曜日 【月・火・水・木・金・土】 運行時間 【往路:8時台、9時台】 【復路:11時台、13時台、15時台】 運行期間 【R7.4.1～R7.9.30】	令和7年4月より運行を開始したため、前回の事業評価なし	A	B			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考	
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点		評価結果
門川町地域公共交通会議	門川町地域公共交通会議	①牧山線	<ul style="list-style-type: none"> 新規利用者を増やすために利用者拡大キャンペーンを実施することで、利用促進を図った。 地区会長会において公共交通の紹介・説明を行い、乗合タクシー等の周知を図った。 定期的に停留所の時刻表の張替えを行い、利用環境の改善を図った。 県バス無料デーの実施に伴い、本町の乗合タクシーも同日無料デーを実施した。 	A	B	他の路線に比べて利用者が多い路線ではあるが、新規利用者を増やすため、広報誌等を活用して利用促進を行っていく。また、利用者の状況を整理し、利便性向上を図っていく。	<p>評価の指標は、系統毎の年間利用者数。</p> <p>新規利用者獲得に向けたキャンペーンの実施や地区会長会における乗合タクシーの周知、停留所の利用環境改善を行うなど、積極的に利用促進に取り組まれたことを評価します。</p> <p>目標・効果の達成状況の評価については、目標の達成・未達成に関わらず、その要因をより詳細に分析し、個々の系統に応じた改善の取組につなげてください。</p> <p>引き続き、交通会議が設定した事業の今後の改善点が着実に解決され、地域住民のニーズに応える持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。</p>	
		②大迫・庵川線	<ul style="list-style-type: none"> 新規利用者を増やすために利用者拡大キャンペーンを実施することで、利用促進を図った。 地区会長会において公共交通の紹介・説明を行い、乗合タクシー等の周知を図った。 定期的に停留所の時刻表の張替えを行い、利用環境の改善を図った。 県バス無料デーの実施に伴い、本町の乗合タクシーも同日無料デーを実施した。 	A	A	目標を達成することができた。今後も継続して利用者の状況を整理し、利便性向上を図っていく。		
		③竹名・中村線	<ul style="list-style-type: none"> 新規利用者を増やすために利用者拡大キャンペーンを実施することで、利用促進を図った。 地区会長会において公共交通の紹介・説明を行い、乗合タクシー等の周知を図った。 定期的に停留所の時刻表の張替えを行い、利用環境の改善を図った。 県バス無料デーの実施に伴い、本町の乗合タクシーも同日無料デーを実施した。 	A	A	目標を達成することができた。今後も継続して利用者の状況を整理し、利便性向上を図っていく。		
		④中山・五十鈴線	<ul style="list-style-type: none"> 新規利用者を増やすために利用者拡大キャンペーンを実施することで、利用促進を図った。 地区会長会において公共交通の紹介・説明を行い、乗合タクシー等の周知を図った。 定期的に停留所の時刻表の張替えを行い、利用環境の改善を図った。 県バス無料デーの実施に伴い、本町の乗合タクシーも同日無料デーを実施した。 	A	B	一定の利用者は定着しているが、複数停留所での利用減少がみられる。広報誌等を活用して利用促進を行っていく。また、乗降調査により利用者からの意見を聴きとり、利便性向上を図っていく。		
		⑤大池・中山線	<ul style="list-style-type: none"> 新規利用者を増やすために利用者拡大キャンペーンを実施することで、利用促進を図った。 地区会長会において公共交通の紹介・説明を行い、乗合タクシー等の周知を図った。 定期的に停留所の時刻表の張替えを行い、利用環境の改善を図った。 県バス無料デーの実施に伴い、本町の乗合タクシーも同日無料デーを実施した。 	A	B	一定の利用者は定着しているが、複数停留所での利用減少がみられる。広報誌等を活用して利用促進を行っていく。また、乗降調査により利用者からの意見を聴きとり、利便性向上を図っていく。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	
		⑥本町巡回線	<ul style="list-style-type: none"> 新規利用者を増やすために利用者拡大キャンペーンを実施することで、利用促進を図った。 地区会長会において公共交通の紹介・説明を行い、乗合タクシー等の周知を図った。 定期的に停留所の時刻表の張替えを行い、利用環境の改善を図った。 県バス無料デーの実施に伴い、本町の乗合タクシーも同日無料デーを実施した。 	A	B	一定の利用者は定着しているが、新規利用者を増やすため、広報誌等を活用して利用促進を行っていく。また、利用者の状況を整理し、利便性向上を図っていく。	
		⑦三ヶ瀬線(町内行きコース)	<ul style="list-style-type: none"> 新規利用者を増やすために利用者拡大キャンペーンを実施することで、利用促進を図った。 地区会長会において公共交通の紹介・説明を行い、乗合タクシー等の周知を図った。 定期的に停留所の時刻表の張替えを行い、利用環境の改善を図った。 県バス無料デーの実施に伴い、本町の乗合タクシーも同日無料デーを実施した。 	A	A	目標を達成することができた。昨年度実績2人に対して、今年度実績24人と大幅に利用が増加している。更なる利用者の定着を図っていく。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
木城町地域公共交通活性化協議会	木城町地域公共交通活性化協議会	○デマンド型乗合タクシー「あおぼと号」 ○系統名 ・オンデマンド運行(平坦部) ※月・水・金運行(年始運休) ・オンデマンド運行(大字中之又地区) ※隔週水曜日運行(年始運休)	○登録者を増やすための施策としては、チラシ配布等でのPRを継続。また、福祉・交通安全担当部署と連携することで、敬老会での広報や担当者からのサービス紹介などを行い、交通弱者に対する積極的なアプローチを図った。	A	A	広報誌やSNS、新聞媒体を活用した広報活動、福祉・交通安全担当部署との連携強化については引き続き実施しながら、高齢者集会等での利用登録推進のための取組を更に強化する。	評価の指標は、利用登録者数・実利用者数・月平均利用者数。	
				A	A	利用登録者全員を対象に行った、利用実態及びニーズ調査の結果をしっかりと検証・分析を行い、更なる利便性の向上を図ることで、新たな利用者層の掘り起こしを行う。 利用登録を行っているものの、一度も利用していない未利用者層の利用促進を図ることで、乗合タクシー利用のためのきっかけを創出する。 中之又地区については、引き続き利用がない状況が続いている。他の交通支援についても検討を進める必要があると考えるが、方向性が定まるまでの期間については、地域交通を確保する必要があることから、系統としては継続することとする。	チラシ配布等でのPRや福祉・交通安全担当部署と連携し高齢者等へのアプローチを行うなど利用促進に取り組まれ、概ね目標を達成されていることを評価します。 引き続き、利用者の実態及びニーズの把握を行うとともに現在の未利用者層に対してアプローチされることを期待します。 引き続き、交通会議が設定した事業の今後の改善点が着実に解決され、地域住民のニーズに応える持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。	
				A	B			
串間市地域公共交通会議	串間市地域公共交通会議	串間市デマンドタクシー「よかタク」宮児タクシー	地域ワークショップを実施し、地域の現状や課題、移動ニーズの把握に努めた。また、利用者増加を図るため、乗り方教室を行い、よかバスに興味・関心をもつような利用促進事業を推進した。 ○事業の実施状況 (1)よかバス(よかタク)運行の見直し よかタク本格運行を実施し、利用状況のモニタリングや利用者からのご意見等を反映し、よかバス運行形態の見直しを行った。その他の路線についても、乗り込み調査や地域ワークショップを実施し、利用者ニーズの把握に努めた。 (2)市街を結ぶ公共交通の維持確保に向けた検討 すべての路線に置いて、串間駅を経由したダイヤとしている。 (3)公共交通の人材確保に向けた支援策の検討 人材確保と公共交通網の維持・確保を目的とし、補助事業を実施した。 (4)移動目的地先と連携した利用促進策の実施 串間温泉いこいの里と連携し、フリーバス券利用での入浴でポイント2倍となる事業を継続している。 (5)運転免許返納の推進 免許返納者へのよかバス利用回数券の配布を実施している。免許返納後の効果的な支援について、引き続き関係課との協議を行う。	A	C	よかタク利用者が令和5年度実績を下回り、目標値の79.6%となっている。また、よかバス利用者においても、減少傾向となっており、持続可能な公共交通を構築するために、よかバス・よかタクの運行内容の見直しや地域との協創による交通結節点等におけるにぎわいの創出、移動目的地先と連携した利用促進策に取り組む。 また、地域ごとに乗り方教室の実施や地域ワークショップ等を開催し、よかバス利用及びよかタク利用登録の推進を図る。	評価の指標は、系統毎の年間利用者数。 利用状況のモニタリングや乗り込み調査による利用者ニーズの把握、乗り方教室の実施など利用促進に取り組まれていることを評価します。 目標を大きく下回っており、利用登録は行っているが実際に利用している人が少ないことをその要因と分析していることから、現在未利用者を含めた公共交通を利用して欲しい方へアプローチされることを期待します。	
		串間市デマンドタクシー「よかタク」宮交タクシー		A	C		引き続き、交通会議が設定した事業の今後の改善点が着実に解決され、地域住民のニーズに応える持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果			地方運輸局等における二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点	
日之影町地域公共交通会議	日之影町地域公共交通会議	すまいるバス八戸線 平日、1日10便(5回)運行	令和6年10月より本格運行を開始。 沿線集落の高齢者サロンで意見聴取や周知広報などの利用促進を実施。 新規の利用者を確保するため、地域の方による誘い合いでの利用を働きかけ。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き利用促進に向け、沿線住民等への運行の基礎的な情報の提供や、利用方法の周知のため乗車体験会を実施 財政負担軽減に向けては、利用が低迷する便の減便等が考えられるものの、路線バス旧道経由をカバーするのが本来の趣旨でもあることから、どこまでの財政負担を許容するのかなどを検証・判断し、対策を検討するとともに、必要に応じて目標の見直しを検討 	評価の指標は、住民の年間利用頻度と住民1人あたりの財政負担額。 住民の年間利用頻度についてはいずれの系統も目標を達成されていることを評価します。一方、住民1人あたりの財政負担額については目標を大きく下回っているものの、今後、本年度の実績を踏まえ協議会において財政負担の妥当性を検証することとしており、目標値の水準が適切か等の検討が行われることを期待します。
		予約型乗合交通(デマンド型乗合タクシー) 平日、1日8便(8回)運行	令和6年10月より本格運行を開始。 高齢者サロンでの意見聴取やチラシ等での周知、免許返納者へ予約型乗合交通の案内などの利用促進を実施。 現在、登録者188名となり、利用者も増加傾向。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き利用促進に向け、沿線住民等への運行の基礎的な情報の提供や、利用方法の周知のため乗車体験会を実施 予約・配車システムの導入(AIオンデマンド等)も含めた、負担軽減や運行効率化について検討 利用者増に伴い、運転手の確保も大きな課題となることから、先進事業も参考にしつつ取り組みを検討 財政負担額の妥当性を検証し、必要に応じて目標の見直しを検討 	引き続き、交通会議が設定した事業の今後の改善点が着実に解決され、地域住民のニーズに応える持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。
三股町地域公共交通会議	三股町地域公共交通会議	三股町コミュニティバス まちなかコース①	初年度のため該当なし	A	A	<p>○いずれも、収支のバランスが悪く、収入に対して支出が大きいため、運賃収入増を図ると同時に、支出を抑える工夫をしていく必要がある。具体的には、令和7年度中に、バスの現在地や遅延情報等をリアルタイムでお知らせする「バスロケーションシステム」を導入したため、回覧や広報、ホームページ等での周知を強化することで利用者増を図る。</p> <p>○免許返納支援としてバスの回数券を交付しており、周知を強化することで、これまで利用していなかった層に対する利用促進を図る。</p>	評価の指標は、年間利用者数、収支率及び財政負担額。 年間利用者数については、いずれの系統も概ね目標を達成、収支率及び財政負担額については、一部未達成の系統があった。本年度、バスロケーションシステムを導入し利用者の利便向上に取り組みられたことを評価します。
		三股町コミュニティバス まちなかコース②	初年度のため該当なし	A	A	○利用状況や町民のニーズにあった路線となるべく、要望を調査してルートやダイヤの修正等を検討し、無駄の無いコースにすることで収支の改善を図る。	今後は、コミュニティバスの周知を強化するとともに、住民のニーズを把握しルートやダイヤの見直しを適宜行うことで利用者増及び収支の改善が図られることを期待します。
		三股町コミュニティバス 宮村・植木コース	初年度のため該当なし	A	B		引き続き、交通会議が設定した事業の今後の改善点が着実に解決され、地域住民のニーズに応える持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価総括表
(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年2月27日

九州運輸局

評価対象事業名: 地域公共交通確保維持改善事業(フィーダー)

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点		
薩摩川内市地域 公共交通活性化 協議会	薩摩川内市地域 公共交通活性化 協議会	祁答院～川内駅 (東郷・祁答院コース) (市内横断シャトル バス)	・市HP等で高齢者の運転免許証自主返納者への割引制度や、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の提示者及び同行する介護人証の提示者への割引制度、バス乗車ICカードの案内を行い、利用促進を図った。 ・各地区コミュニティ協議会や公共施設へバスの時刻表等を定期的に配布し、積極的なコミュニティ交通の利用を促した。 ・小学校において、バスの利用方法やマナーについての座学や乗車体験などのバス教室を行い、地域公共交通やモビリティマネジメント(自家用車に頼り過ぎない交通環境の推進)への関心を高めた。	A	B	今後も利用人数の増加に向け、引き続き市HPや公式LINE等を活用して、高齢者の運転免許証自主返納者、身体障害者手帳・療育手帳等の提示者に対する運賃割引制度や、沿線案内をからめた路線紹介等を行い、利用啓発・利用促進により一層努めていく。 また、各地区コミュニティ協議会や公共施設へのバス時刻表の定期的な配布を継続するとともに、高齢者の運転経歴証明書受領者に対し、運賃割引制度案内チラシや薩摩川内市バスマップを配布するほか、出前講座や市内小学校でのバス教室の開催を通じて、地域公共交通やモビリティマネジメント(自家用車に頼り過ぎない交通環境の推進)への関心を高め、コミュニティ交通の積極的な利用を促す。 利用者及び事業者の意見を収集・分析することにより、持続可能な旅客運送を図る。 公共交通人材確保事業の実施等による運転手の確保を支援し、より安定的な運行環境を整える。 量的目標の設定については、地域公共交通計画の目標と合わせ、適切な目標の設定に努める。	・評価の指標は、路線ごとの1便当たりの乗車人数。 ・市HPや公式LINEを活用した高齢者の運転経歴証明書受領者等に対する運賃割引制度の周知や各地区コミュニティや公共施設への時刻表の配布、出前講座や市内小学校でのバス教室の開催など、利用啓発・利用促進の取組を評価します。 ・引き続き、利用状況を丁寧に分析し、利便性の向上が図られることを期待します。 ・薩摩川内市地域公共交通計画に基づき、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。 ・協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもらうための場として活用されることを期待します。	
		外輪山北口～川内駅(樋脇・入来コース) (市内横断シャトル バス)		A	B			
		湯田・西方循環線 (西回り) (北部循環バス)		A	B			
		湯田・西方循環線 (東回り) (北部循環バス)		A	B			
		城上・吉川循環線 (西回り) (北部循環バス)		A	B			
		城上・吉川循環線 (東回り) (北部循環バス)		A	B			
		川内駅～川内港 ターミナル(国道回 り) (川内港シャトルバ ス)		A	A			
		川内駅～川内港 ターミナル(県道回 り) (川内港シャトルバ ス)		A	A			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		溝辺地区における ふれあいバスの運行 (1)空港崎森線	利用状況の少ない路線の見直しを行った。	A	A			
		福山地区における ふれあいバスの運行 (1)福地・池之谷 (2)比曾木野線 (3)福地線(スクール 対応)登校便 (4)福地線(スクール 対応)下校便 (5)福沢線(スクール 対応)登校便 (6)福沢線(スクール 対応)下校便	ふれあいバス利用状況を調査し、デマンド交通 への転換の検討を進めた。	A	C			
	A			C				
	A			C				
	A			C				
	A			A				
	A			C				
		霧島地区永水・向 田地域におけるデ マンド交通の運行 (1)永水・向田線		A	C			
		隼人地区における はやと循環ワゴン の運行 (1)はやと循環ワ ゴン		A	C			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
霧島市地域公共交通会議	霧島市地域公共交通会議	福山地区佳例川地域・福山地域におけるデマンド交通の運行 (1)佳例川線 (2)福山線	市の広報誌に特集ページを作り、利用促進の周知を行った。	A	C	数値目標の達成に向けて、霧島市地域公共交通計画に掲げる事業を着実に実施する。 <主な事業> ・ふれあいバスの運行の見直し ・交通モード間の乗継の推進 ・地域座談会の開催を通じた運行 ニーズの把握及びデマンド交通の利用方法の説明 ・時刻表やバスマップの更新	・評価指標は、一便あたりの乗車人数。 ・利用実態を分析され、運行形態を変更するなど見直しに取り組みられていることを評価します。引き続き、利用者の増加及び減少の要因を丁寧に分析し、利便性の向上が図られることを期待します。 ・霧島市地域公共交通計画に基づき、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。 ・協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもらうための場として活用されることを期待します。	
		隼人地区におけるはやと循環ワゴンの運行 (1)はやと循環ワゴン		A	A			
		国分・隼人地区における予約型AIオンデマンド交通の運行 (1)きりしまMワゴン		A	C			
		溝辺地区における予約型AIオンデマンド交通の運行 (1)きりしまMワゴン		A	C			
		霧島地区福沢地域におけるデマンド交通の運行 (1)狭名田・野上線		A	A			
		福山地区福沢地域におけるデマンド交通の運行 (1)福沢線		A	C			
		国分・隼人地区における予約型AIオンデマンド交通の運行 (1)きりしまMワゴン		A	C			
		横川地区及び牧園地区におけるデマンド交通の運行 (1)横川線 (2)牧園線		A	A			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
鹿児島市公共交通 ビジョン協議会	鹿児島市公共交通 ビジョン協議会	谷山地域あいばす の運行	・市ホームページ等により、引き続き、運行ルートやダイヤ等についての周知広報を行っている。 ・路線沿線の町内会に対し、誰でも利用できることなどを記載した利用案内チラシの回覧を実施した。 ・X(旧ツイッター)やフェイスブックを利用し、利用促進のための広報を行った。 ・バスロケーションシステムを引き続き活用し、利用者の利便性向上と利用促進を図った。 ・あいばすについては利用状況の把握を行い、見直し内容について専門部会で協議を進めた。	A	C	・引き続き地域の利用者の意見や要望を聞きながら、需要に応じた運行計画づくりに努める。 ・潜在的な利用者の掘り起こしのための分かりやすい情報提供に努める。	・評価の指標は、路線毎の一本あたりの利用者数。 ・利用促進のため、市ホームページ、町内会の利用案内チラシ、SNS、ポイントラリー開催による周知活動やバスロケーションシステムによる利便性向上の取組について評価します。 ・引き続き、利用状況を丁寧に分析し、利便性の向上が図られることを期待します。 ・今後も、第二次鹿児島市公共交通ビジョンに基づき、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。	
		喜入地域あいばす の運行	A	B				
出水市地域公共 交通活性化協議会	出水市地域公共 交通活性化協議会	ふれあいバスの運 行	初年度のため該当なし	A	A	・広報紙への掲載や、自治会への出前講座の実施等、各交通モードの利用方法に係る積極的な情報発信を行う。 ・利便性の向上のため、利用者や交通事業者へのヒアリング調査等を行い、「現場の声」を把握する。 ・乗合タクシー及びチョイソコいずんについては、制度改正後又は運行開始後の利用実績に即した目標設定を検討する。	・評価の指標は、路線定期運行は1便あたりの乗車人員、乗合タクシー、AIデマンド交通は乗車人員。 ・利用実態を分析され、見直しに取り組みられていることを評価します。 ・引き続き、利用者の増加及び減少の要因を丁寧に分析し、利便性の向上が図られることを期待します。 ・協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもらうための場として活用されることを期待します。	
		乗合タクシーの運 行		A	C			
		AIオンデマンド交 通(チョイソコいず ん)の運行		A	B			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		拠点間バス 瀬娃・川辺線(瀬娃～霧出～川辺)	市広報紙において特集記事掲載のほか、市ホームページでの周知、利用者等へのアンケート調査を実施した。	A	A	市役所の新庁舎への移転を踏まえ、乗換え拠点の変更も含めた運行ルートの見直しを検討する。		
		拠点間バス 番所鼻公園・知覧線(番所鼻公園～霧出～知覧)		A	B	市役所の新庁舎への移転を踏まえ、乗換え拠点の変更も含めた運行ルートの見直しを検討する。		
		川辺系統①瀬戸山・下里線(瀬戸山～下里～文化会館)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		川辺系統⑭市街地周回線左廻り(文化会館～病院前～文化会館)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		川辺系統⑦田の頭・勝目西線(田の頭～勝目西～文化会館)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		川辺系統⑧君野・下山田東線(君野西～大山入口～文化会館)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		川辺系統⑨打木谷・大谷線(打木谷～上之口～文化会館)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		川辺系統⑭市街地周回線右廻り(文化会館～病院前～文化会館)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		知覧系統②後岳・手裏線(栢川三叉路～市役所～保健センター)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		知覧系統⑧加治佐・松村線(加治佐～保健センター～知覧)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		川辺系統②市崎野・野間大久保線(市崎野～横手町～文化会館)	市広報紙において特集記事掲載のほか、市ホームページでの周知を実施した。	A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		川辺系統③八瀬尾・野崎線(滝の前～野崎公民館～文化会館)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		川辺系統④山添・六丁線(山添～平山六丁～文化会館)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		川辺系統⑩馬立・神殿線(火之河原～中服良～文化会館)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		川辺系統⑪松尾城・野間里線(松尾城橋～野間里～文化会館)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		川辺系統⑫荒多・越原線(荒田～越原～文化会館)		A	C	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		川辺系統(新)本別府・高田線(本別府～高田～文化会館)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
南九州市地域公共交通協議会	南九州市地域公共交通協議会	知覧系統①木床・上郡上線(木床～上郡上～保健センター)	市広報紙において特集記事掲載のほか、市ホームページでの周知、利用者等へのアンケート調査を実施した。	A	C	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の指標は、路線毎の平均乗車人数。 ・利用実態を分析され、運行形態を変更するなど見直しに取り組まれていることを評価します。 ・引き続き、利用者の増加及び減少の要因を丁寧に分析し、利便性の向上が図られることを期待します。 ・今後も、南九州市地域公共交通計画に基づき、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。 ・協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもらうための場として活用されることを期待します。 	
		知覧系統③厚地・河上線(寺園～河上～保健センター)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		知覧系統④下郡・打出口線(小金園～打越～保健センター)		A	C	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		知覧系統⑤峯苦・平久保線(峯苦～平久保～知覧)		A	C	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		知覧系統⑥二ツ谷・堤之原線(二ツ谷～堤之原～知覧)		A	C	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		知覧系統⑦高星・林川線(高星～林川～知覧)		A	C	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		知覧系統⑨飯野・横峯線(高吉～中福良～知覧)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		知覧系統(新)塩屋・南別府線(塩屋～南別府～知覧)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		穎娃系統②浦芝原・麓線(浦芝原～麓南～穎娃図書館)		A	C	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		穎娃系統(新)御領線(御領～穎娃図書館)		A	A	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		穎娃系統⑦蓮子・水成川線(蓮子～水成川～穎娃図書館)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		穎娃系統⑧青戸・福留線(青戸農村公園～福留～穎娃図書館)		A	C	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		穎娃系統⑨源川・小原線(加治佐～小原～穎娃図書館)	市広報紙において特集記事掲載のほか、市ホームページでの周知、利用者等へのアンケート調査を実施した。	A	A	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		穎娃系統⑩曲谷・赤崎線(曲谷～赤崎～穎娃図書館)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		穎娃系統⑪種子尾・一氏線(種子尾～一氏～穎娃図書館)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		穎娃系統⑩源川・耳原線(加治佐～耳原～別府温泉)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		穎娃系統⑨青戸・石垣線(青戸農村公園～石垣～別府温泉)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		穎娃系統①長崎・前原線(長崎～前原～穎娃図書館)		A	A	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		穎娃系統③永谷・春向線(永谷～春向～穎娃図書館)	市広報紙において特集記事掲載のほか、市ホームページでの周知、利用者等へのアンケート調査を実施した。	A	C	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		
		穎娃系統⑬熊ヶ谷・梶山線(熊ヶ谷～梶山～穎娃図書館)		A	B	利便性向上を図るため、令和7年10月からAIを活用した予約型乗合タクシーの実証運行を開始、それに伴い当該系統は廃止した。令和8年2月からは本格運行予定。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
鹿屋市地域公共交通活性化協議会	鹿屋市地域公共交通活性化協議会	かのやくりんバス (市街地巡回バス) (鹿屋～西原寿中央～鹿屋) ・西まわり ・東まわり	・運転免許返納者に限り運賃無料としている。 (R2.4～R8.3) ・市ホームページやスマートフォンアプリに、運行ルートやダイヤ等を掲載し情報発信に努めた。 ・バス待合所利用状況調査やバス乗込調査を行い、利用者の声や要望等の把握に努めた。	A	A	・更なる利便性向上のため、利用者や地域のニーズを踏まえ、運行ルートや時刻表の見直し、新規ルートについて検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の指標は、路線毎の1便当たりの平均利用者数。 ・利用実態を分析され、運行形態を変更するなど見直しに取り組まれていることを評価します。 ・引き続き、利用者の増加及び減少の要因を丁寧に分析し、利便性の向上が図られることを期待します。 ・今後も、鹿屋市地域公共交通計画に基づき、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。 ・協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもらうための場として活用されることを期待します。 	
		かのやくりんバス (市街地巡回バス・北ルート) (鹿屋～茅場旭原～鹿屋) ・右まわり ・左まわり	・運転免許返納者に限り運賃無料としている。 (R2.4～R8.3) ・市ホームページやスマートフォンアプリに、運行ルートやダイヤ等を掲載し情報発信に努めた。 ・バス待合所利用状況調査やバス乗込調査を行い、利用者の声や要望等の把握に努めた。	A	B	・運行ルートや運行時刻の見直しを実施する。(市街地巡回ルート及び乗合ワゴンとバス停が重複している部分を見直し検討)		
		大始良地区くるりんバス (鹿屋～川西南～鹿屋) ・右まわり ・左まわり	・運転免許返納者に限り運賃無料としている。 (R2.4～R8.3) ・市ホームページやスマートフォンアプリに、運行ルートやダイヤ等を掲載し情報発信に努めた。 ・バス待合所利用状況調査やバス乗込調査を行い、利用者の声や要望等の把握に努めた。	A	A	・運行ルートや運行時刻の見直しを実施する。(市街地巡回ルート及び乗合ワゴンとバス停が重複している部分を見直し検討)		
		かのや市乗合ワゴン(花岡・上野線) (区域運行) 花岡～上野～西原～鹿屋	・町内会や民生委員を通じた周知活動や市民講座を開催するなど、利用者の掘り起こしを行った。 利便性向上と利用促進を図るため、乗降ポイントの追加を行った。	A	A	・利用者の掘り起こしを行う。 ・更なる利便性向上のため、かのや市乗合ワゴンの運行形態について見直し検討を行う。		
		かのや市乗合ワゴン(吾平・川東線) (区域運行) 吾平～川東～寿～鹿屋	・町内会や民生委員を通じた周知活動や市民講座を開催するなど、利用者の掘り起こしを行った。 利便性向上と利用促進を図るため、乗降ポイントの追加を行った。	A	A	・利用者の掘り起こしを行う。 ・更なる利便性向上のため、かのや市乗合ワゴンの運行形態について見直し検討を行う。		
		かのや市乗合ワゴン(輝北線) (区域運行) 輝北地区内	・町内会や民生委員を通じた周知活動や市民講座を開催するなど、利用者の掘り起こしを行った。 利便性向上と利用促進を図るため、乗降ポイントの追加を行った。	A	A	・利用者の掘り起こしを行う。 ・更なる利便性向上のため、かのや市乗合ワゴンの運行形態について見直し検討を行う。		
		かのや市乗合ワゴン(串良線) (区域運行) 串良～寿～鹿屋	・町内会や民生委員を通じた周知活動や市民講座を開催するなど、利用者の掘り起こしを行った。 利便性向上と利用促進を図るため、乗降ポイントの追加を行った。	A	A	・利用者の掘り起こしを行う。 ・更なる利便性向上のため、かのや市乗合ワゴンの運行形態について見直し検討を行う。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
垂水市地域公共交通活性化協議会	垂水市地域公共交通活性化協議会	事前予約型乗合タクシー運行 (市木地区～中央地区) 【市木ルート】	・利用者数の更なる増加を図るため、広報誌や市ホームページによる乗合タクシー制度等を周知 ・生涯学習出前講座や住民説明会を実施し、乗合タクシーの概要や乗り方等の周知 ・区域拡大へ向け、交通事業者への聞き取り、住民アンケート調査を実施	A	A	令和2年10月からの増便及び時間変更が目標達成につながったと考える。 また、本市地域公共交通計画に基づき、今後も継続して利便性の向上に努め、持続可能な運行を目指す。	・評価の指標は、路線毎の利用者数。 ・利用実態を分析され、運行区間や便数、運行時間の見直しに取り組みられていることを評価します。 ・引き続き、利用者の増加及び減少の要因を丁寧に分析し、利便性の向上が図られることを期待します。 ・今後も、垂水市地域公共交通計画に基づき、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。 ・協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもらうための場として活用されることを期待します。	
		事前予約型乗合タクシー運行 (大野地区～中央地区) 【大野ルート】		A	A	通学による安定的な利用者の確保に加え、令和2年10月からの増便及び時間変更が目標達成につながったと考える。 また、本市地域公共交通計画に基づき、今後も継続して利便性の向上に努め、持続可能な運行を目指す。		
		事前予約型乗合タクシー運行 (水之上地区～中央地区) 【内ノ野ルート】		A	C	目標未達の要因として、自然減や施設入所等が考えられる。今後は、地区行事や各種会合等において、利用促進を図っていきたい。 また、本市地域公共交通計画に基づき、今後も継続して利便性の向上に努め、地域の実情に応じた運行を検討したい。		
		事前予約型乗合タクシー運行 (水之上地区～中央地区) 【小谷ルート】		A	C	目標未達の要因として、自然減や施設入所等が考えられる。今後は、地区行事や各種会合等において、利用促進を図っていきたい。 また、本市地域公共交通計画に基づき、今後も継続して利便性の向上に努め、地域の実情に応じた運行を検討したい。		
沖永良部地域公共交通活性化協議会	沖永良部地域公共交通活性化協議会	知名～沖永良部空港間の路線バスの運行	路線バス利用者が全体的に増加しているが、自治体負担が増加していることから、より効率的で持続可能な路線の維持のためにデマンド運行を含めた実証実験の検討を進めた。	A	A	空港や官公庁所在地を通過する沖永良部島内の基幹路線として、航空ダイヤへの接続を考慮した運行を継続するとともに、効率的な路線再編においても基幹路線として確保維持を図るため、他の路線への接続などの利便性向上や中高生の利用増に取り組み。	・評価の指標は、路線毎の利用者数。 ・利用状況の要因を丁寧に分析し、利用実態を踏まえた地域にとって利便性の高い公共交通となるよう、見直しの検討が図られることを期待します。 ・今後も、沖永良部地域公共交通計画に基づき、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。 ・協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもらうための場として活用されることを期待します。	
		知名～国頭間の路線定期バスの運行		A	B	目標を下回ったことから、運行ルートの重複する新空港線との統廃合など含めた、効率的な路線の再編及び実証運行について検討する。		
		知名～永嶺～和泊間の路線定期バスの運行		A	A	目標を上回ったため、高齢化による免許変更、バス利用の増加が考えられる。高齢者や障害者に優しい、効率的で利便性のよい路線を検討する必要がある。		
		知名～後蘭～和泊間の路線定期バスの運行		A	A	目標を上回ったため、高齢化による免許変更、バス利用の増加が考えられる。高齢者や障害者に優しい、効率的で利便性のよい路線を検討する必要がある。		
		知名～下平川～和泊間の路線定期バスの運行		A	A	目標を上回ったため、高齢化による免許変更、バス利用の増加が考えられる。高齢者や障害者に優しい、効率的で利便性のよい路線を検討する必要がある。		
		和泊～伊延港間、和泊～和泊港・伊延港間、知名～知名港間の路線不定期バスの運行	定期航路線を利用する観光客や港までの移動手段の無い高齢者等にとって必要な路線であることから、引き続き広報等を行い利用促進を図る。	A	A	天候等による寄港地変更にも対応できるデマンド運行により目標を達成できた。利用者の利便性向上に寄与していることから、引き続き路線の確保維持を図る。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点		
伊佐市地域公共交通活性化協議会	伊佐市地域公共交通活性化協議会	大口地区市街地～山野地区の運行	エリア再編に合わせた地区別説明会の開催、福祉関係者等への周知及び刷新した時刻表を公共施設等へ配布し、認知度向上及び利用促進に取り組んだ。	A	A	自治会等への個別説明会や福祉関係者を中心に周知を継続し、新たな利用者発掘に努める。	・評価の指標は、区域については運行回数、路線については1運行当たりの輸送人員。 ・利用実態を分析され、利便性の高い公共交通となるよう、運行エリア等見直しに取り組みられていることを評価します。 ・引き続き、利用者の増加及び減少の要因を丁寧に分析し、利便性の向上が図られることを期待します。 ・伊佐市地域公共交通計画並びに今年度に策定された利便増進実施計画に基づき、更なる利用者利便の増進と持続可能な旅客運送サービスの提供の確保がなされることを期待します。 ・協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもらうための場として活用されることを期待します。	
		大口地区市街地～平出水地区及び羽月北地区の運行		A	B			
		菱刈地区市街地及び羽月地区市街地～田中地区及び下手地区の運行		A	B			
		菱刈地区市街地及び羽月地区市街地～徳辺地区及び湯之尾地区の運行		A	B			
		羽月地区市街地～曾木地区及び針持地区の運行		A	C			
		菱刈地区市街地及び羽月地区市街地～本城地区及び永池地区の運行		A	B			
		大口中心地～青木篠原地区循環運行		A	C			
さつま町地域公共交通活性化協議会	さつま町地域公共交通活性化協議会	神子・鶴田・湯田線(乗合タクシー)	利用者の増減の要因を分析し、出前講座を活用した利用啓発に取り組んだ。地域を発着地とした利用例や地域間幹線系統への乗り継ぎ例等も示し、乗合タクシーだけでなく交通政策全体の利用啓発に努めた。	A	B	高齢者担当部署及び福祉部署との連携を図り引き続き、地域サロンなどの個別団体への啓発活動を継続していく。住民同士で買い物グループを作るなどの例を示しながら、1便あたりの乗合人数及び利用者数の増を図る。	・評価の指標は、各路線毎の利用者数。 ・利用促進のため、町内の関係部局と連携した啓発活動や出前講座の取組について評価します。 ・引き続き、利用者の増加及び減少の要因を丁寧に分析し、利便性の向上が図られることを期待します。 ・今後も、さつま町地域公共交通計画に基づき、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。 ・協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもらうための場として活用されることを期待します。	
		神子～旧宮之城駅の運行		A	C			
		上狩宿・熊田線(乗合タクシー)		A	C			
		上狩宿～旧宮之城駅の運行		A	C			
		段・薬師線(乗合タクシー)		A	C			
		段～旧宮之城駅の運行		A	C			
栗野線(コミュニティバス) あじさい団地入口～屋地本町の運行	一般利用者(大人)が少ない要因を分析し、出前講座を活用した利用啓発に取り組んだ。	A	C	一般利用者(大人)が少ない。引き続き、地域サロンなどの個別団体へコミュニティバスの運行時間帯での活用例を示し、一般(大人)利用の普及に努めていく。				

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		金山線(乗合タクシー) 金山～旧宮之城駅の運行	利用者の増減の要因を分析し、出前講座を活用した利用啓発に取り組んだ。地域を発着地とした利用例や地域間幹線系統への乗り継ぎ例等も示し、乗合タクシーだけでなく交通政策全体の利用啓発に努めた。	A	A	高齢者担当部署及び福祉部署との連携を図り引き続き、地域サロンなどの個別団体への啓発活動を継続していく。住民同士で買い物グループを作るなどの例を示しながら、1便あたりの乗合人数及び利用者数の増を図る。		
		中津川・白猿・佐志線(乗合タクシー) 中津川から旧宮之城駅の運行		A	B			
		中津川線(コミュニティバス) 北方自治公民館～屋地本町の運行	一般利用者(大人)が少ない要因を分析し、出前講座を活用した利用啓発に取り組んだ。	A	A	一般利用者(大人)が少ない。引き続き、地域サロンなどの個別団体へコミュニティバスの運行時間帯での活用例を示し、一般(大人)利用の普及に努めていく。		
		泊野・白男川線(乗合タクシー) 泊野～旧宮之城駅の運行	利用者の増減の要因を分析し、出前講座を活用した利用啓発に取り組んだ。地域を発着地とした利用例や地域間幹線系統への乗り継ぎ例等も示し、乗合タクシーだけでなく交通政策全体の利用啓発に努めた。	A	C	高齢者担当部署及び福祉部署との連携を図り引き続き、地域サロンなどの個別団体への啓発活動を継続していく。住民同士で買い物グループを作るなどの例を示しながら、1便あたりの乗合人数及び利用者数の増を図る。		
		山崎線(乗合タクシー) 山崎～旧宮之城駅の運行		A	B			
		登尾線(乗合タクシー) 登尾～旧宮之城駅の運行	利用者の増減の要因を分析し、出前講座を活用した利用啓発に取り組んだ。地域を発着地とした利用例や地域間幹線系統への乗り継ぎ例等も示し、乗合タクシーだけでなく交通政策全体の利用啓発に努めた。	A	A	高齢者担当部署及び福祉部署との連携を図り引き続き、地域サロンなどの個別団体への啓発活動を継続していく。住民同士で買い物グループを作るなどの例を示しながら、1便あたりの乗合人数及び利用者数の増を図る。		
		柘野・紫尾線(乗合タクシー) 柘野～旧宮之城駅の運行		A	B			
		登尾線(コミュニティバス) 登尾～屋地本町の運行		A	B			
		柘野・紫尾線(コミュニティバス) 市野～屋地本町の運行	一般利用者(大人)が少ない要因を分析し、出前講座を活用した利用啓発に取り組んだ。	A	C	一般利用者(大人)が少ない。引き続き、地域サロンなどの個別団体へコミュニティバスの運行時間帯での活用例を示し、一般(大人)利用の普及に努めていく。		
		北原線(コミュニティバス) 牧之峰～屋地本町の運行		A	A			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
阿久根市地域公共交通活性化協議会	阿久根市地域公共交通活性化協議会	脇本北部系統 八郷～脇本地区公民館間の区域内運行	制度の周知を図るため、市ホームページ及び広報誌への掲載を行った。また、買物弱者支援という観点からも北薩地域共生・協働推進協議会及び北薩地域中山間地域等集落対策・空家等対策推進地域会議に参加し、意見交換を行った。	A	C	年間利用者数における目標達成状況が19.3%と昨年度より利用者数が減少している。利用者の固定化、リピーターの高齢化による、外出回数の減少が原因であると考えられる。令和8年度では新たな利用者確保に向けて、対象区において出前講座等での周知及び利用しやすい運行時間の検討に努めたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の指標は、1便当たりの平均乗車人数。 ・利用状況の要因を丁寧に分析し、利用実態を踏まえた地域にとって利便性の高い公共交通となるよう、見直しの検討が図られることを期待します。 ・今後も、阿久根市地域公共交通計画に基づき、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。 ・協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもらうための場として活用されることを期待します。 	
		脇本西部系統 深田～脇本地区公民館間の区域内運行	制度の周知を図るため、市ホームページ及び広報誌への掲載を行った。また、新たな対象区においては出前講座を実施し、周知を図った。買物弱者支援という観点からも北薩地域共生・協働推進協議会及び北薩地域中山間地域等集落対策・空家等対策推進地域会議に参加し、意見交換を行った。	A	A	今年度から本系統に新たに黒之浜区、大谷区を対象区に追加したことにより、利用者数の増加につながった。令和8年度においても継続利用に向けて、対象区において出前講座等での周知に努めたい。		
		脇本東部(瀬之浦)系統 大洲川～脇本地区公民館間の区域内運行		A	B	年間利用者数における目標達成状況が75%で昨年度より利用者数が増加しているが目標値には届いていない。令和8年度においても継続利用、新たな利用者確保に向け、対象区において出前講座等での周知及び利用しやすい運行時間の検討に努めたい。		
		脇本東部(桐野)系統 桐野上～脇本地区公民館間の区域内運行		A	B	年間利用者数における目標達成状況が85.71%で昨年度より利用者数が増加しているが目標値には届いていない。令和8年度においても継続利用、新たな利用者確保に向け、対象区において出前講座等での周知及び利用しやすい運行時間の検討に努めたい。		
		西目・遠見ヶ岡・倉津系統 落～市民病院間の区域内運行		A	B	年間利用者数における目標達成状況が50.0%と昨年度より利用者数が減少している。利用者の固定化、リピーターの高齢化による、外出回数の減少が原因であると考えられる。令和8年度においても継続利用、新たな利用者確保に向け、対象区において出前講座等での周知及び利用しやすい運行時間の検討に努めたい。		
		多田・桑原城系統 丸内～市役所間の区域内運行	制度の周知を図るため、市ホームページ及び広報誌への掲載を行った。また、買物弱者支援という観点からも北薩地域共生・協働推進協議会及び北薩地域中山間地域等集落対策・空家等対策推進地域会議に参加し、意見交換を行った。	A	B	年間利用者数における目標達成状況が73.65%と昨年度より利用者数は増加しているが目標値には届いていない。令和8年度においても継続利用、新たな利用者確保に向け、対象区において出前講座等での周知及び利用しやすい運行時間の検討に努めたい。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		山下系統 尾崎～市民病院間 の区域内運行		A	A	年間利用者数及び年間運行回数共に目標値を上回る数となった。 令和8年度においても継続利用のために、対象区において出前講座等での周知及び利用しやすい運行時間の検討に努めたい。		
		田代系統 米次～ 市民病院間の区 域内運行		A	B	年間利用者数において目標達成状況は72.24%と昨年度より利用者数が増加しているが、目標値には届いていない。 令和8年度においても継続利用、新たな利用者確保に向け、対象区において出前講座等での周知及び利用しやすい運行時間の検討に努めたい。		
		鶴川内系統 木佐 木野～市民病院間 の区域内運行		A	B	年間利用者数における目標達成状況は75.45%と昨年度より利用者数が増加しているが、目標値には届いていない。 令和8年度においても継続利用、新たな利用者確保に向け、対象区において出前講座等での周知及び利用しやすい運行時間の検討に努めたい。		
いちき串木野市地 域公共交通会議	いちき串木野市 地域公共交通会議	いきいきタクシー 川上線の運行	前年の実績見込みを2.0人(1便当りの利用者数)とし、人口減少はあるが、目標値2.0人(前年比100%)以上とする。	A	C	令和7年度においては、各路線において目標は達成できなかったが、4路線のうち1路線において前年度より利用者が増、3路線において前年度より利用者数が減少した。 利用者減については、対象地域の人口減少が大きな要因であると推測される。 令和8年度以降においても、実績を基に評価を行うが、引き続き地域公共交通計画に基づいて事業を推進し、市広報紙、出前講座などを活用し路線のPRや利便性の向上を図り、事業の目標の設定及び達成に努める。	・評価の指標は、各路線毎の1便当りの利用者数。 ・各路線においての目標は達成できなかったとのことです が、一部路線については昨年度よりも利用者数が増加しているとのことです、引き続き周知活動に取り組み 利用促進が図られることを期待します。 ・今後も、いちき串木野市地域公共交通計画に基づき、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待 します。 ・協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取 組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもら うための場として活用されることを期待します。	
		いきいきタクシー 大里線の運行	前年の実績見込みを2.0人(1便当りの利用者数)とし、人口減少はあるが、目標値2.0人(前年比100%)以上とする。	A	C			
		いきいきタクシー 冠岳・生福・上名線 の運行	前年の実績見込みを2.0人(1便当りの利用者数)とし、人口減少はあるが、目標値2.0人(前年比100%)以上とする。	A	B			
		いきいきタクシー 旭線の運行	前年の実績見込みを2.0人(1便当りの利用者数)とし、人口減少はあるが、目標値2.0人(前年比100%)以上とする。	A	C			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点		
肝付町地域公共交通会議	肝付町地域公共交通会議	事前予約型乗合タクシー事業 辺塚～岸良～内之浦	【辺塚～岸良～内之浦】 町広報誌に掲載し、事業周知を図った。	A	B	広報誌やホームページ等での情報発信や利用方法の説明会などを行い利用促進を図る。 また、交通事業者の人手不足も課題となっているため、策定した地域公共交通計画に基づき事業を実施し、持続可能な公共交通サービスの提供を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 評価の指標は、各路線毎の利用者数。 利用者からの意見のとりまとめや対応マニュアルの作成など利用促進の取組について評価します。 引き続き、利用状況を丁寧に分析し、利便性の向上が図られることを期待します。 今後も、肝付町地域公共交通計画に基づき、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。 協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもらうための場として活用されることを期待します。 	
		おでかけタクシー事業 内之浦市街地	【内之浦市街地】 町広報誌に掲載し、事業周知を図った。 乗務員と連携することで、システムだけに頼らない、効率的な運行に努めた。					
日置市地域公共交通会議	日置市地域公共交通会議	事前予約型乗合タクシー事業 岸良～高山	【岸良～高山】 町広報誌に掲載し、事業周知を図った。	A	B	乗合タクシー制度の見直しを行ったため、本事業(系統)は令和6年11月30日をもって運行を終了	<ul style="list-style-type: none"> 評価指標は、各路線毎の運行回数。 利用実態を分析され、利用方法や予約方法の見直しに取り組みられていることを評価します。 引き続き、利用者の増加及び減少の要因を丁寧に分析し、利便性の向上が図られることを期待します。 今後も、日置市地域公共交通計画に基づき、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。 協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもらうための場として活用されることを期待します。 	
		おでかけタクシー事業 高山市街地 有明エリア 川上エリア	【高山市街地、有明・川上エリア】 町広報誌に掲載し、事業周知を図った。 乗務員と連携することで、システムだけに頼らない、効率的な運行に努めた。					
日置市地域公共交通会議	日置市地域公共交通会議	上神殿線	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通マップ・総合時刻表の配布2,500部 自治会や地区公民館へ出向いて出前講座を実施。 	A	A			
		中川・郡線		A	A			
		竹之山・土橋線		A	B			
		上・下方限線		A	B			
		坊野・扇尾・古城線		A	B			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		飯牟礼・住吉線		A	B			
		美山・大田・久木 野々線		A	A			
		平鹿倉・湯之元線		A	B			
		日添・田之尻線		A	B			
		和田線		A	B			
		藤元・野首線		A	A			
		坊野・田尻線		A	B			
		永吉・花田線		A	B			
		吹上・伊作線		A	B			
		日新線		A	B			
		日置線		A	A			
		吉利線		A	A			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		扇尾線		A	B			
		住吉線		A	A			
		上野・皆田線		A	B			
		高山・上市来(東市 来)線		A	A			
		高山・上市来(伊集 院)線		A	A			
		鶴丸線		A	B			
		江口・湯田線		A	B			
		南神之川・永山線		A	A			
		美山線		A	B			
		東市来北部エリア	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通マップ・総合時刻表の作成・配布20,000部 ・ひお吉号パンフレットの作成・配布30,000部 ・市広報紙での利用促進 ・自治会や地区公民館へ出向いて出前講座を実施。 	A	A	<p>本事業(系統)は令和6年12月から実証運行、令和7年2月から本格運行を行っている。しかし、制度の見直しに伴い新規利用者の獲得につながった一方、予約が取りづらいなどの意見もあり、既存利用者の利用離れも生じている。そのため、令和7年12月から運行時間及び日曜日の運行エリアを再度見直したところであり、今後は、引き続き見直し内容の周知等を行い利用者の獲得に努めるとともに、利用状況やニーズを踏まえて必要な制度の見直しを行い、住民の生活交通手段の確保・利便性の向上に努める。</p>		
		東市来南部エリア		A	A			
		伊集院北部エリア		A	A			

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		伊集院・日吉エリア		A	A			
		伊集院東部エリア		A	A			
		吹上北部エリア		A	A			
		吹上南部エリア		A	A			
南さつま市地域公共交通協議会	南さつま市地域公共交通協議会	坊津から加世田市街地の運行(中山線)	市内路線を含むバス時刻表を作成配布、バス時刻表のGooglemaps上検索データの更新、市HP等を活用した広報活動等を通じて、コミュニティバスの現状や利便性を伝えるなど、利用の普及を図った。	A	B	今後も利用者の利便性向上を図り利用者数増を目指す。乗込み調査等を実施し、利用者のニーズを適切に把握し、運行内容の見直しについても必要に応じ対応していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価指標は、各路線毎の利用者数。 ・利用実態を分析され、運行形態の見直しに取り組まれていることを評価します。 ・引き続き、利用者の増加及び減少の要因を丁寧に分析し、利便性の向上が図られることを期待します。 ・今後も、南さつま市地域公共交通計画に基づき、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。 ・協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもらうための場として活用されることを期待します。 	
		内山田から加世田市街地の運行(鉄山線)	市内路線を含むバス時刻表を作成配布、市HP等を活用した広報活動等を通じて、乗合タクシーの現状や利便性を伝えるなど、利用の普及を図った。	A	B	タクシー運転手についても不足している状況であり、事業者協力型自家用有償旅客運送などの実証状況を整理し、様々な方法を模索していく。		
		白川・大田・阿多・大坂から加世田市街地等の運行(白川線)	市内路線を含むバス時刻表を作成配布、市HP等を活用した広報活動等を通じて、乗合タクシーの現状や利便性を伝えるなど、利用の普及を図った。	A	B	路線の整理や乗降場所の見直しなども行うことで効果が出ているが、事業者協力型自家用有償旅客運送などの実証状況を整理し、様々な方法を模索していく。		
		池辺地区から加世田市街地等の運行(池辺線)	市内路線を含むバス時刻表を作成配布、市HP等を活用した広報活動等を通じて、乗合タクシーの現状や利便性を伝えるなど、利用の普及を図った。	A	B	バス運転手の不足の観点から予約型乗合タクシーへ移行したが、タクシー運転手についても不足している。事業者協力型自家用有償旅客運送などの実証状況を整理し、様々な方法を模索していく。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		秋目・大木場地区 から加世田市街地 の運行 (秋目・大木場線)	市内路線を含むバス時刻表を作成配布、市HP 等を活用した広報活動等を通じて、乗合タク シーの現状や利便性を伝えるなど、利用の普 及を図った。	A	B	バス運転手の不足の観点から予約型乗合タクシー へ移行したが、タクシー運転手についても不足して いる。事業者協力型自家用有償旅客運送などの実 証状況を整理し、様々な方法を模索していく。		
		高橋地区から加世 田市街地の運行 (高橋線)	市内路線を含むバス時刻表を作成配布、市HP 等を活用した広報活動等を通じて、乗合タク シーの現状や利便性を伝えるなど、利用の普 及を図った。	A	B	バス運転手の不足の観点から予約型乗合タクシー へ移行したが、タクシー運転手についても不足して いる。事業者協力型自家用有償旅客運送などの実 証状況を整理し、様々な方法を模索していく。		
		ふるさとバス蒲生・ 春花線(西回り)	前回は目標を達成したため、昨年度に引き続き コミュニティバス無料月間を実施するとともに、 ラジオや広報誌、始良市公式LINEによる周知 を行った。	A	A	目標達成できたが、引き続き利用促進のために、広 報・周知を図り、更なる乗車人数の増加策に取り組 む。		
		ふるさとバス蒲生・ 春花線(西回り)松 原地区経由	前回は目標未達成だったため、今年度も継続 して利用促進のためにコミュニティバス無料月 間を実施するとともに、ラジオや広報誌、始良 市公式LINEを活用した周知を行ったが、今回も 目標未達成だった。	A	C	1便/日のみの運行であるため、周知不足であるこ とが原因と考えられる。更なる広報・周知を図り、乗 車人数の増加策に取り組む。		
		ふるさとバス蒲生・ 春花線(東回り)	前回は目標を達成したため、昨年度に引き続き コミュニティバス無料月間を実施するとともに、 ラジオや広報誌、始良市公式LINEによる周知 を行った。	A	A	目標達成できたが、引き続き利用促進のために、広 報・周知を図り、更なる乗車人数の増加策に取り組 む。		
		上名地区予約型乗 合タクシー	前回は目標未達成だったが、利用促進のため のラジオを活用した周知を行い、目標を達成で きた。	A	A	目標達成できたが、引き続き利用促進のために、広 報・周知を図り、更なる乗車人数の増加及び相乗り 率の向上に取り組む。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点		
始良市地域公共交通会議	始良市地域公共交通会議	永原校区地区予約型乗合タクシー(辺川方面)	前回は目標を達成できたため、今年度も継続して利用促進のためにラジオを活用した周知を行ったが、目標未達成だった。	A	B	運行距離と比例して運行経費が増加していることが目標未達成の原因であると考えられる。広報・周知による利用促進を図り、相乗り率の向上に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の指標は、各路線毎の1便当たりの乗車人数(バス)、運行収支率(乗合タクシー)。 ・利用促進のため、コミュニティバス無料月間の実施やラジオ、広報誌、公式LINEによる啓発活動の取組について評価します。 ・引き続き、利用者の増加及び減少の要因を丁寧に分析し、利便性の向上が図られることを期待します。 ・今後も、始良市地域公共交通計画に基づき、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。 ・協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもらうための場として活用されることを期待します。 	
		北山校区(木津志方面)予約型乗合タクシー	前回は目標未達成だったため、継続して利用促進のためにラジオを活用した周知を行ったが、目標未達成だった。	A	B	運行距離と比例して運行経費が増加していることが目標未達成の原因であると考えられる。広報・周知による利用促進を図り、相乗り率の向上に取り組む。		
		北山校区(木場方面)予約型乗合タクシー	前回は目標未達成だったが、利用促進のためのラジオを活用した周知を行い、目標を達成できた。	A	A	目標達成できたが、引き続き利用促進のために、広報・周知を図り、更なる乗車人数の増加及び相乗り率の向上に取り組む。		
		蒲生地区巡回バス(蒲生・山田・帖佐線)	前回は目標を達成したため、昨年度に引き続きコミュニティバス無料月間を実施するとともに、ラジオや広報誌、始良市公式LINEによる周知を行った。	A	A	目標達成できたが、引き続き利用促進のために、広報・周知を図り、更なる乗車人数の増加策に取り組む。		
		加治木地区循環バス	前回は目標を達成したため、昨年度に引き続きコミュニティバス無料月間を実施するとともに、ラジオや広報誌、始良市公式LINEによる周知を行った。	A	A	目標達成できたが、引き続き利用促進のために、広報・周知を図り、更なる乗車人数の増加策に取り組む。		
		重富地区循環バス	前回は目標を達成したため、昨年度に引き続きコミュニティバス無料月間を実施するとともに、ラジオや広報誌、始良市公式LINEによる周知を行ったが、目標未達成だった。	A	B	路線や時刻表に関する要望が多く寄せられているため、路線等の変更を検討し、乗車人数の増加に取り組む。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効 果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
		新留地区予約型乗 合タクシー	前回は目標未達成だったが、利用促進のため のラジオを活用した周知を行い、目標を達成で きた。	A	A	目標達成できたが、引き続き利用促進のために、広 報・周知を図り、更なる乗車人数の増加及び相乗り 率の向上に取り組む。		
		大山地区予約型乗 合タクシー	前回は目標未達成だったため、今年度も継続 して利用促進のためにラジオを活用した周知を 行ったが、今回も目標未達成だった。	A	B	運行距離と比例して運行経費が増加していることが 目標未達成の原因であると考えられる。広報・周知 による利用促進を図り、相乗り率の向上に取り組 む。		
		久末地区高牧集落 予約型乗合タク シー	前回は目標未達成だったため、今年度も継続 して利用促進のためにラジオを活用した周知を 行ったが、今回も目標未達成だった。	A	C	利用が1件もない状態。対象地区住民に対する広 報・周知を図り、利用を呼び掛ける。		
		永原校区地区予約 型乗合タクシー(菖 蒲谷・嶽方面)	前回は目標未達成だったが、利用促進のため のラジオを活用した周知を行い、目標を達成で きた。	A	A	目標達成できたが、引き続き利用促進のために、広 報・周知を図り、更なる乗車人数の増加及び相乗り 率の向上に取り組む。		
		竜門校区予約型乗 合タクシー(市来 原・迫・西浦方面)	前回は目標を達成。今年度も継続して利用促 進のためにラジオを活用した周知を行い、目標 を達成できた。	A	A	目標達成できたが、引き続き利用促進のために、広 報・周知を図り、更なる乗車人数の増加及び相乗り 率の向上に取り組む。		
		中野地区予約型乗 合タクシー	前回は目標を達成できたため、今年度も継続し て利用促進のためにラジオを活用した周知を 行ったが、目標未達成だった。	A	B	運行距離と比例して運行経費が増加していることが 目標未達成の原因であると考えられる。広報・周知 による利用促進を図り、相乗り率の向上に取り組 む。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	協議会における事業評価結果				地方運輸局等における 二次評価結果	備考
			③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業 実施の 適切性	⑤目標・効果 達成状況	⑥事業の今後の改善点	評価結果	
指宿市地域公共交通活性化協議会	指宿市地域公共交通活性化協議会	コミュニティバス (イッシーバス)の 運行 (1) 小牧～ニシム タ指宿店線 (2) 川尻～なのはな館線	○ 指宿市のりものガイドの新刊を発行し、医療機関を中心に配布することで、メインターゲットとなる高齢者への周知活動を行った。 ○ 令和8年10月を目途に、コミュニティバス(イッシーバス)から、他の交通モードへ転換を図る予定。 これに併せて既存の乗合タクシーについても見直しを行い、路線の新設・再編や停留所の見直しを併せて行う予定。	A A	B B	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年3月に策定した指宿市地域公共交通計画に基づき、目標達成に向けたマネジメントの強化を図る。 地域公共交通の利用促進対策を講じる。 <ol style="list-style-type: none"> 指宿市のりものガイドの発行 出前講座や住民との意見交換会の実施 地域の方の要望に応じ、随時運行ルートの変更等を行う。 来庁できない利用希望者に対する、現地説明及び申込受付 令和8年10月を目途に、イッシーバスを廃止して、地域公共交通体系の大幅見直しを行う予定 	<ul style="list-style-type: none"> 評価の指標は1便当たりの乗車人員。 指宿市のりものガイドを医療機関を中心に配布するなど効果的な周知活動に努められていることを評価します。 令和8年度に再編を計画されていることですので、引き続き、指宿市地域公共交通計画に基づき、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。 協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもらうための場として活用されることを期待します。 	
		予約型乗合タクシーの運行 (1) 畠久保・西方線		A	B			
		予約型乗合タクシーの運行 (1) 池田線 コミュニティバス (イッシーバス)の 運行 (1) 小牧～ニシム タ指宿店線(補完)		A B	A B			
		予約型乗合タクシーの運行 (1) 魚見線 (2) 鰻線 (3) 尾下線		A A A	B A B			
		予約型乗合タクシーの運行 (1) 開間線 コミュニティバス (イッシーバス)の 運行 (1) 川尻～なのはな館線(補完)		A A	B B			
志布志市地域公共交通活性化協議会	志布志市地域公共交通活性化協議会	市内全域でチョイソコしぶしを運行 土日祝日を除く午前9時から午後4時まで運行	前回の事業評価結果を踏まえて、利用者向けのアンケートを実施した。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果を踏まえ、運行範囲の拡大及び運行時間の見直しに向けて検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価の指標は乗合率。 アンケートにより利用実態を分析され、見直しに取り組まれていることを評価します。 引き続き、その要因を丁寧に分析し、利便性の向上の取組を期待します。 今後も、志布志市地域公共交通計画に基づき、持続可能な旅客運送サービスが提供されることを期待します。 協議会が、日々の公共交通の利用状況や関係する取組の進捗状況を関係者間で共有し、正しく認識してもらうための場として活用されることを期待します。 	